

授 業 科 目 の 概 要				
(現代システム科学域 知識情報システム学類)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容		備考
専門 科目	学域 共通 科目	情報とサステイ ナビリティ	<授業形態>講義 <目標> 情報通信技術(ICT)が情報のリアルタイムの入手、共有、発信、蓄積、解析、活用等を容易にすることによって、個のエンパワーメントや利便性の向上、経済・社会活動の効率的遂行を可能にするなど、ICTの利活用による持続的な成長の実現について理解させる。また、ICTと関連する分野についての政策動向、技術動向などについて概説的な講義を行い、ICT分野の俯瞰的な全体像を理解させる。 <授業計画の概要> オムニバス方式全15回 ・ (2 宮本貴朗, 1 辻洋/3回) ICTの利活用による持続的な成長の実現、情報通信の現状と政策動向 ・ (3 荒木長照/2回) ICTとマーケティング ・ (7 真嶋由貴恵/2回) ヘルスケアの情報化の現状と課題、進む方向 ・ (4 菅野正嗣/2回) センサネットワーク技術の応用分野としての、スマートメータやスマートホームを活用した省エネルギーや新しいサービスの実現 ・ (8 森田裕之/2回) 企業経営における戦略的優位性の獲得・維持とICTの利活 ・ (5 瀬田和久/2回) これからのICTと知識共創社会 (セマンティック Web, ヒトの知的活動を活性化するシステム) ・ (6 中島智晴/2回) ICT と知能化技術	オムニバス方式
専門 科目	学域 共通 科目	環境とサステイ ナビリティ	<授業形態>講義 <目標>現代社会におけるサステイナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会科学的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 現代社会におけるサステイナビリティの重要性に関する授業の後、環境システムに関して自然科学、科学技術の役割を含む社会科学、人間科学の各側面から講義する。 (オムニバス方式/全15回) (21 大塚耕司/4回) 現代社会におけるサステイナビリティの重要性および環境システムの自然科学的側面からの理解について講義する。 (40 森岡正博/4回) 環境システムの社会科学的側面からの理解について講義する。 (25 斎藤 憲/3回) 環境システムにおける科学技術の役割について講義する。 (35 牧岡省吾/4回) 環境システムの人間科学的側面からの理解について講義する。	オムニバス方式
専門 科目	学域 共通 科目	マネジメントとサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標>企業は現代の社会生活にとって、なくてはならない存在であるが、その運営により多くの問題も生じている。自然環境の破壊をはじめとする環境問題や働き過ぎによる人間性の破壊などである。この授業ではこれらの問題を企業の持続可能な成長（サステイナビリティ）の観点から論じていく。 <授業計画の概要> ・ マネジメントとは何か ・ 持続可能な成長とは何か ・ オープン・システムとしての企業 ・ 企業家による事業創造 ・ 社会と企業のかかわり ・ 企業倫理 ・ CSR（企業の社会的責任） ・ 環境経営	
専門 科目	学域 共通 科目	環境倫理学	<授業形態>講義 <目標>環境思想の成立史と、環境倫理学における基本的な命題・論理構造について取り上げ、さらに従来の環境倫理学では捉えることができなかった、実践倫理、人間存在の倫理、倫理の揺らぎといった発展的観点について紹介する。それによって、環境の時代を目指して環境倫理学が成そうとしたこと、成せなかったことを理解し、「環境の世紀」を生きるための心構えを養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・ 導入—環境倫理とは何か ・ 環境思想の誕生—環境の60年代/70年代 ・ 古典的環境倫理の諸問題 ・ 「自然の価値」と自然の権利論 ・ 「世代間倫理」とサステイナビリティ ・ 「生命倫理」とテクノロジー ・ ディープエコロジーと「生命中心主義」の世界像 ・ 「環境プラグマティズム」と実践倫理 ・ 倫理の揺らぎと現代社会 ・ 人間存在における倫理の再考—「生物倫理」/「素朴倫理」/「普遍倫理」 ・ まとめ—「環境の世紀」を生きるための倫理	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域共通科目	ミクロ経済学入門	<授業形態>講義 <目標>ミクロ経済学の基礎を修得する。特に部分均衡分析のフレームワークの理解を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・経済学およびミクロ経済学の目的と方法 ・経済主体と財・サービス ・需要と供給 ・消費者の行動、効用、限界効用、需要曲線、消費者余剰 ・生産者の行動、技術、費用、限界費用、供給曲線、生産者余剰 ・市場均衡と資源配分、社会的余剰 ・課税、自由貿易の余剰分析 ・不完全競争、外部性、情報の経済学への導入	
専門科目	学域共通科目	マクロ経済学入門	<授業形態>講義 <目標>マネジメント学類の学生が知っておくべきマクロ経済学の基礎を講義する。マクロ的な経済思考力とともに、いわゆる経済常識を身につけることにより、絶えず変化しているマクロ経済の動きを、正しく捉えることのできる能力の基礎を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>GDP・物価・貯蓄・投資といったマクロ経済の基本概念を講義し、日本経済の現実の数値と照合する。消費関数と所得決定、貯蓄と投資の関係、貨幣の定義とその需要・供給を説明した上で、総需要と総供給がどのように均衡するかを説明する。	
専門科目	学域共通科目	法律学入門	<授業形態>講義 <目標>この科目では、法的な論理的思考能力と推論力との養成を最大の眼目としつつ、基礎的・基本的な法律知識を正確に身に付け、自分に降り掛かった法的火の粉（問題）を最低限自分で払いのける（解決する）糸口を見出す力を養っていく。この過程の中で、単なる法的知識の断片的理解にとどまらない、理論的・体系的な知識の構築と応用力を養うとともに、法的観点から、国内・国際社会を見て取ることのできる広い視野を身につける。 <授業計画の概要>身近な話題を取り上げ、そこに潜む法的諸問題をクローズアップさせ、その解決のために必要とされる法的な知識を得て、推論を働かせながら結論へと至るプロセスを重視した講義をおこなう。具体的には、法の定義と社会における役割・機能から論じ、メースメソッド（case method）方式により、憲法（人権法を含む）・民法・刑法・商法・税法あるいは環境法等の具体的法分野を鳥瞰し、法が国内および国際社会で果たす役割について理解を深めて行く。	
専門科目	学類専門科目	アルゴリズムとデータ構造	<授業形態>講義 <目標>正しいプログラムの動作原理であるアルゴリズムと、アルゴリズムを効率的なプログラムとして実装する際に不可欠なデータ構造について、系統的に学習する。講義では、はじめにアルゴリズムの効率を測る計算量の概念を与えた上で、さまざまな代表的なデータ構造を解説する。その後、整列やグラフ・ネットワークにおける最適化問題など実用的で重要な例を取り上げ、アルゴリズムの基礎的な設計技法とともに、適切なデータ構造が効率的なアルゴリズムを実現することを理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・アルゴリズムとデータ構造、計算量の関係 ・基本的なデータ構造 ・応用的なデータ構造 ・さまざまな実用的な問題の紹介 ・代表的な問題に対するアルゴリズムの具体例 ・効率的なアルゴリズムの設計技法	
専門科目	学類専門科目	マルチメディア情報処理	<授業形態>講義 <目標>近年、映像、音声、文字メディア等を含むマルチメディア情報が情報システムでよく用いられている。本講義では、マルチメディア情報処理における基礎的な技術を習得させるとともに、ヒューマンインターフェースに関して、具備すべき条件と実現技術、およびそれらを応用した具体的なシステムについて理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・マルチメディア情報の入力技術 ・表現方法（符号化、データ圧縮技術） ・マルチメディア情報の出力技術 ・ヒューマンコンピュータインタラクション	
専門科目	学類専門科目	プログラミング言語概論	<授業形態>講義 <授業目標>プログラミング言語の体系を理解するため、まずプログラミング言語の歴史と各種言語に共通する概念や機能と、言語の仕組みや実行時のプログラムの振舞いについて学習する。次に、プログラミングスタイルの概観を理解するため、現存するプログラミング言語とそれらの応用例につき学習する。これらによりプログラミング言語を客観的な対象物として扱う態度を身につける。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・プログラミングの歴史 ・共通する概念、機能 ・言語の仕組み、実行時の振舞い ・実際のプログラム言語と応用	年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	情報セキュリティ	<授業形態>講義 <目標>情報システムの専門性について総合的に理解させ、情報セキュリティに関して高い技術者倫理を持つ高度な専門技術者として継続的な研鑽を続けることができる基礎的知識を習得させる。特に、情報システムをエンドユーザとして利用するときだけではなく、企画・計画・運営する際に必要となる情報セキュリティに関する知識を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムに関する倫理、関連法規 ・知的財産権 ・個人情報保護 ・コンピュータ犯罪 ・インターネットと社会との関わり ・情報セキュリティ技術	
専門科目	学類専門科目	オペレーティングシステム	<授業形態>講義 <目標>オペレーティングシステムのための基本的概念と基本的アルゴリズムについて理解させる。オペレーティングシステムの歴史、基本構造、プロセス管理、メモリ管理、入出力管理、ファイルシステムなどについて講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・オペレーティングシステムの基礎概念 ・プロセス管理 ・メモリ管理 ・入出力管理 ・ファイルシステム	
専門科目	学類専門科目	ソフトウェア工学	<授業形態>講義 <授業目標>ソフトウェアとは何か、どのような特徴があるかを理解させ、効率的に分析・設計する手法について学習させる。これによりオブジェクト指向などの概念を用いて、ソフトウェアをモデル化し、分析、設計、実装、テストができるようにする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・情報システムの概要 ・ソフトウェア要求分析とモデル ・オブジェクト指向と統一モデリング言語UML ・ソフトウェア設計・管理 ・データベースと情報検索 ・ソフトウェア検証とテスト	
専門科目	学類専門科目	オートマトンと形式言語	<授業形態>講義 <授業目標>計算機科学における最も重要な基礎的分野である言語とその処理機構ならびに計算アルゴリズムの定式化手法を理解させる。基本的なオートマトンと基本的な形式文法の基本概念、動作原理を講義する。また、同等のレベルのオートマトンと形式文法が相互に変換可能な仕組みを理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・オートマトンと形式言語の基本概念 ・有限オートマトンと正則文法 ・プッシュダウンオートマトンと文脈自由文法 ・線形拘束オートマトン、チューリング機械の基本概念 ・文脈依存文法、句構造文法の基本概念	年度によって交代で担当
専門科目	学類専門科目	知識情報システムの企画・計画	<授業形態>講義 <目標>組織活動とそれを支える情報システム導入の歴史、経営目的から必要とされる情報システムの機能要件や構成を決定する企画・計画策定に関する知識、プロジェクト管理（工程管理）・品質展開に関連するシステム技術の概要を講義する。さらにケーススタディを用いて企画書を作成する力を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・組織活動と情報 ・経営戦略と情報システム ・インフラストラクチャ計画 ・アプリケーション計画 ・ERP:Enterprise Resource Planning ・サプライチェーンマネジメント ・電子商取引 ・プロジェクト管理技法PERT ・品質展開技法QFD	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	知識情報システムの開発・運営	<授業形態>講義 <目標>情報システムを開発・運営する上で必要となる分析、設計、開発、運営などの各プロセスを、現代の情報システム開発・運営において適用されている代表的な方法論及び技法を通じて習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・構造化分析、オブジェクト指向モデルなどのシステム分析・モデル化手法 ・仕様記述法 ・問題の複雑さや情報システムの品質尺度と評価 ・開発工程とその管理 ・情報システム開発における標準化 ・ソフトウェア保守 ・エンドユーザコンピューティング ・情報システム部門の役割	
専門科目	学類専門科目	情報システム構成論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、コンピュータシステムやネットワークの集合体である大規模な情報システム構成の基本的な特徴を理解することを目標とする。情報システムには、分散処理や並列処理などのさまざまな処理形態があることを理解させ、その構成要素について講義する。また、情報システムの性能評価手法や評価指標について解説する。さらに、情報システムの信頼性についての基本的な事項について解説する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムの構成 ・システム性能評価 ・情報システムの信頼性	
専門科目	学類専門科目	Webサービスデザイン	<授業形態>講義・演習 <目標>本講義ではWebサービスを構成するWebアプリケーションの開発技術について概説する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・Webアプリケーションの仕組み（MVC） ・クライアントサイド技術（ページレイアウト、マルチメディア・リッチコンテンツ） ・サーバサイド技術（システムプログラミング、データベース） ・リッチクライアント技術（XML, DOM, Ajax, RIA） ・Webサービスデザイン（マッシュアップ）	講義 7.5時間 演習 7.5時間
専門科目	学類専門科目	人工知能	<授業形態>講義 <目標>知能システムを理解するための基礎知識や、計算機における知識の表現法とそれに基づく推論法やその応用を修得させることを目標とする。まず、記号処理に基づく知識表現と推論の方法を理解させ、単純形式での知能情報処理方法を修得させる。次に、機械学習に代表されるような、数値処理に基づく知識表現と推論の方法を理解させ、パターン識別や回帰における実装方法を講義する。 <授業計画の概要> ・人工知能の研究の目標と歴史 ・問題の表現と解の探索 ・プランニングと意思決定 ・知識獲得と機械学習 ・データマイニング ・エージェントとマルチエージェント	
専門科目	学類専門科目	機械学習	<授業形態>講義 <目標>大規模データを解析するために必要となる機械学習について、各種の機械学習の手法を解説し、具体例を交えて講義する。機械学習を用いた問題解決に際し、自らプログラムを作成できるように各手法を学習させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・最適化数学、情報理論、確率の基礎 ・教師なし学習 ・教師あり学習 ・応用事例	
専門科目	学類専門科目	知覚情報処理	<授業形態>講義 <授業目標>知覚情報処理とは、各種センサーから得たデータを処理し、有用な知識を得るプロセスである。本講義では、知覚情報処理の基本であるパターン認識について学習する。加えて、知覚情報のうち視覚情報に焦点をあて、プログラミングなどを通して実際の処理プロセスに習熟する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・学習と識別関数 ・誤差に基づく学習 ・識別部の設計 ・特徴の評価 ・ベイズ誤り確率 ・特徴空間の変換 ・部分空間法 ・学習アルゴリズムの一般化 ・学習アルゴリズムとベイズ決定則	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	計算知能	<授業形態>講義 <授業目標>パターン識別問題や最適化問題、関数近似問題に対して、計算知能を構成するニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、ファジィシステムを用いて知的システムを構築する方法について論じる。計算知能の適用方法を理解させると同時に、具体的な問題に対する計算知能の実装能力を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・パーセプトロン ・多層階層型ニューラルネットワーク ・相互結合型ニューラルネットワーク ・遺伝的アルゴリズム ・遺伝的アルゴリズムの実装 ・ファジィシステム ・ファジィ演算	年度によって交代で担当
専門科目	学類専門科目	知識科学概論	<授業形態>講義 <目標>認知科学、言語学、知識の構成原理を議論する哲学などの素養を身につけ、知識の成り立ち、知識創造方法論、ならびに知識を中心においたシステムの基礎理論の習得を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・知識とは ・知識創造論 ・エキスパートシステム ・知識表現 ・自然言語処理 ・概念依存関係理論	
専門科目	学類専門科目	知識モデリング	<授業形態>講義 <目標>これまでのアプリケーション領域のモデリングのみでなく、ユーザの知識や認知過程（ユーザモデル）のモデリング手法に精通することが人を系に含めた高度な知識情報システムの開発では重要となる。本講義では、知識モデリングの基礎理論であるオントロジーに関する理解を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・知識モデリングとは ・知識の共有と再利用 ・問題解決と知識 ・タスクモデリング ・ドメインモデリング ・認知モデリング ・オントロジー	
専門科目	学類専門科目	自然言語処理	<授業形態>講義 <目標>人間の言語を計算機的に処理するための理論・技術を扱う自然言語処理の諸分野について講義する。語という小さな単位から文章という大きな単位までの解析法を概観した後、その応用としての機械翻訳などの基本的な手法を紹介し、それらを知識情報システム構築で活用するための基礎を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・チャンキングの技法 ・形態素解析と係り受け解析 ・統語解析 ・意味解析 ・談話解析 ・規則に基づく処理と統計学習に基づく処理 ・機械翻訳 ・対話システム ・自動要約 ・多言語情報処理	
専門科目	学類専門科目	ヒューマンコンピュータインタラクション	<授業形態>講義 <目標>人間の物理的および認知的特性に基づき、HCI（ヒューマンコンピュータインタラクション）の概要、関連分野、基礎技術、システムデザイン、評価手法について講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 1. HCI（ヒューマンコンピュータインタラクション）とは何か 2. 人間工学概説 3. 感性工学概説 4. 情報処理システムとしての人間 5. インタフェースの仕組み 6. 代表的なインタフェースを用いた対話環境 7. 情報の可視化技術 8. 自然なコミュニケーションのためのインタフェース 9. 人工現実（Virtual Reality） 10. 実世界指向インタフェース 11. マルチモーダルインタフェース 12. 対話型システムのデザイン 13. 協調的インタラクションの支援手法・アプリケーション 14. インタフェースの評価技法（質問紙評価） 15. インタフェースの評価技法（SD法・官能評価）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	情報技術と企業活動	<授業形態>講義 <目標>情報技術は、企業の生産性、費用、価値、組織改革などに影響を与える。アナログ時代の技術に固執してデジタル化の波に乗り遅れた企業は国際的な地位を下げている。この授業では金融業や製造業やネットビジネスなどの具体的事例や最新の研究成果を紹介し、情報技術をどのように適用すれば企業活動に効果を持ちうるのかを講義する。 <授業計画の概要>具体的には、情報技術、プロセス変革、生産性上昇効果、費用削減効果、企業価値増大効果、雇用効果、組織変革、モジュール化、すり合わせなどについて講義を行う。	
専門科目	学類専門科目	情報システム評価	<授業形態>講義 <目標>情報システムのコスト見積もりの精度が低いと、予定以上の開発期間とコストを強いられることになる。CIO(最高情報責任者)が経営者に情報システム導入の必要性を説くためにはその効果を具体的に示す必要がある。実際、経営者が情報システムの効果を実感できていない企業は多い。これは情報システム評価手法が定着していないためである。本講義では情報システムの定量的評価手法と定性的評価手法の概略を学び、各手法の利点と欠点を理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・見積手法（ファンクションポイント、COCOMO II, WBS） ・インフォメーションエコノミックス ・バランス・スコアカード ・経済価値評価手法（費用対効果分析, NPV, IRR） ・非財務効果評価手法（AHP, KPI）	
専門科目	学類専門科目	マーケティング	<授業形態>講義 <目標>企業の市場環境に対する適応行動を分析するための理論を修得させる。 <授業計画の概要>企業が適応行動をとるためには消費者行動への深い理解が避けられない。本稿では消費者行動モデルをベースにしたマーケティング理論を講義する。具体的には、マーケティングの考え方、消費者情報処理と知識構造、消費者データの情報処理、マーケティング意思決定、マーケティング戦略、などの基本的な理論を解説し、応用例として、サービスマーケティング、インターネットマーケティングなどを解説する。	
専門科目	学類専門科目	意思決定論	<授業形態>講義 <目標>多くの選択肢から合理的な行動を選択するための意思決定の基礎となる考え方を修得させる。 <授業計画の概要>本講では、主観的な意思をうまく数値化するという観点から意思決定モデルと関連事項を講義する。具体的には、意思決定の基本的考え方、階層的な意思決定、確率とベイズ、ベイズ意思決定、リスクと効用、不確実性のもとでの意思決定とポートフォリオ理論、情報量と集団意思決定などについて説明する。このような考え方を理解することで、意思決定問題に対するアプローチの基本を幅広く理解させる。	
専門科目	学類専門科目	データマイニング	<授業形態>講義・演習 <目標>統計処理と機械学習のデータマイニング手法の内容やツールの活用方法を学び、それらを実際のデータ分析に適用する技能を習得する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・統計的検定 ・重回帰分析 ・因子分析 ・主成分分析 ・決定木 ・相関ルール ・バスケット分析 ・クラスタリング	講義 10時間 演習 5時間
専門科目	学類専門科目	経営情報分析	<授業形態>講義・演習 <目標>実際のデータを対象とした経営情報分析の方法を学習する。講義ではデータマイニングプロセスの中で、データクリーニングをはじめとしたデータマイニングの周辺処理方法をはじめ、全体的なデータマイニングプロセスを総合的に学習することを通じて、実際に分析できる能力を習得する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・データ収集方法 ・データクリーニング ・データ基礎分析 ・統計的解析手法を用いた分析方法 ・クラスタリングを利用した分析方法 ・頻出パターンを利用した分析方法 ・決定木分析を利用した分析方法	講義 7.5時間 演習 7.5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	ゲーム理論	<授業形態>講義 <目標>非協力ゲームを中心に、ゲーム理論の基本概念を講義する。戦略的思考の考え方を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・効用関数と期待効用仮説。 ・純粋戦略と混合戦略。 ・支配戦略均衡、ナッシュ均衡など、戦略形ゲームの解概念。 ・展開型ゲーム ・部分ゲーム完全均衡、完全均衡、逐次均衡等、ナッシュ均衡の精緻化 ・不完備情報ゲームとベイジアン均衡。 ・繰り返しゲーム。 ・進化ゲームの基本概念。	
専門科目	学類専門科目	メカニズムデザイン	<授業形態>講義 <目標>メカニズムデザインの基本的事項と、オークションの理論について講義する。新しい制度を設計するための理論を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・ゲーム理論の復習。 ・支配戦略逐行と耐戦略性。 ・無支配戦略逐行と耐戦略性。 ・ナッシュ逐行と連立耐戦略性。 ・VCGメカニズム。 ・オークションと収入同値定理。 ・オークションの応用（架空名義入札、組合せオークション、広告オークション） ・メカニズムデザインと実験経済学	
専門科目	学類専門科目	教育情報学	<授業形態>講義 <目標>教育・学習全般を情報伝達という観点で捉えなおし、その実態を明らかにすると同時に、広くICTを活用した教育・学習ならびにその支援について研究する学問分野である広義的教育情報学の諸分野、諸問題について講義する。それにより、学習や教育を支援するシステムを構築する際の基盤的な考え方を習得し応用できるようにする。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・人間の学習過程～メタ認知、自己調整学習、動機づけなど ・学習方略に対する支援 ・特定の教科内容の教育・学習に対する支援 ・eラーニングを活用した教育	
専門科目	学類専門科目	教育情報システム	<授業形態>講義 <目標>教育情報システムの設計および運用のための専門的な知識および技能を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・人間の学習過程に関する基本的な原理 ・ICTを利用したADDIEモデルに基づくインストラクショナルデザインの基礎 ・eラーニングシステムの特性とユーザ・インタフェース設計技法 ・他のシステムとの関連性および標準化 ・対面授業におけるICTの活用方法 ・実際の運用における学習内容に関する評価法と学習者の到達度評価法	
専門科目	学類専門科目	教育・学習の理論と設計	<授業形態>講義 <目標>教育を効果的に行うための学問であるインストラクショナルデザイン（ID）の理論を解説し、学校教育、企業内教育などにおける実践について紹介する。さまざまな実践を詳細に見ながら理論を理解することを通して、インストラクショナルデザインの基本的な考え方を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・インストラクショナルデザインの基礎 ・ADDIEモデル・ARCSモデル ・高等教育におけるインストラクショナルデザインの実践 ・企業内教育におけるインストラクショナルデザインの実践 ・eラーニングとID ・さまざまなID理論	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	ヘルスケアサービス	<授業形態>講義 <目標>ヘルスケア専門職との円滑なコミュニケーションができるように、ヘルスケア（保健・医療・福祉）分野に関する一般教養的な知識、保健医療福祉制度、およびヘルスケアサービスに関する基本的知識について開設する。 専門用語や法制度、基本的な人体の構造と臓器機能とその病態病理、および国際標準疾患分類の構造などについて開設する。医療倫理、患者の人権・尊厳に関する問題や、ヘルスケアに関わる個人情報の収集、蓄積、伝達、情報開示および利用についてヘルスケア専門職の役割・責務と具体的対処について開設する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・ヘルスケアの基本と社会における役割、わが国のヘルスケアとヘルスケアに関する情報システムの展望 ・医の倫理、ヘルスケアの評価とは ・ヘルスケアに関する制度 ・医療管理① 病院における診療体系と業務の機能分担 ・医療管理② 病院管理・指標、地域医療連携・遠隔医療 ・医療管理③ 医療安全管理と施設管理 ・医学・看護学① 臨床医学 ・医学・看護学② 臨床看護 ・先進医療 ・臨床検査・医療画像診断 ・医薬品、治療・処置・手術 ・ヘルスケアプロセス（診療プロセス・介護プロセス・診療ガイドライン） ・ヘルスケアに関する記録 ・ヘルスケアに関する統計の基礎 ・疫学統計、ヘルスケアデータの収集と分析	共同
専門科目	学類専門科目	ヘルスケアシステム	<授業形態>講義 <目標>我が国における情報化施策の経緯と現状について知り、効果的かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供するための情報通信技術の必要性および活用方法について開設する。さらに、現在のヘルスケアに関する利用者のニーズや、抱えている課題（対象者のプライバシーならびに個人情報保護、健康データの一元化と二次利用方法等）に対して、情報化技術の発展を踏まえ、具体的な解決方法や今後の展望について創造できる能力を養う。その上で、ヘルスケア分野で稼働する情報システムの企画立案、開発・運用保守を行うためにヘルスケアシステムに関する実務的な基礎知識や基礎技術力を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義 ・グループワークを行う ・ヘルスケアシステムの特性 ・ヘルスケアシステムの設計条件と安全管理 ・ヘルスケア情報倫理、医療記録の電子化の変遷 ・ヘルスケアシステムの構成と機能・ハードウェアとネットワークの要件 ・ヘルスケアシステムの導入と運用（組織体制・組織間調整、設計から稼働までの手順、仕様書、契約、運用管理、評価と改善、運用管理規定） ・医療・福祉・保健を支えるヘルスケアシステム ・広域のヘルスケアシステム ・ヘルスケア情報の標準化・ヘルスケア支援のための情報分析・評価 ・ヘルスケアシステムの将来 ・グループワーク（現状分析・企画立案、開発・運用・保守案作成）など	共同
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学実習I	<授業形態>実習 <目標>コンピュータに関する基礎的能力を養成するため、基本的なコンピュータの操作方法を実習を通して学習させる。またプログラミングの基礎を身につけさせるため、プログラム開発のためのソフトウェアの使い方や、コンパイルの方法を解説し、プログラミング言語の基礎文法を、多数の例題を通して繰り返し訓練させる。さらにさまざまなアルゴリズムを実装することで、問題解決に必要な基本技術を修得させる。最後に、簡単な問題が与えられたとき、これを解決するための手順を自ら発見し、単純な文法を駆使して、問題解決のためのプログラムを実現できる能力を、反復練習により養成する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。また、各内容について実習を行う。 ・基本的なコンピュータ操作法 ・基本コマンド ・プログラム開発ソフトの操作法 ・プログラミングの基礎 ・様々なアルゴリズムの実装 ・応用プログラミング	共同
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学実習II	<授業形態>実習 <目標>情報システムを利用する視点および、情報システムを構築する視点の双方の観点から、情報システムの構築法、ユーザインタフェースなどの情報システムを構築・運用・利用する際に考慮すべき事項について、実際の課題に対する問題解決の実習を通して、自発的探究心や創造性を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。また、各内容について演習を行う。 ・資料の検索手法 ・手法検証のためのプログラム設計 ・プログラム開発 ・実験データの取得、解析	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学演習I	<授業形態>演習 <目標>情報システム、ネットワーク、教育工学、経営情報、ヘルスケアの知識情報システムの各分野における代表的な課題とその解決法についてグループワークなどを通じて、代表的アルゴリズムなどの応用を自主的に発見・修得することにより自発的探究心や創造性を養う。さらに実験結果の口頭発表などを導入して、実験結果とそれに対する考察を正確に伝達できるプレゼンテーション能力の向上を図る。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。また、各内容について演習を行う。 ・資料の検索手法 ・手法検証のためのプログラム設計 ・プログラム開発 ・実験データの取得、解析 ・発表資料作成と成果発表	共同
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学演習II	<授業形態>演習 <目標>知識情報システム関連分野における最新のトピックや課題などを取り上げ、受講生各自が個別にこれらのテーマについて、先端的な研究に接するなかで実験を行うことにより、課題に対する問題点の把握、分析結果の討論、レポートの作成等、課題を計画的に遂行するための総合力の基礎を身につけさせる。また、代表的アルゴリズムなどの応用を自主的に発見・修得する過程を通して、自発的探究心や創造性を養う。さらに実験結果の口頭発表などを導入して、実験結果とそれに対する考察を正確に伝達できるプレゼンテーション能力の向上を図る。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。また、各内容について演習を行う。 ・資料の検索手法 ・手法検証のためのプログラム設計 ・プログラム開発 ・実験データの取得、解析 ・発表資料作成と成果発表	
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学インターンシップ	<授業形態>実験・実習（講義を含む） <目標>企業や自治体における仕事の社会的意義について理解させるとともに、社会貢献への理解と動機づけを高めさせる。さらに、実習を通して、企業や自治体における業務の実態を体験的に理解させることを目標とする。 <授業計画の概要>授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・インターンシップに参加する際の心構え、マナー講座、キャリアデザインなどについての講義。外部講師による授業を含む。 ・企業、自治体における実習（10日間程度） ・実習の報告会	講義5時間 実習50時間
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学英語演習	<授業形態>演習 <目標>知識情報システム学に関連する分野における専門的英文資料を正しく読み取り理解する能力を身につけさせる。また、英語での受信・発信の能力を高め、学術・ビジネス両面で高度かつ国際的なコミュニケーションを行なう基礎を身につけさせる。 <授業計画の概要> 小人数による演習の形態を取り、英語で書かれた専門的な文献を輪読を行うことにより正確かつ迅速に読みその内容をまとめるとともに、英語による研究発表を理解する訓練を行なう。また、学生各自の研究内容を平易な英語でまとめ、プレゼンテーションや討論を通じて読解力と意思伝達力を身につけることにより、英語での発信能力の向上につなげる。	
専門科目	学類専門科目	知識情報システム特別講義	<授業形態>講義 <目標>知識科学、情報システム工学に関する最先端の成果と課題に関する話題を、学外から専門家を招聘して集中的に講義を行ってもらい、関連する学問分野の最先端と課題に触れることにより、最先端の知識と問題解決能力を養うことを目標とする。	
専門科目	学類専門科目	知識情報システム学卒業研究	<授業形態>演習 <目標>知識情報システム学類の研究の最先端を理解させるための輪講とゼミ形式の演習を行い、卒業論文の執筆、卒業研究発表を行うことを通じて、課程の教育内容の理解を深め、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につけさせ、本学の卒業生として誇りを持って社会に出られるような総合的能力の養成を目標とする。 <授業計画の概要>担当教員の提示する研究テーマに関する文献研究を行なわせ、問題点や検証すべき仮説を明らかにさせる。後半は、関連するデータの収集、被験者に対する実験、多変量解析による仮説の検証、プログラムの作成、システム構築など研究テーマに応じて必要となる問題解決のための実験・実習を行わせ、卒業論文にまとめさせる。	
専門科目	他学類専門科目	異文化の理解	<授業形態>講義 <目標>文化人類学の方法を用い、さまざまな文化の比較を通して、異文化の仕組みを理解させ、またそれとの対照によって自文化の特徴を明らかにさせる。このような文化の比較を通して、自分の身につけた価値観を相対化し、新たなものの見方を獲得させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・狩猟採集民や農耕民・牧畜民の自然資源の利用と文化 ・異文化理解とジェンダー ・グローバル化する世界における異文化理解	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	大気・海洋環境学	<授業形態>講義 <目標>生態系や、環境に大きな影響を与える、大気および海洋における物質循環プロセスを講義することにより、対流圏における物質循環にもっとも重要な光の役割、酸化反応プロセスから、個々の環境問題の原因について理解を深めさせる。また、河口付近で起こる現象、海洋上層の光の関与した反応の理解から、海洋汚染問題の原因について考えさせる。さらに、大気と海洋の関わり、海洋と陸域との関わりについて講義することにより、環境問題の本質を理解させることを目標とする。 <授業計画の概要>地球環境における物質循環を理解するために、まず大気組成、平均滞留時間の考え方、微量気体の濃度と反応、雨による大気の浄化と酸性雨、大気エアロゾル、地球の温暖化問題と成層圏オゾン問題を根本から理解できるように講義する。さらに、大気組成の沈着による岩石圏への影響、岩石圏の化学プロセスと土壌汚染、そこからつながる淡水の湿地、湖における化学プロセス、海洋循環、海の組成と有害物質の生物濃縮、人間活動が変える海水組成、海洋と大気、海洋と陸域の関わりについて講義し、地球全体の物質循環を理解できる講義を行う。	
専門科目	他学類専門科目	地域・都市環境学	<授業形態>講義 <目標>人間生活にとって関連性の深い都市域や都市周辺地域を対象として、自然環境破壊の現状と、現在表出している問題点や課題について理解を深めさせる。さらに、自然的要因や人文・社会的要因といった環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法について講述し、持続的な発展に資するエコロジカル・プランニングの理論や手法について習得させることにより、課題発掘や問題解決のための基礎的能力を養うことを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市域での自然環境問題 ・都市周辺の田園地域での環境問題 ・里山の環境と人の生活 ・環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法 ・エコロジカル・プランニングの理論や手法 ・オーバーレイシステムと地理情報システム（GIS）	
専門科目	他学類専門科目	公衆衛生学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>永続可能な社会を構築する上で不可欠な、健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学の概論について講義することにより、公衆衛生学の歴史、集団の健康増進と疾病予防、疫学と保健対策について学習させ、社会水準で健康を取り扱う公衆衛生学の考え方および手法について習得させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・公衆衛生学序論 ・保健統計 ・疫学 ・疾病予防と健康管理 ・主な疾病の予防 ・環境保健	
専門科目	他学類専門科目	公衆衛生学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学のうち、国内外で問題となっている感染症、食品衛生および環境衛生に関連するトピックスについて、実例を挙げながら講義を行うことにより、個々のトピックスについて学習させ、原因と対策および今後の課題について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・感染症（ウィルス性、細菌性、原虫、寄生虫） ・食中毒（微生物性、化学性、自然毒、アレルギー様） ・地球環境問題（地球温暖化、化学物質汚染、生物の多様性） ・空気、水、土壌の衛生	
専門科目	他学類専門科目	マイノリティと文化システム	<授業形態>講義 <目標>国家的秩序のなかでマイノリティ（少数者）の位置を与えられた者と文化システムの形成について論じる。マイノリティは、一般に例外的存在と見られるが、そうではなく、国家が文化的一元性をめざすかぎり必然的に生みだされ、マジョリティを構成する国民のアイデンティティ形成に不可欠な存在である。マイノリティが、文化のシステムを考えるうえで重要な論点であることを理解させ、文化と国家の関係についての視点を身につけさせることを目指す。 <授業計画の概要>以下の項目をとりあげる。 ・近代国民国家とはなにか。 ・マイノリティと国民国家。 ・マイノリティの文化とナショナル・カルチャー。	
専門科目	他学類専門科目	言語の社会システムA	<授業形態>講義 <目標>言語進化論や民族主義的ナショナリズムといった近代国民国家形成と関連する言語思想について、社会システム形成の観点からいかなる特質が存在するのかという点を中心に、個別言語学としての日本語学や、一般言語学の知見をふまえて講義する。多様な側面をもった近代社会システム形成における言語の役割とその意味について、言語思想の史的展開に注目しつつ、言語学において提示された言語観について習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・言語思想と社会システムとの関係 ・西洋古代・中世言語思想史 ・近代言語学史 ・日本語研究史と東アジア言語思想史	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	認知科学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>近年の認知心理学と神経科学の発展によって得られた知見を総合して、視覚と聴覚の仕組みについて解説することにより、人間が環境情報を認知する過程について具体的に理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・認知科学の基本的な方法論 ・視覚系の仕組み ・形、色、奥行き、運動などの、特徴レベルの視覚的認知過程 ・物体の認知、注意などの高次視覚認知過程 ・意識的処理と無意識的処理 ・聴覚系の仕組み ・音の大きさと高さの認知過程 ・言語音の認知過程 ・ヒト以外の生物による環境情報の認知	
専門科目	他学類専門科目	認知科学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>認知科学の諸分野の中でも、高次認知の過程について概説した上で、それらの認知過程を支援するための教授法について理解させる。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・作動記憶のモデル ・記憶のモデルと認知過程 ・知識構築とスキーマ ・読解のプロセス ・問題解決と推論 ・メタ認知 ・協調学習とITS	
専門科目	他学類専門科目	組織環境と行動	<授業形態>講義 <目標>集団、組織環境における人間の行動について、心理学の知見を基礎として社会心理学、組織心理学の観点から理解するうえで必要な考え方を習得させ、同時に現代の組織の実情についての理解を進める。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・集団の形成と課題遂行 ・組織内のリーダーシップ ・仕事の動機づけと満足 ・人的資源管理と人事評価 ・キャリアと組織文化 ・職務ストレス	
専門科目	他学類専門科目	対人環境の認知	<授業形態>講義 <目標>対人環境における人間の認知およびそれに基づく行動に与える他者の影響について基礎となる知識と考え方を習得させ、個人の社会的な行動について、個人特性、個人間の社会的相互作用、社会的状況の観点から理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・対人認知 ・社会的推論と原因帰属 ・自己と自己概念 ・態度形成と態度変化、説得 ・対人魅力と対人関係	
専門科目	他学類専門科目	共生の思想	<授業形態>講義 <目標>近代化の進展とともに、人びとは自然および社会環境の根本的な変容を経験することになった。この講義では、そのさい発生したさまざまな問題を確認し、その統御の技術がどのように構想され、実行に移されたかを具体的な事例をもとに検討する。そのさい思想と現実との相互作用に注目しつつ、その媒介となる技術および社会制度についての特性を理解し、人間が共生することの意味を考察する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市の拡大と社会問題 ・人口と権力 ・生命の管理と統治	
専門科目	他学類専門科目	経営学入門Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の入門として、組織の構造、組織と組織の関係について、基本的な内容を学びます。教科書的な説明だけでなく、具体的な企業の事例をあげつつ説明していきます。特に、日本企業の事例ならびに日本的な特徴について、多くの時間を割く予定です。主に新入生の方を対象に、経営学に対する好奇心を持っていただき、専門的な学習に進む前の基礎的な知識の習得を目標とします。 <授業計画の概要> ・基本的な組織構造の理解 ・組織構造の発展の理解 ・組織間関係の理解 ・日本の組織構造の理解	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	経営学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の理論について学ぶ予定です。100年あまりにわたる経営学の歴史を、その理論を作り上げてきた理論家の説を紹介しながら解説していきます。その時代ごとに変わる問題意識と組織のとらえ方の違いが、異なった理論を発展させていった経緯を理解していただくことが目標です。伝統的な理論から、近年における組織論の展開（認知的組織論・知識創造理論・社会構築主義）まで幅広く紹介します。また、理論の説明だけでなく、具体的な経営場面への応用も紹介します。管理システムの背後にある論理を理解することを目標とします。 <授業計画の概要> ・古典的管理論 ・近代組織論 ・条件適合理論 ・認知的組織論 ・知識創造理論 ・社会構築主義	
専門科目	他学類専門科目	会計システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものです、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する基礎的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・商品売買の会計 ・有価証券の会計 ・試算表の作成 ・決算の手続き	
専門科目	他学類専門科目	会計システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものです、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する応用的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・棚卸資産の会計 ・固定資産の会計 ・負債の会計 ・純資産の会計	
専門科目	他学類専門科目	日本経済史Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>日本経済史Ⅰ・Ⅱを通して、近世から近代にかけて（17～20世紀前半）の経済社会の流れを概観するとともに、大阪・堺周辺の地域経済を具体的に考察する。Ⅰでは開国までを対象とし、近世の基本構造を理解した上で近代化にどのような歴史的前提を与えたのかという点に注目し、その特徴を捉える。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・幕藩制社会の成立と基本構造 ・農村と農業社会 ・都市と商工業 ・全国市場の成立 ・交通と商品流通 ・貨幣制度 ・金融制度の発達 ・鎖国下における外交と貿易 ・幕藩制社会の変動 ・開国	
専門科目	他学類専門科目	経済政策入門	<授業形態>講義 <目標>政府の役割・政策的課題・政策手段についての入門的理解を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>最大化すべき目的関数として社会的厚生関数が仮定されている伝統的経済政策論と方法論的個人主義の立場に立つ公共選択的政策論との違いについても講義する。経済政策へのいざない、複眼的租税政策について、社会的厚生関数の最大化、公共選択の考え方、公正のための政策について、政策主体について、政策目的について、政策手段について、政策の決定等について講義する	
専門科目	他学類専門科目	憲法Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>国家統治の基本法である憲法は、大別して、国を治める仕組み（統治機構）と人権の保障（人権宣言）に関する部分から成り立つが、憲法Ⅰでは、前者に関して、その歴史と理論の展開を概観した上で、国家統治の仕組みとしての権力分立を検討する。これによって、法的でないしは憲法的観点から、国家構造の骨格と仕組みそして機能を理解することを目的とする。 <授業計画の概要>憲法の定義からはじめて、憲法の必要性を歴史的観点から認識した上で、日本国憲法の成り立ちを手がかりに憲法改正権とその限界を議論し、つづいて、国レベルの統治システムとしての権力分立に触れ、それを構成する立法権、行政権、司法権の各々の権能と働きを検討し、ついで地方自治について論じる	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	憲法Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>憲法Ⅱでは、憲法Ⅰの国家統治のシステムの理解を前提に、それが人権保障へと結びつく過程を明らかにした上で、人権宣言の歴史的展開過程を整理し、人権理論の検討に続いて、日本国憲法における人権保障へと理解を進める。この講義の展開の中で、21世紀をひも解くキーワードの1つともいえる「人権」を法的観点から見て取る視点を培って行く。 <授業計画の概要>人権の定義とその保障の歴史的展開を理解した上で、人権保障の支柱である「自由」と「平等」を大枠として整理した上で、包括的人権としての幸福追求権、個別的人権としての思想および良心の自由、表現の自由、生存権、教育を受ける権利等について論じ、その限界を明らかにしていく。あわせて、人権の持つ（人権保障が意味する）ある種のエゴイスティック（egoistic）な側面にも目を向ける。	
専門科目	他学類専門科目	経営管理システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>授業では企業経営の管理的な諸側面に関する諸理論を解説する。まず、テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理原則論といった古典的管理理論を説明しながら、経営管理論とはそもそものような学問であるのかを考える。それに続き、人間関係論、バーナードやサイモンの近代組織論等、経営管理論の諸学説の発展を概観することによって、経営管理の諸問題を議論する。この授業では、経営管理論の基本的な理論を習得すると同時に、その理論を応用し、実際の企業組織の運営を行う際の技術を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・経営管理論とは何か、企業とは何か ・テイラーの科学的管理法とファヨールの管理原則論 ・メイヨの人間関係論とモティベーション論 ・リーダーシップ論 ・バーナードの組織論とサイモンの意思決定論	
専門科目	他学類専門科目	経営管理システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>経営管理論の主要な問題として経営戦略が挙げられる。この授業では経営管理論の一領域としての経営戦略と組織構造の問題に焦点を当て、企業がとる戦略がどのような論理で展開されているか、それが組織構造とどのように関係しているかを説明する。また多角化した現代大企業を本社機構がどのようにマネジメントしてくべきかについて論じる。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・企業経営と経営戦略 ・企業ドメインと企業成長 ・多角化戦略の理論 ・組織構造の理論 ・経営戦略と組織構造 ・事業の選択と集中 ・経営戦略と組織構造の国際比較 ・多角化戦略と経営成果 ・企業の本社組織の役割	
専門科目	他学類専門科目	地域経済学	<授業形態>講義 <授業目標>地域経済学の基礎理論の習得を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域経済学の課題 ・産業の立地 ・地域経済と所得形成 ・地域経済の成長理論 ・地域間交易の理論 ・地域間格差と人口移動	
専門科目	他学類専門科目	地域経済政策	<授業形態>講義 <授業目標>地域問題や都市問題を図る地域政策や都市政策の理解を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域政策の目標と手段 ・地域間格差と地域政策 ・都市の成立と発展 ・都市の土地利用 ・土地問題と土地政策 ・住宅市場と住宅政策 ・地方財政と地域分権	
専門科目	他学類専門科目	地域価値創造論	<授業形態>講義 <目標>「地域再生」は日本経済における喫緊の課題である。どのように地域の魅力やオリジナリティーをプロデュースし、そこに住んでいる人々の幸福はもちろんのこと、そこを訪れる多くの人々を感動させるような「地域価値」を創造できるのか。本講義では、国内、海外の具体的な事例研究を紹介しながら、地域文化プロデュースの手法や理論を学習する。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全15回） （33 橋爪紳也／7回）「集客都市とツーリズム」、「ライフスタイル開発」「コミュニティ・ツーリズム」、「文化と都市魅力」、「クリエイティブ・インダストリー」、「アジアの都市と大阪」などのテーマについて講義する。 （42 吉田順一／8回）「観光創造と地域再生」、「地域プロデュースと地域マネジメント」、「地域ブランド」、「ゲマス・レギオン（オーストリア観光開発事例研究）」、「生活価値デザイン」、「景観と建築」、「農業と次世代ツーリズム」などをテーマに講義する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	地域価値とデザイン力	<授業形態>講義 <目標>風景とデザインという観点から行う本講義は地域に潜むポテンシャルをどのように捉え発掘するののかという地域風景の見方についての洞察力を養う事を目的の一つとする。またそれら発掘されたポテンシャルを次の価値へとどのように結びつけて行くのかという発想やデザインについて、自ら取り組んだ事例も含めたさまざまな事例の読解やディスカッションを交えながら理解・習得することを目的とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・風景に潜む地域ポテンシャルの読み取り ・都市空間の使いこなし事例について ・地域風景ポテンシャルのデザイン	
専門科目	他学類専門科目	経済思想史	<授業形態>講義 <目標>本講義では、経済学の形成・成立、発展の過程について触れながら、その時代の経済学を支えた思想的基盤・歴史的背景について解説を行う。さらに、古典派経済学と現代経済学の継承と断絶を解説する。 <授業計画> 講義は以下の内容について講義を行う。 ・古典派経済学の誕生（重商主義、重農主義とアダム・スミス） ・古典派経済学の確立（マルサスとリカード） ・古典派経済学の危機（ミル） ・新しい経済学の誕生（限界革命とジェヴォンズ、マーシャル） ・経済の危機（ケインズ革命） ・企業家とイノベーション（シュンペーター） ・新古典派総合とケインズ批判（サミュエルソンとフリードマン） ・経済学と現代	
専門科目	他学類専門科目	ベンチャービジネス	<授業形態>講義 <目標>新事業の創出によって今日の日本の経済を活性化するものとして期待されている現代のベンチャービジネスの状況について理解し、ベンチャー企業の創業に関する知識を学ぶ。実際の起業の成功と失敗の要因について考え、ビジネスプランの作成に関わる知識やスキルを養成する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・起業家精神とベンチャービジネスの実態 ・ベンチャービジネスの経営戦略 ・起業支援の実態 ・ベンチャー創業の事例 ・ビジネスプランの作成	
専門科目	他学類専門科目	公共選択的経済政策	<講義形態>講義 <講義目標>主として、公共選択経済政策についての理解を深めることを目的とする。 <講義概要>現代経済における財政金融政策のポリシー・ミックス、ビルトイン・スタビライザー等についての考え方も講義する。市場の失敗や公共財についても理解を深める。さらに、法と経済政策との関係についても講義する。また独占企業に対する経済政策や租税をめぐる諸政策についても講義をする。さらに、地下経済を考慮した場合の諸政策についても言及する。	

授 業 科 目 の 概 要 (現代システム科学域環境システム学類)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	学域 共通 科目 情報とサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標> 情報通信技術(ICT)が情報のリアルタイムの入手、共有、発信、蓄積、解析、活用等を容易にすることによって、個のエンパワーメントや利便性の向上、経済・社会活動の効率的遂行を可能にするなど、ICTの利活用による持続的な成長の実現について理解させる。また、ICTと関連する分野についての政策動向、技術動向などについて概説的な講義を行い、ICT分野の俯瞰的な全体像を理解させる。 <授業計画の概要> オムニバス方式全15回 ・ (59 宮本貴朗, 49 辻洋/3回) ICTの利活用による持続的な成長の実現、情報通信の現況と政策動向 ・ (34 荒木長照/2回) ICTとマーケティング ・ (55 真嶋由貴恵/2回) ヘルスケアの情報化の現状と課題、進む方向 ・ (46 菅野正嗣/2回) センサネットワーク技術の応用分野としての、スマートメータやスマートホームを活用した省エネルギーや新しいサービスの実現 ・ (62 森田裕之/2回) 企業経営における戦略的優位性の獲得・維持とICTの利活 ・ (47 瀬田和久/2回) これからのICTと知識共創社会（セマンティック Web, ヒトの知的活動を活性化するシステム） ・ (50 中島智晴/2回) ICT と知能化技術	オムニバス方式
専門 科目	学域 共通 科目 環境とサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標>現代社会におけるサステイナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 現代社会におけるサステイナビリティの重要性に関する授業の後、環境システムに関して自然科学、科学技術の役割を含む社会科学、人間科学の各側面から講義する。 (オムニバス方式／全15回) (1 大塚耕司／4回) 現代社会におけるサステイナビリティの重要性および環境システムの自然科学的側面からの理解について講義する。 (17 森岡正博／4回) 環境システムの社会科学の側面からの理解について講義する。 (12 斎藤 憲／3回) 環境システムにおける科学技術の役割について講義する。 (28 牧岡省吾／4回) 環境システムの人間科学的側面からの理解について講義する。	オムニバス方式
専門 科目	学域 共通 科目 マネジメントとサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標>企業は現代の社会生活にとって、なくてはならない存在であるが、その運営により多くの問題も生じている。自然環境の破壊をはじめとする環境問題や働き過ぎによる人間性の破壊などである。この授業ではこれらの問題を企業の持続可能な成長（サステイナビリティ）の観点から論じていく。 <授業計画の概要> ・ マネジメントとは何か ・ 持続可能な成長とは何か ・ オープン・システムとしての企業 ・ 企業家による事業創造 ・ 社会と企業のかかわり ・ 企業倫理 ・ CSR（企業の社会的責任） ・ 環境経営	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	学域 共通 科目 環境倫理学	<授業形態> 講義 <目標> 環境思想の成立史と、環境倫理学における基本的な命題・論理構造について取り上げ、さらに従来の環境倫理学では捉えることができなかった、実践倫理、人間存在の倫理、倫理の揺らぎといった発展的観点について紹介する。それによって、環境の時代を目指して環境倫理学が成そうとしたこと、成せなかったことを理解し、「環境の世紀」を生きるための心構えを養う。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・導入—環境倫理とは何か ・環境思想の誕生—環境の60年代／70年代 ・古典的環境倫理の諸問題 ・「自然の価値」と自然の権利論 ・「世代間倫理」とサステナビリティ ・「生命倫理」とテクノロジー ・ディープエコロジーと「生命中心主義」の世界像 ・「環境プラグマティズム」と実践倫理 ・倫理の揺らぎと現代社会 ・人間存在における倫理の再考—「生物倫理」／「素朴倫理」／「普遍倫理」 ・まとめ—「環境の世紀」を生きるための倫理	
専門 科目	学域 共通 科目 ミクロ経済学入門	<授業形態> 講義 <目標> ミクロ経済学の基礎を修得する。特に部分均衡分析のフレームワークの理解を目指す。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・経済学およびミクロ経済学の目的と方法 ・経済主体と財・サービス ・需要と供給 ・消費者の行動、効用、限界効用、需要曲線、消費者余剰 ・生産者の行動、技術、費用、限界費用、供給曲線、生産者余剰 ・市場均衡と資源配分、社会的余剰 ・課税、自由貿易の余剰分析 ・不完全競争、外部性、情報の経済学への導入	
専門 科目	学域 共通 科目 マクロ経済学入門	<授業形態> 講義 <目標> マネジメント学類の学生が知っておくべきマクロ経済学の基礎を講義する。マクロ的な経済思考力とともに、いわゆる経済常識を身につけることにより、絶えず変化しているマクロ経済の動きを、正しく捉えることのできる能力の基礎を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要> GDP・物価・貯蓄・投資といったマクロ経済の基本概念を講義し、日本経済の現実の数値と照合する。消費関数と所得決定、貯蓄と投資の関係、貨幣の定義とその需要・供給を説明した上で、総需要と総供給がどのように均衡するかを説明する。	
専門 科目	学域 共通 科目 法律学入門	<授業形態> 講義 <目標> この科目では、法的な論理的思考能力と推論力との養成を最大の眼目としつつ、基礎的・基本的な法律知識を正確に身に付け、自分に降り掛かった法的火の粉（問題）を最低限自分で払いのける（解決する）糸口を見出す力を養っていく。この過程の中で、単なる法的知識の断片的理解にとどまらない、理論的・体系的な知識の構築と応用力を養うとともに、法的観点から、国内・国際社会を見て取ることのできる広い視野を身につける。 <授業計画の概要> 身近な話題を取り上げ、そこに潜む法的諸問題をクローズアップさせ、その解決のために必要とされる法的な知識を得て、推論を働かせながら結論へと至るプロセスを重視した講義をおこなう。具体的には、法の定義と社会における役割・機能から論じ、メソッド（case method）方式により、憲法（人権法を含む）・民法・刑法・商法・税法あるいは環境法等の具体的法分野を鳥瞰し、法が国内および国際社会で果たす役割について理解を深めて行く	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	環境共生科学入門Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>環境共生科学に関わる研究領域について概観させるとともに、研究を遂行するための基本的知識や考え方について学習させる。中でも、特に水環境、大気環境、物質環境に関する基礎的理解を進めるために、物理学や化学、生態学的な知識と考え方について学習させることにより、今後の環境共生科学に関する多種多様な研究に携わることのできる素養を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 環境共生に関する研究領域のうち、水環境、大気環境、物質環境に関して講義する。 (オムニバス方式/全15回) (1 大塚耕司/5回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として水環境や生態的な側面に関する基礎について講義する。 (3 竹中規訓/5回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として大気環境や化学的な側面に関する基礎について講義する。 (7 興津健二/5回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として物質環境や物理学的な側面に関する基礎について講義する。	オムニバス形式
	学類共通科目	環境共生科学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>環境共生科学に関する研究を遂行するための基本的知識や考え方について学習させる。中でも、動物と植物を主体とする生物的環境や、地域固有の人間生活と自然との関わり合いから生み出される地域環境に関する基礎的理解を進めるために、生物学や生態学、社会科学的な知識と考え方について学習させることにより、今後の環境共生科学に関する多種多様な研究に携わることのできる素養を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 環境共生に関する研究領域のうち、自然環境や地域環境、動植物の生態学・生物学、社会と環境との関係に関して講義する。 (オムニバス方式/全15回) (3 下村泰彦/3回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として自然環境や地域環境の側面に関する基礎について講義する。 (10 星英之/3回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として動物を主体とした生態学的、生物学的な側面に関する基礎について講義する。 (8 中山祐一郎/3回) 環境共生に関する研究領域のうち、主として植物を主体とした生態学的、生物学的な側面に関する基礎について講義する。 (5 宮脇幸生、4 福田珠己、9 福永真弓、6 遠藤崇浩/6回) 環境共生に関する研究領域のうち、社会科学的側面から、環境の認識・利用・管理・所有などにかかわる具体的な事例を通じた、社会と環境との関係についての基礎について講義する。	オムニバス形式 年度によって交代で担当
	学類共通科目	社会共生科学入門Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、様々な仕組みをもつ社会が共生するための研究領域の多様性を理解させることを目的とする。「大阪」「共生」「集団」など、統一テーマを一つ選び、そのテーマから見た各研究領域がもつ問題意識と方法・結論付けの方向を理解させ、社会共生の実現するために必要な分野横断的・体系的な思考を身につけさせる。 <授業計画の概要> オムニバス方式全15回 ・(上村隆広・全担当教員/1回) 研究領域をつなぐ試み ・(秋庭裕/3回) 社会学から見た「共生」の諸問題 ・(西尾純二/3回) 言語学から見た「共生」の諸問題 ・(細見和之/3回) 歴史、思想研究から見た「共生」の諸問題 ・(水野真彦/3回) 地理学から見た「共生」の諸問題 ・(上村隆広・全担当教員/2回) 社会共生はいかに可能か	オムニバス形式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	社会共生科学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、多様な社会現象に分析的にアプローチする際の方法論について、その広がりや具体的な手法について理解させることを目的とする。講義を通じて、課程にある複数の研究領域にまたがる個々の方法論について、それぞれの特徴を把握させ、自身の問題関心に学問的にアプローチする際の可能性を検討させる。 <授業計画の概要> オムニバス方式全15回 ・(18 上柿崇英/2回) イン트로～「素朴なギモン」と「学問的な問い」の間 ・(21 酒井隆史/2回) 観察の方法論～フィールドワークの入り口 ・(20 工藤宏司/2回) 聞き取りの方法論～インタビューからライフストーリーへ ・(15 高木佐知子/2回) ドキュメント・映像分析～記録されたものの証言 ・(14 住友陽文/2回) 史料分析～歴史的史料の批判的検討 ・(20 工藤宏司/3回) 量的調査とリサーチリテラシー～「客観性」と「主観的判断」の間 ・(担当教員全員/2回) 調査倫理について～まとめ	オムニバス形式
専門科目	学類共通科目	人間環境科学入門Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>人の行動や行動の背後にある心のはたらきについて概説することを通して、なぜ人がそのような行動をするのか、あるいは、なぜ人はそのように考えるのかを理解させる。 <授業計画の概要> ・発達 ・学習・記憶 ・感覚・知覚 ・思考・言語 ・語の記録	
専門科目	学類共通科目	人間環境科学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>人の行動や行動の背後にある心のはたらきについて概説することを通して、なぜ人がそのような行動をするのか、あるいは、なぜ人はそのように考えるのかを理解させる。 <授業計画の概要> ・心理学の歴史・理論・実践 ・動機づけ・情動・知能 ・さまざまな精神病理 ・臨床心理と文化 ・パーソナリティ ・TEG	
専門科目	学類共通科目	地球環境学	<授業形態>講義 <目標>環境問題を根本的に理解するために、地球環境における様々な循環とその循環が環境にどのように影響を与えるのか、その中で人間活動がどのように循環に影響を与え地球環境に影響を与えているかを理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 現在の地球環境がどのようにできあがり、そこで何が起きているのかを理解させる。大気、土壌、水それぞれの中でどのような循環があり、そこで物質は形を変えながら変化する。変化する速度の変化、循環の変化が、環境を変え、人類や生態系や環境にどのような影響を及ぼしているかを講義する。 (オムニバス方式／全15回) (3 竹中規訓／8回) 物質循環の考え方を教え、現在の環境の成り立ち、大気の循環から大気環境問題、そしてその結果として土壌や湖沼へ与える影響について理解を深める講義を行なう。さらに、物質循環における土壌や生態系の役割について講義を行う。 (1 大塚耕司／7回) 海洋の成り立ち、水の基本的性質、そして地球の気候を大きく左右する海洋の循環について講義し、人間活動が海洋環境へ与えた影響について理解させる。さらに、海洋生態系の役割について理解を深める講義を行う。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	学類 共通 科目 環境生物学	<授業形態>講義 <目標>生物の進化と絶滅の歴史を軸に、生物の分類、構造、生活環、生態、生物と環境との相互作用について講義し、人間の生命や生活を支える生物多様性の意義や重要性を理解するために必要な生物学の基礎を習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・生物と環境 ・生物多様性の認識：生物多様性の階層性と分類体系 ・多様化の機構：突然変異、自然選択、遺伝的浮動、隔離 ・生命の起源：生体高分子の生成と細胞構造の確立 ・原核生物の進化：真正細菌と古細菌、シアノバクテリアと光合成 ・真核生物の起源：細胞内共生、細胞器 ・多細胞生物の出現：藻類と後生動物、細胞の分化と器官の発生、有性生殖 ・植物の上陸と多様化：器官の分化、生活環、動物との共進化 ・菌類の系統と進化 ・動物の多様化：ボディープランと器官形成、大量絶滅と適応放散 ・人類の出現と地球環境への影響：ドメスティケーション、生物多様性の保全と持続的な利用	
専門 科目	学類 共通 科目 社会学	<授業形態>講義 <目標>本講義では、社会学および隣接諸領域がこれまで培ってきた諸研究の成果に基づきながら、近・現代世界に特有の社会的現象を認識するために必要と考えられる社会理論の基本的諸類型と重要な諸概念を学ぶことを通じて、現代社会システムの動態や構造とそれが抱える諸問題に関する社会科学的な観察力の涵養を目指す。またこれを基盤としながら、さまざまなヒューマンサービスに求められる、人間と社会に対する共感的な理解と実践的かつ批判的な判断力の獲得を目標とする。 <授業計画の概要> 以下の諸項目について講義する。 ・個人と社会 ・社会階層と不平等 ・社会制度と社会システム ・現代の社会変動と社会問題 ・社会学の方法	
専門 科目	学類 共通 科目 環境システム学演習 Ⅰ	<授業形態>演習（実験・実習を含む） <目標>環境共生科学、社会共生科学、人間環境科学の観点から、学生の身の回りの環境における問題を発見、特定、分析するための方法の基礎を実践的に習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 半期の授業の中で以下の流れを2回繰り返す。 ・オリエンテーション（課題の設定） ・小グループに分かれての課題への取り組み。 ・学類全体での成果発表会の準備 ・成果発表会	共同 演習15時間 実習30時間
専門 科目	学類 共通 科目 環境システム学演習 Ⅱ	<授業形態>演習（実験・実習を含む） <目標>環境システム学演習Ⅰに引き続き、環境共生科学、社会共生科学、人間環境科学の方法論について、さらに深く、実践的に習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 学生は主として1つの課程の内容について学ぶが、必要に応じて他の課程の内容を横断的に学ぶことができる機会を設ける。半期の授業の流れは下記の通りである。 ・オリエンテーション（課題の設定） ・小グループに分かれての課題への取り組み。 ・学類全体での成果発表会の準備 ・成果発表会	共同 演習15時間 実習30時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	環境システム学演習Ⅲ	<授業形態>演習（実験・実習を含む） <目標>環境システム学演習Ⅱに引き続き、環境共生科学、社会共生科学、人間環境科学のいずれかの専門分野における研究テーマを設定し、卒業研究に向けた指導を行う。専門分野における問題設定、データ収集と分析、考察の方法を修得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・個人ごとの課題への取り組み。 ・課程での成果発表会の準備 ・成果発表会	演習15時間 実習30時間
専門科目	学類共通科目	環境システム学演習Ⅳ	<授業形態>演習（実験・実習を含む） <目標>環境システム学演習Ⅲに引き続き、環境共生科学、社会共生科学、人間環境科学のいずれかの専門分野における研究テーマをさらに深化させ、卒業研究に向けた指導を行う。引き続き、専門分野における問題設定、データ収集と分析、考察の方法を修得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・個人ごとの課題への取り組み。 ・課程での成果発表会の準備 ・成果発表会	演習15時間 実習30時間
専門科目	学類共通科目	環境システム学インターンシップ	<授業形態>実験・実習（講義を含む） <目標>企業や自治体における仕事の社会的意義について理解させるとともに、社会貢献への理解と動機づけを高めさせる。さらに、実習を通して、企業や自治体における業務の実態を体験的に理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・インターンシップに参加する際の心構え、マナー講座、キャリアデザインなどについての講義。外部講師による授業を含む。 ・企業、自治体における実習（10日間程度） ・実習の報告会	講義5時間 実習50時間
専門科目	学類共通科目	環境システム学卒業研究	<授業形態>実験・実習（演習を含む） <目標>環境システム学に関する研究テーマを定め、自然科学的・社会的科学的・人間科学的アプローチによる研究の計画、実験、調査、資料収集、解析などを教員の指導のもとに遂行し、研究調査結果のまとめ方、考察の方法、効果的なプレゼンテーション方法などを習得させることにより、研究計画を構築する能力や研究を的確に遂行する能力、さらにはプレゼンテーション能力を身につけさせ、持続的に発展可能な社会の形成に向けた現在の課題を発掘し、その問題を解決する能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・個人ごとの研究テーマへの取り組み ・中間発表会および卒論発表会	演習30時間 実験・実習120時間
専門科目	課程専門科目	地理学基礎	<授業形態>講義 <目標>地理学的思考を修得させ、多様な社会現象を空間的側面から考察する力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 人文地理学の思考とはどのようなものか、「環境」「地域」「景観」にかかわる地理的概念の基礎について講義することからはじめる。そのうえで、文化、環境問題、政治、都市、村落、言語、政治、都市、村落、観光などにかかわる社会諸現象について、地理学的視角から課題を見つけ出し、基礎的概念を応用しながら解説・分析するプロセスについて、具体例を通して講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	異文化の理解	<授業形態>講義 <目標>文化人類学の方法を用い、さまざまな文化の比較を通して、異文化の仕組みを理解させ、またそれとの対照によって自文化の特徴を明らかにさせる。このような文化の比較を通して、自分の身につけた価値観を相対化し、新たなものの見方を獲得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・狩猟採集民や農耕民・牧畜民の自然資源の利用と文化 ・異文化理解とジェンダー ・グローバル化する世界における異文化理解	
専門科目	課程専門科目	環境社会学	<授業形態>講義 <目標>環境問題はまぎれもなく社会の問題である。その解明と解決には、人間社会と自然環境をつなぐ生産と消費の仕組み、国家、市場、社会制度や社会構造などを批判的に捉える大きな視点が必要である。だが同時に環境問題は、問題にかかわる（ぶつかる）人びととそれぞれが、現実とその解釈のはざまで「生きる」こと、「生活する」こと、その息遣いを聞くことも必要である。環境問題を読み解き、解決の糸口をつかむには、常に両者の接点に身をおきながら社会を新たにデザインし、実践していくことが必要であろう。この授業では、「応用環境社会学」への展開を念頭におき、まずは社会学の基本的な思考法やものの見方について身に着けること、そして具体的な問題を用いながら、環境問題を「社会問題として」読み解き、実践へと繋がる見聞する力を養うことを目標とする。講義形式をとるが、参加者との積極的な対話を軸にすすめる。 <授業計画の概要> ・現代の環境問題と「環境と社会」の学としての環境社会学 ・持続可能性と社会：社会的正義という視点 ・「暮らす」ことの現在：何が日常と環境をもつれさせるのか ・公害問題と「生きる」場の破壊：原点としての水俣病 ・環境正義と「生きる」場の再構築	
専門科目	課程専門科目	応用環境社会学	<授業形態>講義 <目標>前期の「環境社会学」を踏まえ、さらに具体的な問題をもちいながら、特に自然環境と人間社会のかかわりについて、開発や環境リスクなど、グローバルかつ多文化へのまなざしを必要とする問題群についてさらに理解を深める。同時に、それぞれの問題を元に、どのような社会側の新たな仕組みや制度の転換、実践が必要であるのか、既におこなわれている取り組みを取り上げながら議論することを目標とする。 <授業計画の概要> ・資源と自然環境にまつわる人間社会のガバナンス：所有論、コモンズ論、アダプティブガバナンス、里山論 ・環境にまつわるアイデンティティと社会 ・環境リスクと社会：エネルギー政策と環境リスク、食と環境リスク ・多様性と社会的正義 ・社会と環境のリンクの実際を描く・省みる ・デザインする：社会的リンク論からその先へ、「生きる」場を作るために	
専門科目	課程専門科目	環境政策学	<授業形態>講義 <目標>環境問題は個人の努力では解決することができない場合が多く、その解決には多くの人間活動の組織化が必要となる。政府と市場は人間活動を組織化する手法であり、環境問題の解決手段として活用できる。この講義では「政府の役割」「市場の役割」に焦点を合わせ、環境問題に対する制度的解決に関する基礎的知識を紹介する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・政府と市場 ・経済制度と財産権の機能 ・価格メカニズムの役割 ・公共財 ・外部性 ・共有資源問題 ・ピグー税 ・許可証取引制度	
専門科目	課程専門科目	応用環境政策学	<授業形態>講義 <目標>この講義では環境問題の中でも特に水に関係するものを取り上げる。中でも日本の身近な水問題の歴史・対応策を紹介することで地球規模で生じている様々な水問題に対する理解の手助けをする。環境政策学において理論的知見を学習し、応用環境政策学ではその理論が現実の環境問題にどのように役立つのかを講義することで、理論と現実の橋渡しを行う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・日本の水問題と世界の水問題 ・日本の公害問題（足尾銅山と渡良瀬遊水地、水俣病） ・大阪の水環境問題とその対策（地盤沈下、水質汚染、洪水、渇水） ・地方自治体と地下水管理 ・狭山池の水問題と伝統知	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 公共性の社会学	<授業形態>講義 <目標>公共性ないし公共圏（public sphere, publics, Öffentlichkeit）の理念と諸制度は、西洋近代社会における政治的・経済的・文化のおよび社会的諸変革を通じて形成されたものである。それは幾多の歴史的試練を経ながらも重要性を失わないどころか、現代においてはいっそう論争的な概念として領域横断的に広範な関心を集めている。本講では、主に社会学とその隣接領域の所見に依拠しながら、公共性／公共圏の歴史的規定性と普遍的性格についての代表的な諸説を概観するとともに、現代の社会生活の諸問題と公共性／公共圏との連関を具体的な素材に即して考察することにより、現代人と現代社会が取り組むべき「公共的なもの」の在処と、そこから要請される「共生の作法」に対する意識を高め、主体的・実践的思考と態度を涵養する一助となることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の諸項目について講義する。 ・公共性の概念史 ・メディアと公共性 ・グローバル化と公共性 ・環境と公共性 ・共生社会実現のための公共性の(再)構築	
専門 科目	課程 専門 科目 大気・海洋環境学	<授業形態>講義 <目標>生態系や、環境に大きな影響を与える、大気および海洋における物質循環プロセスを講義することにより、対流圏における物質循環にもっとも重要な光の役割、酸化反応プロセスから、個々の環境問題の原因について理解を深めさせる。また、河口付近で起こる現象、海洋上層の光の関与した反応の理解から、海洋汚染問題の原因について考えさせる。さらに、大気と海洋の関わり、海洋と陸域との関わりについて講義することにより、環境問題の本質を理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 地球環境における物質循環を理解するために、まず大気組成、平均滞留時間の考え方、微量気体の濃度と反応、雨による大気の浄化と酸性雨、大気エアロゾル、地球の温暖化問題と成層圏オゾン問題を根本から理解できるように講義する。さらに、大気組成の沈着による岩石圏への影響、岩石圏の化学プロセスと土壌汚染、そこからつながる淡水の湿地、湖における化学プロセス、海洋循環、海の組成と有害物質の生物濃縮、人間活動が変える海水組成、海洋と大気、海洋と陸域の関わりについて講義し、地球全体の物質循環を理解できる講義を行う。	
専門 科目	課程 専門 科目 地域・都市環境学	<授業形態>講義 <目標>人間生活にとって関連性の深い都市域や都市周辺地域を対象として、自然環境破壊の現状と、現在表出している問題点や課題について理解を深めさせる。さらに、自然的要因や人文・社会的要因といった環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法について講述し、持続的な発展に資するエコロジカル・プランニングの理論や手法について習得させることにより、課題発掘や問題解決のための基礎的能力を養うことを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・都市域での自然環境問題 ・都市周辺の田園地域での環境問題 ・里山の環境と人の生活 ・環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法 ・エコロジカル・プランニングの理論や手法 ・オーバーレイシステムと地理情報システム（GIS）	
専門 科目	課程 専門 科目 資源循環論	<授業形態>講義 <目標>天然資源（枯渇性資源、更新性資源）を活用するためのコンセプト、わが国の物質フローと循環資源（廃棄物）の現状、資源の有限性と再生可能性について理解させ、産業活動における資源の利用のあり方について考えさせることにより、資源循環システムを構築するうえで必要な基礎的事項を修得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・資源の見かたと分類 ・更新性資源と枯渇性資源の活用方法 ・我が国の物質フローと循環資源（廃棄物） ・産業界と自然界における物質フローの比較 ・人間圏での物質循環とLCA（ライフサイクルアセスメント） ・循環型社会とリサイクル関連法 ・リサイクルの分類と主なリサイクルプロセス ・資源循環プラント（本学キャンパス内に設置）についての視察と討論	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	エネルギー循環論	<授業形態>講義 <目標>地球規模の環境問題から日常身の回りで起こっている多くの環境問題に関わる物理現象、対策技術などについて概観することで、これら事項の理解の上に環境に対する倫理観を修得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 人間の諸活動が環境に与える影響に関して、熱循環、物質循環、エネルギー循環の視点から現状および課題について物理的な側面を中心に以下の項目について講義する。 ・熱力学、伝熱学の基礎 ・地球全体に跨る熱循環、物質循環、エネルギー循環 ・国境、行政区画を越える熱循環、物質循環、エネルギー循環 ・都市内での熱循環、物質循環、エネルギー循環 ・ヒートアイランド現象およびその対策技術 ・人体の熱代謝	
専門科目	課程専門科目	公衆衛生学I	<授業形態>講義 <目標>持続可能な社会を構築する上で不可欠な、健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学の概論について講義することにより、公衆衛生学の歴史、集団の健康増進と疾病予防、疫学と保健対策について学習させ、社会水準で健康を取り扱う公衆衛生学の考え方や手法について習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・公衆衛生学序論 ・保健統計 ・疫学 ・疾病予防と健康管理 ・主な疾病の予防 ・環境保健	
専門科目	課程専門科目	公衆衛生学II	<授業形態>講義 <目標>健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学のうち、国内外で問題となっている感染症、食品衛生および環境衛生に関連するトピックスについて、実例を挙げながら講義を行うことにより、個々のトピックスについて学習させ、原因と対策および今後の課題について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・感染症（ウイルス性、細菌性、原虫、寄生虫） ・食中毒（微生物性、化学性、自然毒、アレルギー様） ・地球環境問題（地球温暖化、化学物質汚染、生物の多様性） ・空気、水、土壌の衛生	
専門科目	課程専門科目	海洋環境生態学	<授業形態>講義 <目標>海洋生態系を理解するためには、生態系を支える海洋の環境や物質循環について知る必要があることから、海の誕生と水の循環、海洋の基本的な機能と構造について講義することにより、生態系に大きく影響を与える、地形や流動などの物理的環境、水温や塩分などの化学的環境の特徴と、それらの時間的・空間的変動について理解させる。さらに、干潟や藻場、珊瑚礁といったいくつかの典型的な海洋生態系の基本構造、物質循環上重要となる食物網や生物濃縮、キーストン種等について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・海の誕生と水の循環 ・海洋の機能と構造 ・海洋の物理・化学過程とその時空間変動 ・様々な海洋生態系 ・食物網／生物濃縮／キーストン種	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 陸域環境生態学	<授業形態>講義 <目標>物理・化学的環境と生物群集とが相互作用する複雑なシステムである生態系の構造や機能を理解させ、健全な生態系の維持と生物多様性の保全を実現するために必要な科学的知識を習得させる。さらに、陸域と淡水域の様々な生態系について、その成り立ちと現状を具体的な事例をもとに解説することにより、生態系リスクの評価と管理の基礎を習得させると同時に、サイエンスコミュニケーションに必要な価値観を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・生態系サービスと生物多様性 ・生態系における種の機能 ・生物種の環境に対する適応 ・個体群動態と種間の相互作用 ・種内変異とメタ個体群 ・生物群集の構造と多種共存機構 ・生物相と環境 ・生態系リスクと持続可能性 ・高山の生態系 ・森林の生態系 ・草原・湿地の生態系 ・河川・湖沼の生態系 ・農耕地の生態系 ・都市の生態系	
専門 科目	課程 専門 科目 自然保護論	<授業形態>講義 <目標>自然と生物多様性の現状について理解させ、その維持や回復のために必要な生態学や保全生物学の基本的な理論や知識、世界および日本の取り組みについて学ばせることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・生物多様性とその危機要因 ・各種生態系の成り立ちと機能 ・保全生物学とその考え方 ・世界および日本における自然保護・生物多様性保全の取り組み	
専門 科目	課程 専門 科目 文化と共生	<授業形態>講義 <目標>国家や資本主義的世界経済の支配の下に置かれてきた人々の視点から、世界の不正な成り立ちがどのように見られ、抵抗されたのか、そして彼らは、いかにしてそこから逃れようしてきたのかを理解させ、アフリカやアジアなどの世界システムの周辺に生きる人びととのあり方と、現代日本社会のあり方を比較対照できる能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・資本主義経済に抗する「モラル・エコノミー」の実践 ・アフリカにおける妖術のリバイバル ・ナショナリズムと社会的排除 ・国家と記憶の政治	
専門 科目	課程 専門 科目 文化と景観	<授業形態>講義 <目標>一般用語であり、かつ、地理学および隣接諸分野において重要な位置を占めてきた「文化」と「景観」という考え方について、さまざまな事例の読解を通して理解・習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 地理学や隣接諸分野における「文化」「景観」の概念やその展開に学習するとともに、社会において「文化」や「景観」がどのように取り扱われているか、そのような現象を地理学的視点からどのように分析し説明することができるか、また、社会における諸活動にどのように還元していくことができるのか、現代社会における諸現象に焦点をあて、講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	食品安全論	<授業形態>講義 <目標>健康の維持・増進には、安全な食品の持続的な供給が不可欠であり、そのためには、食品の生産から消費までをカバーしたフードチェーン全体の安全性を確保する必要があることから、フードチェーンの各段階および全体における衛生管理の手法ならびにその理論について習得させ、安全な食品の定義と安全確保の方法について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・食品の安全確保の必要性 ・食品生産における安全確保の理論と技術 ・食品の製造・加工における安全確保の理論と技術 ・食品の流通・貯蔵・運搬・販売における安全確保の理論と技術 ・消費者における食品の安全確保の理論と技術 ・フードチェーン全体の安全確保の理論と技術 ・食品の安全を確保するための今後の課題と問題点	
	課程専門科目	食糧と環境	<講義形態>講義 <目標>人類の生存にとって重要な食料の安定生産は、気象変動、農耕地の劣化、化石燃料の枯渇などにより危うくなっていることから、このような変貌する条件下での農作物の安定生産技術の開発の基礎となる様々な作物種の潜在的生産能力と農耕地土壌の多様性について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・世界の食糧生産の現状と問題点 ・日本の食糧自給と農耕地生態系の維持 ・作付け体系の多様性と地力管理 ・食用作物の特性と栽培管理 ・飼料作物に特性と栽培管理 ・地力増強作物の特性と栽培管理 ・環境調和型作物生産の可能性	
	課程専門科目	環境計画学	<授業形態>講義 <目標>人と自然環境との秩序ある共生を図り、持続可能な社会を形成するためには、都市や地域での良好な環境や景観形成を計画的に推進することが重要であることから、都市や地域において行政が実施している環境施策や景観施策について概観させ、地域環境計画や景観計画の推進に係わる環境デザインや景観デザインについて、事例を用いながら具体的な形成手法の理解させるとともに、各地で推進されている市民参画型の環境づくりや景観づくりの手法について論じることにより、課題発掘や問題解決能力と創造性を向上させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・都市や地域において行政が実施している環境施策 ・環境デザイン手法 ・都市や地域において行政が実施している景観施策 ・景観デザイン手法 ・市民参画型の環境づくりや景観づくりの手法	
	課程専門科目	環境計測学	<授業形態>講義 <目標>環境を理解するためにもっとも必要である、環境を測る方法について理解させる。サンプリングの計画、環境測定データの解析に必要な統計手法および環境を測定するための装置の原理と方法を理解、習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 本講義では環境計測やサンプリング計画の基本的な考え方、繰返し測定の統計学、有意差検定などの環境分析の基本を講義する。さらに、機器分析における校正法、大気や水のサンプリング方法について講義を行い、さらに、環境分析の主流となっているクロマトグラフィーや質量分析計の原理を理解させた後、大気環境や水環境の分析法を講義する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目	再生可能エネルギー学 <授業形態>講義 <目標>環境・エネルギー問題の解決に大きな役割を持つ再生可能エネルギーについて基礎から応用まで幅広く講述することにより、エネルギーと環境との関わり、電気エネルギーや再生可能エネルギーなどエネルギーに関する基礎知識、太陽光や風力など具体的な再生可能エネルギーの特徴、利用方法、応用などに関する基礎知識を習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・エネルギーと環境との関わり ・電気エネルギーの特徴 ・太陽光・太陽熱、風力、水力、波力、バイオマスなど ・スマートグリッドなど	
専門 科目	課程 専門 科目	環境再生技術論 <授業形態>講義 <目標>様々な環境問題に対して科学的に問題解決や改善に貢献できる環境再生技術について理解させる。特に環境汚染（水汚染、大気汚染、土壌汚染）や地球温暖化、エネルギーに関する問題を解決・改善するための最近の要素技術の具体例を織り交ぜて講義することにより、環境再生のための科学的考え方を習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・触媒と吸着剤の基礎と応用 ・環境材料の基礎と応用 ・燃料電池と太陽電池 ・リサイクル技術 ・バイオマスエネルギー ・環境汚染物質の化学的処理法	
専門 科目	課程 専門 科目	環境アセスメント学Ⅰ <授業形態>講義 <目標>地球規模での持続的な発展には、様々な開発行為が地域の環境に及ぼす影響を事前に調査、予測、評価することによる適切な対応や対策が求められることから、日本および諸外国での環境アセスメントの動向からその背景と意義を理解させるとともに、アセスメント項目の中でも特に公害といった「環境の自然的構成要素の良好な状態の保持」や、廃棄物・温室効果ガスといった「環境への負荷」の観点から基礎的な知識と技術手法について理解を深めさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 環境アセスメント項目の「環境の自然的構成要素の良好な状態の保持」および「環境負荷」について講義する。 （オムニバス方式／全15回） （1 大塚耕司／5回） 日本および諸外国での環境アセスメントの動向からその背景と意義を論じるとともに、環境アセスメント項目の「環境の自然的構成要素の良好な状態の保持」の中でも、特に水圏環境の観点から基礎的な知識と技術手法について講義する。 （3 竹中規訓／5回） 環境アセスメント項目の「環境の自然的構成要素の良好な状態の保持」や「環境の負荷」の中でも、特に大気環境や温室効果ガスの観点から基礎的な知識と技術手法について講義する。 （7 興津健二／5回） 環境アセスメント項目の「環境の負荷」の中でも、特に廃棄物等の観点から基礎的な知識と技術手法について講義する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 環境アセスメント学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>地球規模での持続的な発展には、様々な開発行為が地域の環境に及ぼす影響を事前に調査、予測、評価することによる適切な対策が求められることから、「環境アセスメント学Ⅰ」に引き続き、アセスメント項目の中でも特に植物、動物および生態系といった「生物の多様性の確保および自然環境の体系的保全」や景観およびふれあい活動の場といった「人と自然との豊かなふれあい」の観点から基礎的な知識と技術方法について理解を深めさせる。さらに、環境アセスメントの手続きや制度に関する基礎的理解を図らせることを目標とする。 <授業計画の概要> 環境アセスメント項目の「人と自然との豊かなふれあい」および「生物の多様性の確保および自然環境の体系的保全」について講義する。 (オムニバス方式／全15回) (2 下村泰彦／5回) 環境アセスメント項目の「人と自然との豊かなふれあい」の中でも、特に景観およびふれあい活動の場の観点から基礎的な知識と技術方法について講義する。また、環境アセスメントの手続きや制度に関する基礎的理解について講義する。 (10 星英之／5回) 環境アセスメント項目の「生物の多様性の確保および自然環境の体系的保全」の中でも、特に動物や生態系の観点から基礎的な知識と技術方法について講義する。 (8 中山祐一郎／5回) 環境アセスメント項目の「生物の多様性の確保および自然環境の体系的保全」の中でも、特に植物や生態系の観点から基礎的な知識と技術方法について講義する。	オムニバス方式
専門 科目	課程 専門 科目 海域環境再生学	<授業形態>講義 <目標>悪化した環境を再生するためには、その環境の望ましい状況とはなにか、なぜ悪化したのか、どのような再生方法があるのかといったことを理解する必要があることから、まず海域環境が本来持っている機能と構造について理解させ、環境再生の目標設定の方法について学ばせるとともに、環境が悪化するプロセスと、それに基づいた環境再生の戦略について理解させる。さらに、様々な海洋環境再生技術について、その特徴と限界、適用可能条件について解説することにより、それらの基礎的知識を使って海域環境再生を行う計画手法について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・海域環境の機能と構造 ・海域環境再生の目標設定 ・海域環境再生技術 ・海域環境再生計画	
専門 科目	課程 専門 科目 陸域環境再生学	<授業形態>講義 <目標>人類の陸域での持続可能な発展のためには、特に都市圏における生態学的な健全性に関する理解と対応が必要となることから、都市圏における自然環境や緑地の概念を明確化することにより、その重要性について学ばせる。さらに、都市圏での環境容量の考え方や環境インフラ構築への実験的な取り組み等に関する事例を通じて、生態学的に健全な陸域環境の保全や創出に向けた環境再生に関わる計画技法や法制度についての理解を深めさせ、課題発掘や問題解決のための能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・都市圏における自然環境や緑地の概念 ・都市圏での環境容量の考え方 ・陸域での環境再生に関する計画技法 ・陸域での環境再生に関する法制度	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	課 程 専 門 科 目 環境再生学	<授業形態>講義 <目標>人と自然環境とが共生し、持続可能な環境形成を実現化させるための環境再生について、具体的な事例を用いながら概説することにより、環境再生方法に関する総合的な思考能力と応用能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 海域・大気・陸域環境の再生について、様々な側面から具体事例を挙げて説明する。 (オムニバス方式／全15回) (1 大塚耕司／2回) 海域での生態学的側面から環境再生について講義する。 (5 宮脇幸生／2回) 文化人類学の視点から環境再生について講義する。 (3 竹中規訓／2回) 大気環境に関する環境再生について講義する。 (2 下村泰彦／2回) 地域環境・景観的側面での環境再生について講義する。 (4 福田珠己／2回) 文化地理学の視点から環境再生について講義する。 (7 興津健二／1回) 物質環境面から環境再生について講義する。 (10 星英之／1回) 動物を主体とした生態学視点から環境再生について講義する。 (8 中山祐一郎／1回) 植物を主体とした生態学視点から環境再生について講義する。 (9 福永真弓／1回) 環境社会学の視点から環境再生について講義する。 (6 遠藤崇浩／1回) 環境政策学の視点から環境再生について講義する。	オムニバス方式
専 門 科 目	課 程 専 門 科 目 都市と経済	<授業形態>講義 <目標>都市や地域の経済発展は、産業の立地の強い影響を受ける。一方、産業立地や経済発展は都市・地域によって違いがある。本講義では、こうした都市・地域経済と産業立地の関係について経済地理学の視点から講義する。理論と具体的事例を関連づけて説明し、学生に身近な地域について考え直す視点を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・産業立地論の概説 ・産業集積論と地域産業論 ・世界と日本の産業立地の実際 ・都市の創造性と知識の創造	
専 門 科 目	課 程 専 門 科 目 地域研究	<授業形態>講義 <目標>グローバル化が進展する一方、ローカルな視点が社会の様々な側面で注目されている。本講義では、ローカルなるものの代表である地域に焦点を当て、地理学・地誌学的な視点から地域の諸事象について考える能力を養う。世界の複数の都市をとりあげ比較することで、日本の都市の特徴と問題について考えさせる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市構造や都市システムのモデル ・都市構造と都市システムの変容 ・日本の大都市と地方都市とその問題 ・世界の様々な都市と都市問題	
専 門 科 目	課 程 専 門 科 目 共生社会と宗教	<授業形態>講義 <目標>「グローバリゼーション時代の宗教」を考察する。21世紀は「宗教の時代」なのである。今日宗教が分からなければ世界は分からない。21世紀、人類は異質との共生を樹立できなければ、未来は拓けない。このような視点から、宗教を理解することが決定的に重要となる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・エスニシティと宗教 ・国家と宗教 ・近代における宗教 ・宗教のプレモダン／モダン／ポストモダン ・グローバリゼーション時代における宗教の変容 ・共生社会の必然性	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	文化と宗教	<授業形態>講義 <目標>日本宗教の「救い」を考察する。21世紀、グローバリゼーションが刻々進展する時代にあつて、私たちの文化伝統の屋台骨をなす宗教文化を見つめ直すことは必須不可欠である。それは「21世紀、東アジアの片隅で生きる私たちは、いかに幸福に、死ぬことができるかを、理論的に問う」ことでもある。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・宗教と呪術と科学 ・民俗宗教と教団宗教 ・新宗教／新新宗教／スピリチュアリティの興隆 ・日本宗教の「革新」―鎌倉仏教の祖師たち ・海を渡る日本宗教 ・21世紀における日本宗教の「可能性」	
専門科目	課程専門科目	共生社会とアイデンティティ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、社会構造やさまざまな社会制度が、人々のアイデンティティをどのように形作り、また変容させうるのかについて考えていく。その際、特に心理学における類似の議論との対比をしつつ、社会科学における捉え方の理解を通して、この領域のもつ重層性について把握させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・アイデンティティの捉え方の諸相 ・自我形成と他者の役割 ・社会問題としての不登校・ひきこもり現象について	
専門科目	課程専門科目	現代の社会問題と社会運動	<授業形態>講義 <目標>それが「自然環境問題」であれ「社会問題」であれ、近代社会の成熟に伴行して登場してきた諸問題は、いずれも人や集団、組織が何らかの問題性を対象に見出し、その問題性を他者に告発し、政治や制度における対応を働きかけることを通じて顕在化する。ゆえにさまざまな「社会運動」は、個々の問題を社会に顕在化させ、人々に対応を促すうえで、常に重要な役割を担ってきた。この講義では、「自然環境問題」や「社会問題」が、人々や社会において対応が必要とされる特定の問題として概念化され、そのことを通じて具体的な政策や社会制度として結実する一連の過程に着目し、そのダイナミズム自体を研究対象とする「社会構築主義」理論について、事例を交えながら解説する。それを通して、「自然環境と人との共生」「他者との共生」という理念を実現するために、どのような主体や組織、政策や制度がありうるのかについて、考えさせることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・社会問題論および社会運動論の概説的知識 ・社会構築主義アプローチの理論的可能性と限界 ・社会的に構成された概念と人々による社会運動的な活動との間の再帰的關係について	
専門科目	課程専門科目	法と紛争の社会学	<授業形態>講義 <目標>法およびその周辺の諸概念を正しく理解することを基軸にして、法を一つの社会システムとして経験科学の視点から捉え、その作動過程（権利や紛争なども含む広義の法過程）を検証し、現代社会の構造および機能について考察するための視座を得させることが目標である。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する（全15回）。 社会と個人の相互規定、法の概念をめぐる諸相、法と社会の連関、紛争の実態と理論モデル、権利の展開とその可能性、法の限界と裁判外の紛争処理。	
専門科目	課程専門科目	教育福祉と政治	<授業形態>講義 <目標>福祉・保育・教育について、その理念や方法が社会における規範のあり方や資源の配分に左右されるという点で政治と深く関わっていることを学ばせるとともに、それらをめぐる諸政策の現代政治における位置づけについて考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・現代社会における生活と政治の関係 ・福祉をめぐる政策と政治 ・保育をめぐる政策と政治 ・教育をめぐる政策と政治 ・社会政策の体系とその国際比較 ・「福祉国家」の発達・再編と福祉・保育・教育	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 環境倫理と現代社会	<授業形態>講義 <目標> エコシステム／社会システム／人間存在の歴史の変遷を俯瞰的に捉えることで現代社会の歴史的位相について講義するとともに、そこから現代社会を構成する主要な対抗軸について論じる。そして現代社会に生きるということの意味を再考することによって、「環境の世紀」に生きる心構えを養う。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・導入1（21世紀の対抗軸と”環境”） ・導入2（近代の成立と現代社会） ・エコシステムと社会システム1（エコロジー経済学の視座より） ・エコシステムと社会システム2（社会－生態システム論の視座より） ・社会システムと人間存在1（近代における人間の理想と普遍倫理） ・社会システムと人間存在2（人間存在の倫理） ・「20世紀」とは何か ・近代的世界像と「科学」／「進歩」 ・近代的世界像と「開発」／「成長」 ・「情報」と人間存在 ・近代社会システムと「共同体」／「コミュニティ」／「アソシエーション」 ・21世紀に生きる——世代間倫理の再考 ※受講者の人数によってグループワークの実施も検討する	
専門 科目	課程 専門 科目 現代社会と人間	<授業形態>講義 <目標>現代社会に生きる人間の本質をその社会環境・歴史環境を背景として考察することをとおして、人間についての多面的で深い洞察力を受講者に獲得させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・人間学の基礎理論 ・社会環境、歴史環境が人間存在に及ぼす影響 ・宗教、社会心理が人間存在に及ぼす影響 ・現代に生きる人間を描いた映像作品の批評方法 ・フィクション作品を素材とした哲学的洞察の手法 ・講義においては受講者との積極的な対話に時間を割くこととする	
専門 科目	課程 専門 科目 現代の社会思想	<授業形態>講義 <目標>カントからハーバーマースにいたるドイツの社会思想を、そのつどの戦争と相互承認という視座で講義する。これによって、21世紀において私たちがどのような社会を規範的に構成すべきかを、思想史的な観点から考察できるように、受講生を導く。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・カントの永遠平和の理念 ・ナポレオン戦争をめぐるフィヒテとヘーゲル ・普仏戦争をめぐるマルクスとニーチェ ・第一次世界大戦後の思想—ローゼンツヴァイクとハイデガー ・第二次世界大戦後の思想—アドルノとアーレント ・ハーバーマースの戦後思想	
専門 科目	課程 専門 科目 科学の思想	<授業形態>講義 <目標>自然科学のあり方は、社会や文化・思想によって多様であることを理解し、自然科学をいかに評価し、利用するかを検討する。科学の歴史的・文化的背景を理解し、科学を絶対的な真理として崇拝するのでも、いたずらに不信感を持って不合理な行動に走るのでもない、科学に対する適切な態度を確立させることが目標である。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・過去における文明と科学の関係を検討する。古代ギリシャ、ルネサンス、近代など多様な実例をとりあげる。 ・現代における、科学と社会の相互の関係を科学技術政策、科学報道という2つの側面を中心に検討し、科学に対する適切な態度について説明する	
専門 科目	課程 専門 科目 日本の歴史環境	<授業形態>講義 <目標>本講義の目標は、現代の市民社会の一員として未来を担っていくべき主体として、現代日本を構成している歴史的環境を構造的に把握し、将来を豊かな歴史認識にもとづいて構想していく能力を身につけさせることである。 <授業計画の概要>日本史の概説について講義しながら、現代日本に関わる歴史的諸問題の起源と構造について考察を行なう。	
専門 科目	課程 専門 科目 個人創造の思想史	<授業形態>講義 <目標>個人を社会関係や権力関係など多様な環境のなかで理解させる。近代とは何かを考えるきっかけを与え、考えを深めさせることを目標とする。 <授業計画の概要>近代の歴史において、人間観や個人観の変遷がいかなるものであったか、いかなる個人を近代人は構想し、それを国家や社会といかに結びつけてきたか、そしてそのことと近代の権力はどのような関係にあったのか、それらを歴史的・思想史的に考察しながら講義する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 東洋文化史	<授業形態>講義 <目標>中国を中心とする東アジアの様々な文化事象を歴史的視点から取り上げ、問題提起を行う。これにより、東アジアが日本文化のルーツのひとつであることを確認し、東アジア文化の新たな可能性を考えさせる。 <授業計画の概要>道教、陰陽五行、壺中天、養生術、山水論等、東アジアの文化にかかわるさまざまな問題を提供し、思想・歴史・文学等の枠組みにとらわれずに、多面的に解説する。	
専門 科目	課程 専門 科目 西洋文化史	<授業形態>講義 <目標>西洋文化がどのように形成されていったか、その過程を見るとともに、そのようにして形成された西洋文化の諸層を多角的な視点に立って講義する。それによって西洋文化を論じる視点の基礎を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・ギリシア文化の形成 ・ギリシア文化の伝播 ・ギリシア文化・アラビア文化の受容と西欧文化の形成 ・西洋文化における社会の変遷 ・西洋文化におけるジェンダー観の変遷 ・文学テキストに反映された西洋文化の諸相	隔年担当
専門 科目	課程 専門 科目 社会構想の文化史	<授業形態>講義 <目標>人類はその誕生からまもなくして、理想の社会あるいは世界の夢を始めた。人類の歴史は、同時に、世界や社会の構想の歴史でもある。それはユートピアをはじめ、アルカディア、エルドラド、桃源郷などなど、さまざまにイメージされてきた。ここでは、こうした人類の夢の歴史を追いながら、混迷をきわめる現代に、人類の豊かな想像力のあり方を知り、その資するところをはなにかを把握させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市の発生と宗教 ・ユートピアとパラダイス ・近代における中世主義 ・産業と管理	
専門 科目	課程 専門 科目 都市文化論	<授業形態>講義 <目標>20世紀の大衆音楽とは本質的に都市の民衆の表現であり、そこには、世界的に移動する民衆の経験が凝縮されている。都市は国境を横断して移動する民衆の渦巻く場であり、音楽はその衝突や融合の過程の結晶なのである。ニューオーリンズのジャズ、ブエノスアイレスのタンゴ、キングストンのレゲエ、ニューヨークのヒップホップなど、その事例には枚挙にいとまがない。ここでは、このような音楽表現に実際にあたりながら、近代から現代にいたるまでの私たちの都市の経験についてグローバルな視点から理解させる。 <授業計画の概要>視聴覚資料を活用しながら授業をおこなう。以下の項目を講義する。 ・奴隷貿易とアメリカ・カリブ文化について ・口承文化と文字文化 ・近代的な音楽構造と前近代的な音楽構造	
専門 科目	課程 専門 科目 マイノリティと文化システム	<授業形態>講義 <目標>国家的秩序のなかでマイノリティ（少数者）の位置を与えられた者と文化システムの形成について論じる。マイノリティは、一般に例外的存在と見られるが、そうではなく、国家が文化的な一元性をめざすかぎり必然的に生みだされ、マジョリティを構成する国民のアイデンティティ形成に不可欠な存在である。マイノリティが、文化のシステムを考えるうえで重要な論点であることを理解させ、文化と国家の関係についての視点を身につけさせることを目指す。 <授業計画の概要>以下の項目をとりあげる。 ・近代国民国家とはなにか。 ・マイノリティと国民国家。 ・マイノリティの文化とナショナル・カルチャー。	
専門 科目	課程 専門 科目 ジェンダーと社会	<授業形態>講義 <目標>ジェンダー・センシティブな視点の習得により、さまざまな社会問題に潜むジェンダーを分析的に把握し、問題解決に向かうことができる実践的な力を身につけさせる。 <授業計画の概要> ・ジェンダー概念と必要性の理解 ・ジェンダーの世界的多様性と歴史的变化 ・ジェンダー理論と分析的な先行研究例 ・ジェンダー構造にともなう差別 ・ジェンダーと政策・国際的動向 ・今日の社会の諸問題と今後の課題	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	ジェンダーと教育	<授業形態>講義 <目標>教育および広く人間形成においてジェンダーが果たす役割について基礎的知識を学ばせ、性別にかかわらず一人一人が自らの能力を発揮できるためにはいかなる教育が必要かを考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・近代におけるジェンダー教育の歴史 ・学校における明らかなカリキュラムと隠れたカリキュラム ・教科書の内容におけるジェンダー ・学校外の場におけるジェンダーと教育 ・ジェンダー公平な教育 ・教育におけるジェンダーと国際社会における取り組み	
専門科目	課程専門科目	現代の言語環境 A	<授業形態>講義 <目標>同じ言語の話者同士であっても、個人が使用する言語体系は、世代、性別、地域、職業、生い立ちなどによって異なっている。個人の言語が、個人の社会的な位置づけやアイデンティティと深く関わっていることを理解させ、様々な社会事象のなかでの言語の位置づけについて考えさせる。 <授業計画の概要> ・現代日本語の歴史性と民族的背景 ・言語および方言の社会的地位 ・日本語のジェンダー ・日本の言語景観、世界の言語景観 ・共通語と方言の関係 ・アメリカ英語と日本語の言語変種の社会性	
専門科目	課程専門科目	現代の言語環境 B	<授業形態>講義 <目標>言語は、社会の中で「存在する」だけのものではなく、様々なコミュニケーションのレベルで「使用される」ものでもある。この授業では、現代の言語環境について、対人性、都市性、心理性、メディア性といった観点からコミュニケーションレベルで講義し、望ましいコミュニケーション環境を構想する能力を養うことを目的とする。 <授業計画の概要> ・敬意表現、卑罵表現のバリエーション ・忌避することば、慶弔のことば ・スタイルシフト、コードスイッチング ・都市と非都市の言語生活 ・メディア言語生活	
専門科目	課程専門科目	言語の社会システム A	<授業形態>講義 <目標>言語進化論や民族主義的ナショナリズムといった近代国民国家形成と関連する言語思想について、社会システム形成の観点からいかなる特質が存在するのかという点を中心に、個別言語学としての日本語学や、一般言語学の知見をふまえて講義する。多様な側面をもった近代社会システム形成における言語の役割とその意味について、言語思想の史的展開に注目しつつ、言語学において提示された言語観について習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・言語思想と社会システムとの関係 ・西洋古代・中世言語思想史 ・近代言語学史 ・日本語研究史と東アジア言語思想史	
専門科目	課程専門科目	言語の社会システム B	<授業形態>講義 <目標>植民地において実施された言語政策の諸類型と、宗主国における主要な植民地政策思想との関係について、社会システム形成の観点からいかなる特質が存在するのかという点を中心に、個別言語学としての日本語学や、一般言語学の知見をふまえて講義する。多様な側面をもった近代社会システム形成における言語の役割とその意味について、言語政策の史的展開に注目しつつ、政策研究において提示された言語観について習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・言語政策と社会システムとの関係 ・近代言語政策の史的展開 ・国民国家の形成と帝国主義 ・植民地主義とポスト・コロニアリズム	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	課程 専門 科目 言語システムと文化 A	<授業形態>講義 <目標>日本語は、日本語を表示するための文字を持っているという点において、言語全体の中にあつては、少数派に属する。また、いわゆる表意文字と表音文字の2種類の文字を併用しているという点において、世界でもまれに見る言語システムといつてよい。授業では、こうした併用を生み出した契機であつたと思われる漢字と日本語の最初の接触から、日本語書記が完成して行くまでの時代を中心に、日本語という言語システムによって育まれた日本文化について、理解を深めさせる。 <授業計画の概要>以下の内容を講義する。 ・世界の中の日本語 ・漢字と日本語 ・日本語の文字システム ・文字システムと文化 ・文字システムと表現	
専門 科目	課程 専門 科目 言語システムと文化 B	<授業形態>講義 <目標>言語に内在するシステムを、社会文化との関わりにおいて論じる。その過程で、現代の対照言語学、テキスト言語学、対照修辞学、認知言語学の基本的考え方に触れる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・日本語のテキスト（文章）構造に関する慣習や規範を、英語やフランス語を初めとした他の言語と対照させることで、日本語独自の言語システムを解明する。 ・日本語的思考の特色を、主として言語と文化との関連において明らかにする ・日本語、英語、フランス語そのものの持つ規則を、多様な観点から論じる。	
専門 科目	課程 専門 科目 ディスコースと社会	<授業形態>講義 <目標>我々の相互行為は社会における種々の要因とどのように関連しているのかということについて、現実のコミュニケーションにおけるメッセージの解明を目指す談話分析（ディスコース・アナリシス）の視点から講義を行う。どのような価値観や前提の違いがコミュニケーションにどのような影響を及ぼすのか、相手に対する配慮はどのように示され、また理解されるのかという、社会における共生・相互理解の問題について考えさせ、分析させ、その際に得た気づきや関心についての理論的な位置づけについて講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・コンテキストについて ・種々の価値観について ・談話分析について	
専門 科目	課程 専門 科目 メディアコミュニケーション	<授業形態>講義 <目標>新聞・雑誌・インターネットなどによって提供される種々の記事について、その構造や伝達されるメッセージの解釈に関する講義を行う。そして、不特定多数の受け手を対象として提示される情報がどのような特徴や構造を持っているのかなどについて、批判的談話分析というアプローチをもとにしてデータを分析しながら考えさせ、その理論的な背景について講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・メディア・ディスコースの構造や言語的特徴について ・批判的談話分析について ・メディア・ディスコースにおけるメッセージについて	
専門 科目	課程 専門 科目 社会調査実習Ⅰ	<授業形態>実験・実習 <目標>実証的に考察をすすめる際のデータ収集の方法である社会調査法について、基礎的な考えを学び、学生各人に実際に調査を企画・実施させることで、社会調査の方法論を習得させることを目標とする。 <授業計画の概要>学生は以下の流れに沿って上記を実践する。 ・オリエンテーション（課題の設定・確認） ・社会調査法についての演習 ・調査対象の選定と具体的調査計画の策定 ・本調査の実施	共同
専門 科目	課程 専門 科目 社会調査実習Ⅱ	<授業形態>実験・実習 <目標>社会調査実習Ⅰを受け、本調査で取得した調査データの処理の方法や、調査報告を作成する作業を通じて、社会調査から実証研究を具現化する方法論について習得させることを目標とする。 <授業計画の概要>学生は以下の流れに沿って上記を実践する。 ・本調査の報告と内容の検討 ・追跡調査の実施 ・調査報告の構想 ・調査報告の執筆	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	認知科学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>近年の認知心理学と神経科学の発展によって得られた知見を総合して、視覚と聴覚の仕組みについて解説することにより、人間が環境情報を認知する過程について具体的に理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・認知科学の基本的な方法論 ・視覚系の仕組み ・形、色、奥行き、運動などの、特徴レベルの視覚的認知過程 ・物体の認知、注意などの高次視覚認知過程 ・意識的处理と無意識的处理 ・聴覚系の仕組み ・音の大きさと高さの認知過程 ・言語音の認知過程 ・ヒト以外の生物による環境情報の認知	
専門科目	課程専門科目	認知科学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>認知科学の諸分野の中でも、高次認知の過程について概説した上で、それらの認知過程を支援するための教授法について理解させる。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・作動記憶のモデル ・記憶のモデルと認知過程 ・知識構築とスキーマ ・読解のプロセス ・問題解決と推論 ・メタ認知 ・協調学習とITS	
専門科目	課程専門科目	認知情報処理Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>神経系における情報処理の仕組みについて解説する。脳内の神経細胞の構造と機能に関する基礎的な知見と、人工ニューラルネットワークによる認知情報処理過程のモデル化の手法について解説することにより、生体の神経系における情報処理の特徴を理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・脳の構造と機能の概観 ・神経細胞による情報伝達と符号化の仕組み ・神経細胞による学習の仕組み ・人工ニューラルネットワークによる神経回路網のモデル化 ・教師なし学習、教師あり学習、強化学習 ・認知情報処理のモデルとシミュレーション	
専門科目	課程専門科目	認知情報処理Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>人間の認知について認知心理学、生態心理学の立場から検討し、コンピュータに実装するための手法について講述する。画像等の特徴抽出をするためのプログラムを実装したり、学習プロセスをシミュレートするための各種手法について解説することにより、情報処理研究の基礎を理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・システム論基礎 ・認知システム ・生態心理学基礎 ・自己組織化	
専門科目	課程専門科目	組織環境と行動	<授業形態>講義 <目標>集団、組織環境における人間の行動について、心理学の知見を基礎として社会心理学、組織心理学の観点から理解するうえで必要な考え方を習得させ、同時に現代の組織の実情についての理解を進める。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・集団の形成と課題遂行 ・組織内のリーダーシップ ・仕事の動機づけと満足 ・人的資源管理と人事評価 ・キャリアと組織文化 ・職務ストレス	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	対人環境の認知	<授業形態>講義 <目標>対人環境における人間の認知およびそれに基づく行動に与える他者の影響について基礎となる知識と考え方を習得させ、個人の社会的な行動について、個人特性、個人間の社会的相互作用、社会的状況の観点から理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・対人認知 ・社会的推論と原因帰属 ・自己と自己概念 ・態度形成と態度変化、説得 ・対人魅力と対人関係	
専門科目	課程専門科目	知的システム設計	<授業形態>講義 <目標>人間などの動物が持つ認識・意志決定システムを分析し、モデル化するための基礎的事項について講述する。パターン識別問題、クラスター分析などの様々な方法を紹介し、人間の評価・意志決定・学習のモデルがインターフェースとしてどのように応用研究されているかについて論じる。各種手法と認知システムの応用技術について知識獲得させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・学習システム ・ヒューマンインターフェース ・エージェント ・マルチエージェント	
専門科目	課程専門科目	心理発達と環境	<授業形態>講義 <目標>人間の行動とこころの発達が、遺伝的形質と環境との相互作用によって発現するプロセスを説明することを通して、知的機能と情緒的特性の発達がどのように関わりあっているのかについて理解させる。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・ヒトの生物学的特徴 ・乳児期の知的発達と社会性 ・幼児期の知的発達と社会性の獲得 ・児童期の知的発達と対人技能の獲得 ・青年期の知的発達と自我同一性の確立	
専門科目	課程専門科目	心理検査法	<授業形態>実習 <目標>心理臨床の現場で使用されている各種の心理検査に関して実習を通して理解を深めさせる。各々の心理検査の機序を学ばせ、学生相互で検査を体験的に学習しながら得られる結果を考察させる。その体験を踏まえ、心理検査によって見えるもの、見えないものの知見を深める。 <授業計画の概要>以下の項目を実習形式で行う。 ・心理検査とは何か ・エゴグラム、YG検査の実施と解釈 ・バウムテストの実施と解釈 ・風景構成法の実施と解釈 ・知能検査の実施と解釈	
専門科目	課程専門科目	心の病理学	<授業形態>講義 <目標>人間と環境との相互作用の結果生じる心理学的な現象の中に、心の病や心理学的な不適応という現象がある。その心の病についての症候論、解釈理論、原因論などに関する基礎的な知識を習得させる。 <授業計画の概要> ・精神医学領域における精神病理学の歴史的な展開 ・19世紀後半から生じた力動的な観点 ・その後登場する哲学や人間学を基礎とする精神医学 ・アメリカを中心に発展してきた記述精神医学 ・多軸診断の考え方、国際疾病分類の検討	
専門科目	課程専門科目	心理療法論	<授業形態>講義 <目標>心理療法の治療論や技法論を講義する。心の発達における環境や人間関係の役割について説明する。また、心の病が人間と環境のどのような相互作用から生じるのか、心理療法はそれらの相互作用にどう介入するのか、そして心理療法の過程はどのように展開し、人間と環境にどのような影響を与えるかも説明したい。 <授業計画の概要> オムニバス形式全15回 ・(30 高橋幸治／5回) 心理療法の理論、心理療法の技法 ・(29 川部哲也／5回) 心理療法における意識の問題、環境の主観性と客観性 ・(33 橋本朋広／5回) 心理療法における変容の過程、心理療法における実存と世界	オムニバス形式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	臨床心理学概論	<授業形態>講義 <目標>臨床心理学の歴史と方法について概説し、臨床心理学の特殊性を論じ、個人の深層心理と環境との相互関連について講義する。 <授業計画の概要> ・心の病とその治療法に関する歴史的な展開 ・主観性を対象とする臨床心理学の特殊性 ・主観概念、主体概念の検討 ・心の構造と機能 ・心理的問題の分類 ・臨床心理学的な査定と介入の概説 ・臨床心理学と心理臨床の実践	
専門科目	課程専門科目	人間関係と適応	<授業形態>講義 <目標>人間と環境との関係を考える上で重要な、人間関係と環境適応についての知識を習得させる。具体的には、適応概念の問い直し、適応を巡る問題、種々の人間関係における適応のあり方、特殊環境（例えば、南極基地や宇宙ステーションなどの長期閉鎖環境など）における適応のあり方について、臨床心理学の理論を援用しながら具体的に論じる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・適応・不適応とは何か（環境適応論） ・心理学的にみた人間関係 ・特殊環境における人間関係 ・私たちを取り巻く環境と現代の適応	
専門科目	課程専門科目	身体と心理臨床	<授業形態>講義 <目標>心理臨床場面での身体の問題をテーマとする。まず、「物体としての身体」とは異なる「イメージレヴェルの身体」について理解を促す。その視点から心身症やヒステリーなどの身体症状を考え、人間の心身の全体性について触れる。また、治療プロセスにおける身体性に迫る。 <授業計画の概要>以下の内容を扱う ・ヒステリーについて ・心身症について ・身体症状の意味 ・心理療法における身体 ・「意識してる現実」と「身体が生きている現実」 ・身体についての語り ・身体と無意識	
専門科目	課程専門科目	人間環境科学演習Ⅰ	<授業形態>演習（講義を含む） <目標>心理学における研究に必要なより進んだ統計方法を実習を通じて習得させる。特に、統計パッケージを利用した多変量解析の理論的解説と実際の適用方法の実習を行なう。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・分散分析 ・因子分析 ・重回帰分析 ・共分散構造分析	講義20時間 演習10時間
専門科目	課程専門科目	人間環境科学演習Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>人間環境科学領域における代表的な研究テーマを複数取り上げ、理論的な背景や研究史について論文や書籍をもとに研究発表と討論を行なうことを通じて、人間環境科学のための議論の展開方法や研究の進め方についての理解させる。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・人間環境科学への実証的アプローチⅠ ・人間環境科学への実証的アプローチⅡ ・人間環境科学への臨床的アプローチⅠ ・人間環境科学への臨床的アプローチⅡ	共同
専門科目	課程専門科目	環境心理学	<授業形態>講義 <目標>身の回りに実際にある環境を取り上げ、その環境を構成する社会的・物理的要因を概説し、人間の反応・行動と環境との相互作用を理解させることで、人と環境のやりとりから生じる問題を改善・軽減するための視点を修得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・環境認知 ・環境評価 ・空間行動 ・住・都市環境 ・教育環境 ・労働環境 ・自然環境 ・犯罪と環境	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	ヒトと住環境	<授業形態>講義 <目標>住環境を、空間構成や熱・音などの物理的要因および、隣人と形成するコミュニティや歴史・文化などの社会的要因から概説し、ヒトの反応・行動と住環境の成り立ちや機能・性能の関連を理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・ヒトと音環境 ・ヒトと光環境 ・ヒトと熱環境 ・ヒトと空気環境 ・ヒトの生活と住まいの機能・計画	
専門科目	課程専門科目	文化心理学	<授業形態>講義 <目標>人間の発達には、育つ文化と無関係ではあり得ない。発達とは文化的発達であり、文化とは抽象的なものではなく、具体的な行為やもの・人との関わりの中にあられるものである。このような観点から、本授業では「文化と発達」をテーマとして掲げ、理論的概説を踏まえて自分自身の生育史をそのテーマから読み解く。そして、他文化での人間発達の様相を学習しながら、あらためて「発達」と「文化」について理解させる。 <授業計画の概要> ・自分史を文化から読み解く ・コミュニティにおける「発達」を考える ・「文化と発達」に関する聞き取り調査を行う。	
専門科目	課程専門科目	ことばの意味と認識	<授業形態>講義 <目標>ことばの意味は、我々の精神活動が生み出したものである。言語表現を注意深く観察すると、我々の様々な認識のあり方が浮かび上がってくる。この授業では、主に日本語と英語の豊富な実例を通して、ことばの意味にいかにより我々の認知作用が根深く関わっているかを講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・意味と認知 ・意味とカテゴリー化 ・多義と意味ネットワーク ・意味展開の動機づけ ・文法と認知	
専門科目	課程専門科目	共生の思想	<授業形態>講義 <目標>近代化の進展とともに、人びとは自然および社会環境の根本的な変容を経験することになった。この講義では、そのさい発生したさまざまな問題を確認し、その統御の技術がどのように構想され、実行に移されたかを具体的な事例をもとに検討する。そのさい思想と現実との相互作用に注目しつつ、その媒介となる技術および社会制度についての特性を理解し、人間が共生することの意味を考察する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市の拡大と社会問題 ・人口と権力 ・生命の管理と統治	
専門科目	課程専門科目	共生コミュニケーションA	<授業形態>講義 <目標>人と人とのコミュニケーション活動は、言語的な要因だけではなく、数えきれない種類の文化的・社会的な背景知識の共有を前提として成立している。この授業では、実例の分析を行う演習をまじえた講義によって、コミュニケーションの背後で働いているさまざまな要因に目を向けさせる。 <授業計画の概要>以下の項目について講義を行う。 異文化間コミュニケーション - ことばと身体・空間 - ことばと習慣・慣習 - ことばと社会・環境 国際語としての英語	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	課程専門科目	共生コミュニケーションB	<授業形態>講義 <目標>人と人とのコミュニケーション活動を支えているさまざまな要因についての理解をさらに深めるために、より発展的な素材を取り上げ、ことばを取り巻くコミュニケーションの諸相について多面的な分析をさせた上で、その結果の理論的な位置づけについて講義する。 <授業計画の概要>以下の項目について講義を行う。 なぜわからないのか：ことばの要素・ことば以外の要素 なぜ伝わらないのか：ミスコミュニケーションの要因 なぜ笑えないのか：ユーモア・ジョークを支えるもの 共生のための外国語教育 (オムニバス方式／全15回) (38 内田充美/8回) 主として北米地域以外の英語圏の題材を取り上げて講義する (89 宮畑一範/7回) 主として北米地域の英語圏の題材を取り上げて講義する	
専門科目	課程専門科目	人間形成論	<授業形態>講義 <目標>人間が形成されていくプロセスについて、他者と出会い、文化や社会と関わることによって可能になるという根本的な観点のもと、基礎的理論的知識を学ばせるとともに、その諸相について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・人間形成と教育 ・自然と文化と人間 ・生/死/いのちと人間形成 ・人間の発達と人類の歴史 ・近代公教育制度の歴史的意義 ・オルタナティブ教育 ・個性と社会性 ・芸術としての教育 ・アイデンティティと物語 ・バイオグラフィ ・出会いと対話	
専門科目	他学類専門科目	アルゴリズムとデータ構造	<授業形態>講義 <目標>正しいプログラムの動作原理であるアルゴリズムと、アルゴリズムを効率的なプログラムとして実装する際に不可欠なデータ構造について、系統的に学習する。講義では、はじめにアルゴリズムの効率を測る計算量の概念を与えた上で、さまざまな代表的なデータ構造を解説する。その後、整列やグラフ・ネットワークにおける最適化問題など実用的で重要な例を取り上げ、アルゴリズムの基礎的な設計技法とともに、適切なデータ構造が効率的なアルゴリズムを実現することを理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・アルゴリズムとデータ構造、計算量の関係。 ・基本的なデータ構造。 ・応用的なデータ構造。 ・さまざまな実用的な問題の紹介。 ・代表的な問題に対するアルゴリズムの具体例。 ・効率的なアルゴリズムの設計技法。	
専門科目	他学類専門科目	マルチメディア情報処理	<授業形態>講義 <目標>近年、映像、音声、文字メディア等を含むマルチメディア情報が情報システムでよく用いられている。本講義では、マルチメディア情報処理における基礎的な技術を習得させるとともに、ヒューマンインターフェースに関して、具備すべき条件と実現技術、およびそれらを応用した具体的なシステムについて理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・マルチメディア情報の入力技術 ・表現方法（符号化、データ圧縮技術） ・マルチメディア情報の出力技術 ・ヒューマンコンピュータインタラクション	
専門科目	他学類専門科目	情報セキュリティ	<授業形態>講義 <目標>情報システムの専門性について総合的に理解させ、情報セキュリティに関して高い技術者倫理を持つ高度な専門技術者として継続的な研鑽を続けることができる基礎的知識を習得させる。特に、情報システムをエンドユーザとして利用するときだけではなく、企画・計画・運営する際に必要となる情報セキュリティに関する知識を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムに関する倫理、関連法規 ・知的財産権 ・個人情報保護 ・コンピュータ犯罪 ・インターネットと社会との関わり ・情報セキュリティ技術	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	オペレーティングシステム	<授業形態>講義 <目標>オペレーティングシステムのための基本的概念と基本的アルゴリズムについて理解させる。オペレーティングシステムの歴史、基本構造、プロセス管理、メモリ管理、入出力管理、ファイルシステムなどについて講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・オペレーティングシステムの基礎概念 ・プロセス管理 ・メモリ管理 ・入出力管理 ・ファイルシステム	
専門科目	他学類専門科目	知識情報システムの企画・計画	<授業形態>講義 <目標>組織活動とそれを支える情報システム導入の歴史、経営目的から必要とされる情報システムの機能要件や構成を決定する企画・計画策定に関する知識、プロジェクト管理（工程管理）・品質展開に関連するシステム技術の概要を講義する。さらにケーススタディを用いて企画書を作成する力を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・組織活動と情報 ・経営戦略と情報システム ・インフラストラクチャ計画 ・アプリケーション計画 ・ERP:Enterprise Resource Planning ・サプライチェーンマネジメント ・電子商取引 ・プロジェクト管理技法PERT ・品質展開技法QFD	
専門科目	他学類専門科目	知識情報システムの開発・運営	<授業形態>講義 <目標>情報システムを開発・運営する上で必要となる分析、設計、開発、運営などの各プロセスを、現代の情報システム開発・運営において適用されている代表的な方法論及び技法を通じて習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・構造化分析、オブジェクト指向モデルなどのシステム分析・モデル化手法 ・仕様記述法 ・問題の複雑さや情報システムの品質尺度と評価 ・開発工程とその管理 ・情報システム開発における標準化 ・ソフトウェア保守 ・エンドユーザコンピューティング ・情報システム部門の役割	
専門科目	他学類専門科目	情報システム構成論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、コンピュータシステムやネットワークの集合体である大規模な情報システム構成の基本的な特徴を理解することを目標とする。情報システムには、分散処理や並列処理などのさまざまな処理形態があることを理解させ、その構成要素について講義する。また、情報システムの性能評価手法や評価指標について解説する。さらに、情報システムの信頼性についての基本的な事項について解説する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムの構成 ・システム性能評価 ・情報システムの信頼性	
専門科目	他学類専門科目	Webサービスデザイン	<授業形態>講義・演習 <目標>本講義ではWebサービスを構成するWebアプリケーションの開発技術について概説する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・Webアプリケーションの仕組み（MVC） ・クライアントサイド技術（ページレイアウト、マルチメディア・リッチコンテンツ） ・サーバサイド技術（システムプログラミング、データベース） ・リッチクライアント技術（XML, DOM, Ajax, RIA） ・Webサービスデザイン（マッシュアップ）	講義 7.5時間 演習 7.5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	知識科学概論	<授業形態>講義 <目標>認知科学、言語学、知識の構成原理を議論する哲学などの素養を身につけ、知識の成り立ち、知識創造方法論、ならびに知識を中心においたシステムの基礎理論の習得を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・知識とは ・知識創造論 ・エキスパートシステム ・知識表現 ・自然言語処理 ・概念依存関係理論	
専門科目	他学類専門科目	自然言語処理	<授業形態>講義 <目標>人間の言語を計算機的に処理するための理論・技術を扱う自然言語処理の諸分野について講義する。語という小さな単位から文章という大きな単位までの解析法を概観した後、その応用としての機械翻訳などの基本的な手法を紹介し、それらを知識情報システム構築で活用するための基礎を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・チャンキングの技法 ・形態素解析と係り受け解析 ・統語解析 ・意味解析 ・談話解析 ・規則に基づく処理と統計学習に基づく処理 ・機械翻訳 ・対話システム ・自動要約 ・多言語情報処理	
専門科目	他学類専門科目	情報技術と企業活動	<授業形態>講義 <目標>情報技術は、企業の生産性、費用、価値、組織改革などに影響を与える。アナログ時代の技術に固執してデジタル化の波に乗り遅れた企業は国際的な地位を下げている。この授業では金融業や製造業やネットビジネスなどの具体的事例や最新の研究成果を紹介し、情報技術をどのように適用すれば企業活動に効果を持ちうるのかを講義する。 <授業計画の概要>具体的には、情報技術、プロセス変革、生産性上昇効果、費用削減効果、企業価値増大効果、雇用効果、組織変革、モジュール化、すり合わせなどについて講義を行う。	
専門科目	他学類専門科目	情報システム評価	<授業形態>講義 <目標>情報システムのコスト見積り精度が低いと、予定以上の開発期間とコストを強いられることになる。CIO(最高情報責任者)が経営者に情報システム導入の必要性を説くためにはその効果を具体的に示す必要がある。実際、経営者が情報システムの効果を実感できていない企業は多い。これは情報システム評価手法が定着していないためである。本講義では情報システムの定量的評価手法と定性的評価手法の概略を学び、各手法の利点と欠点を理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・見積手法（ファンクションポイント、COCOMO II, WBS） ・インフォメーションエコノミックス ・バランス・スコアカード ・経済価値評価手法（費用対効果分析, NPV, IRR） ・非財務効果評価手法（AHP, KPI）	
専門科目	他学類専門科目	マーケティング	<授業形態>講義 <目標>企業の市場環境に対する適応行動を分析するための理論を修得させる。 <授業計画の概要>企業が適応行動をとるためには消費者行動への深い理解が避けられない。本稿では消費者行動モデルをベースにしたマーケティング理論を講義する。具体的には、マーケティングの考え方、消費者情報処理と知識構造、消費者データの情報処理、マーケティング意思決定、マーケティング戦略、などの基本的な理論を解説し、応用例として、サービスマーケティング、インターネットマーケティングなどを解説する。	
専門科目	他学類専門科目	意思決定論	<授業形態>講義 <目標>多くの選択肢から合理的な行動を選択するための意思決定の基礎となる考え方を修得させる。 <授業計画の概要>本講では、主観的な意思をうまく数値化するという観点から意思決定モデルと関連事項を講義する。具体的には、意思決定の基本的考え方、階層的意思決定、確率とベイズ、ベイズ意思決定、リスクと効用、不確実性のもとでの意思決定とポートフォリオ理論、情報量と集団意思決定などについて説明する。このような考え方を理解することで、意思決定問題に対するアプローチの基本を幅広く理解させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	データマイニング	<授業形態>講義・演習 <目標>統計処理と機械学習のデータマイニング手法の内容やツールの活用方法を学び、それらを実際のデータ分析に適用する技能を習得する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・統計的検定 ・重回帰分析 ・因子分析 ・主成分分析 ・決定木 ・相関ルール ・バスケット分析 ・クラスタリング	講義 10時間 演習 5時間
専門科目	他学類専門科目	ゲーム理論	<授業形態>講義 <目標>非協力ゲームを中心に、ゲーム理論の基本概念を講義する。戦略的思考の考え方を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・効用関数と期待効用仮説。 ・純粋戦略と混合戦略。 ・支配戦略均衡、ナッシュ均衡など、戦略形ゲームの解概念。 ・展開型ゲーム ・部分ゲーム完全均衡、完全均衡、逐次均衡等、ナッシュ均衡の精緻化 ・不完備情報ゲームとベイジアン均衡。 ・繰り返しゲーム。 ・進化ゲームの基本概念。	
専門科目	他学類専門科目	メカニズムデザイン	<授業形態>講義 <目標>メカニズムデザインの基本的事項と、オークションの理論について講義する。新しい制度を設計するための理論を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・ゲーム理論の復習。 ・支配戦略遂行と耐戦略性。 ・無支配戦略遂行と耐戦略性。 ・ナッシュ遂行と連立耐戦略性。 ・VCGメカニズム。 ・オークションと収入同値定理。 ・オークションの応用（架空名義入札、組合せオークション、広告オークション） ・メカニズムデザインと実験経済学	
専門科目	他学類専門科目	教育情報学	<授業形態>講義 <目標>教育・学習全般を情報伝達という観点で捉えなおし、その実態を明らかにすると同時に、広くICTを活用した教育・学習ならびにその支援について研究する学問分野である広義の教育情報学の諸分野、諸問題について講義する。それにより、学習や教育を支援するシステムを構築する際の基盤的な考え方を習得し応用できるようにする。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・人間の学習過程～メタ認知、自己調整学習、動機づけなど ・学習方略に対する支援 ・特定の教科内容の教育・学習に対する支援 ・eラーニングを活用した教育	
専門科目	他学類専門科目	教育情報システム	<授業形態>講義 <目標>教育情報システムの設計および運用のための専門的な知識および技能を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・人間の学習過程に関する基本的な原理 ・ICTを利用したADDIEモデルに基づくインストラクショナルデザインの基礎 ・eラーニングシステムの特性とユーザ・インタフェース設計技法 ・他のシステムとの関連性および標準化 ・対面授業におけるICTの活用方法 ・実際の運用における学習内容に関する評価法と学習者の到達度評価法	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	他学 類 専門 科目	ヘルスケアサービス <授業形態>講義 <目標>ヘルスケア専門職との円滑なコミュニケーションができるように、ヘルスケア（保健・医療・福祉）分野に関する一般教養的な知識、保健医療福祉制度、およびヘルスケアサービスに関する基本的知識について開設する。 専門用語や法制度、基本的な人体の構造と臓器機能とその病態病理、および国際標準疾患分類の構造などについて開設する。医療倫理、患者の人権・尊厳に関する問題や、ヘルスケアに関わる個人情報の収集、蓄積、伝達、情報開示および利用についてヘルスケア専門職の役割・責務と具体的対処について開設する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・ヘルスケアの基本と社会における役割。わが国のヘルスケアとヘルスケアに関する情報システムの展望。 ・医の倫理。ヘルスケアの評価とは ・ヘルスケアに関する制度 ・医療管理① 病院における診療体系と業務の機能分担 ・医療管理② 病院管理・指標、地域医療連携・遠隔医療 ・医療管理③ 医療安全管理と施設管理 ・医学・看護学① 臨床医学 ・医学・看護学② 臨床看護 ・先進医療 ・臨床検査・医療画像診断 ・医薬品、治療・処置・手術 ・ヘルスケアプロセス（診療プロセス・介護プロセス・診療ガイドライン） ・ヘルスケアに関する記録 ・ヘルスケアに関する統計の基礎 ・疫学統計、ヘルスケアデータの収集と分析	共同
専門 科目	他学 類 専門 科目	ヘルスケアシステム <授業形態>講義 <目標>我が国における情報化施策の経緯と現状について知り、効果的かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供するための情報通信技術の必要性および活用方法について開設する。さらに、現在のヘルスケアに関する利用者のニーズや、抱えている課題（対象者のプライバシーならびに個人情報保護、健康データの一元化と二次利用方法等）に対して、情報化技術の発展を踏まえ、具体的な解決方法や今後の展望について創造できる能力を養う。その上で、ヘルスケア分野で稼働する情報システムの企画立案、開発・運用保守を行うためにヘルスケアシステムに関する実務的な基礎知識や基礎技術力を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義・グループワークを行う。 ・ヘルスケアシステムの特性 ・ヘルスケアシステムの設計条件と安全管理 ・ヘルスケア情報倫理、医療記録の電子化の変遷 ・ヘルスケアシステムの構成と機能・ハードウェアとネットワークの要件 ・ヘルスケアシステムの導入と運用（組織体制・組織間調整、設計から稼働までの手順、仕様書、契約、運用管理、評価と改善、運用管理規定） ・医療・福祉・保健を支えるヘルスケアシステム ・広域のヘルスケアシステム ・ヘルスケア情報の標準化・ヘルスケア支援のための情報分析・評価 ・ヘルスケアシステムの将来 ・グループワーク（現状分析・企画立案、開発・運用・保守案作成）など	共同
専門 科目	他学 類 専門 科目	経営学入門 I <授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の入門として、組織の構造、組織と組織の関係について、基本的な内容を学びます。教科書的な説明だけでなく、具体的な企業の事例をあげつつ説明していきます。特に、日本企業の事例ならびに日本人的特徴について、多くの時間を割く予定です。主に新入生の方を対象に、経営学に対する好奇心を持っていただき、専門的な学習に進む前の基礎的な知識の習得を目標とします。 <授業計画の概要> ・基本的な組織構造の理解 ・組織構造の発展の理解 ・組織間関係の理解 ・日本的組織構造の理解	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	経営学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の理論について学ぶ予定です。100年あまりにわたる経営学の歴史を、その理論を作り上げてきた理論家の説を紹介しながら解説していきます。その時代ごとに変わる問題意識と組織のとらえ方の違いが、異なった理論を発展させていった経緯を理解していただくことが目標です。伝統的な理論から、近年における組織論の展開（認知的組織論・知識創造理論・社会構築主義）まで幅広く紹介します。また、理論の説明だけでなく、具体的な経営場面への応用も紹介します。管理システムの背後にある論理を理解することを目標とします。 <授業計画の概要> ・古典的管理論 ・近代組織論 ・条件適合理論 ・認知的組織論 ・知識創造理論 ・社会構築主義	
専門科目	他学類専門科目	会計システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものです、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する基礎的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・商品売買の会計 ・有価証券の会計 ・試算表の作成 ・決算の手続き	
専門科目	他学類専門科目	会計システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものです、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する応用的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・棚卸資産の会計 ・固定資産の会計 ・負債の会計 ・純資産の会計 ・本店	
専門科目	他学類専門科目	日本経済史Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>日本経済史Ⅰ・Ⅱを通して、近世から近代にかけて（17～20世紀前半）の経済社会の流れを概観するとともに、大阪・堺周辺の地域経済を具体的に考察する。Ⅰでは開国までを対象とし、近世の基本構造を理解した上で近代化にどのような歴史的な前提を与えたのかという点に注目し、その特徴を捉える。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・幕藩制社会の成立と基本構造 ・農村と農業社会 ・都市と商工業 ・全国市場の成立 ・交通と商品流通 ・貨幣制度 ・金融制度の発達 ・鎖国下における外交と貿易 ・幕藩制社会の変動 ・開国	
専門科目	他学類専門科目	経済政策入門	<授業形態>講義 <目標>政府の役割・政策的課題・政策手段についての入門的理解を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>最大化すべき目的関数として社会的厚生関数が仮定されている伝統的経済政策論と方法的個人主義の立場に立つ公共選択的政策論との違いについても講義する。経済政策へのいざない、複眼的租税政策について、社会的厚生関数の最大化、公共選択の考え方、公正のための政策について、政策主体について、政策目的について、政策手段について、政策の決定等について講義する	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	憲法Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>国家統治の基本法である憲法は、大別して、国を治める仕組み（統治機構）と人権の保障（人権宣言）に関する部分から成り立つが、憲法Ⅰでは、前者に関して、その歴史と理論の展開を概観した上で、国家統治の仕組みとしての権力分立を検討する。これによって、法的ないしは憲法的観点から、国家構造の骨格と仕組みそして機能を理解することを目的とする。 <授業計画の概要>憲法の定義からはじめて、憲法の必要性を歴史的観点から認識した上で、日本国憲法の成り立ちを手がかりに憲法改正権とその限界を議論し、つづいて、国レベルの統治システムとしての権力分立に触れ、それを構成する立法権、行政権、司法権の各々の権能と働きを検討し、ついで地方自治について論じる。	
専門科目	他学類専門科目	憲法Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>憲法Ⅱでは、憲法Ⅰの国家統治のシステムの理解を前提に、それが人権保障へと結び付く過程を明らかにした上で、人権宣言の歴史的展開過程を整理し、人権理論の検討に続いて、日本国憲法における人権保障へと理解を進める。この講義の展開の中で、21世紀をひも解くキーワードの1つともいえる「人権」を法的観点から見て取る視点を培って行く。 <授業計画の概要>人権の定義とその保障の歴史的展開を理解した上で、人権保障の支柱である「自由」と「平等」を大枠として整理した上で、包括的人権としての幸福追求権、個別的人権としての思想および良心の自由、表現の自由、生存権、教育を受ける権利等について論じ、その限界を明らかにしていく。あわせて、人権の持つ（人権保障が意味する）ある種のエゴイスティック（egoistic）な側面にも目を向ける。	
専門科目	他学類専門科目	経営管理システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>授業では企業経営の管理的な諸側面に関する諸理論を解説する。まず、テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理原則論といった古典的管理論を説明しながら、経営管理論とはそもそもどのような学問であるのかを考える。それに続き、人間関係論、バーナードやサイモンの近代組織論等、経営管理論の諸学説の発展を概観することによって、経営管理の諸問題を議論する。この授業では、経営管理論の基本的な理論を習得すると同時に、その理論を応用し、実際の企業組織の運営を行う際の技術を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・経営管理論とは何か、企業とは何か ・テイラーの科学的管理法とファヨールの管理原則論 ・メイヨーの人間関係論とモチベーション論 ・リーダーシップ論 ・バーナードの組織論とサイモンの意思決定論	
専門科目	他学類専門科目	経営管理システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>経営管理論の主要な問題として経営戦略が挙げられる。この授業では経営管理論の一領域としての経営戦略と組織構造の問題に焦点を当て、企業がとる戦略がどのような論理で展開されているか、それが組織構造とどのように関係しているかを説明する。また多角化した現代大企業を本社機構がどのようにマネジメントしてくべきかについて論じる。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・企業経営と経営戦略 ・企業ドメインと企業成長 ・多角化戦略の理論 ・組織構造の理論 ・経営戦略と組織構造 ・事業の選択と集中 ・経営戦略と組織構造の国際比較 ・多角化戦略と経営成果 ・企業の本社組織の役割	
専門科目	他学類専門科目	地域経済学	<授業形態>講義 <授業目標>地域経済学の基礎理論の習得を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域経済学の課題 ・産業の立地 ・地域経済と所得形成 ・地域経済の成長理論 ・地域間交易の理論 ・地域間格差と人口移動	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	地域経済政策	<授業形態>講義 <授業目標>地域問題や都市問題の解決を図る地域政策や都市政策の理解を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域政策の目標と手段 ・地域間格差と地域政策 ・都市の成立と発展 ・都市の土地利用 ・土地問題と土地政策 ・住宅市場と住宅政策 ・地方財政と地域分権	
専門科目	他学類専門科目	地域価値創造論	<授業形態>講義 <目標>「地域再生」は日本経済における喫緊の課題である。どのように地域の魅力やオリジナリティーをプロデュースし、そこに住んでいる人々の幸福はもちろんのこと、そこを訪れる多くの人々を感動させるような「地域価値」を創造できるのか。本講義では、国内、海外の具体的な事例研究を紹介しながら、地域文化プロデュースの手法や理論を学習する。 <授業計画の概要> (オムニバス方式/全15回) (54 橋爪紳也/7回)「集客都市とツーリズム」、「ライフスタイル開発」「コミュニティ・ツーリズム」、「文化と都市魅力」、「クリエイティブ・インダストリー」、「アジアの都市と大阪」などのテーマについて講義する。 (65 吉田順一/8回)「観光創造と地域再生」、「地域プロデュースと地域マネジメント」、「地域ブランド」、「グヌス・レギオン (オーストラリア観光開発事例研究)」、「生活価値デザイン」、「景観と建築」、「農業と次世代ツーリズム」などをテーマに講義する。	オムニバス方式
専門科目	他学類専門科目	地域価値とデザイン力	<授業形態>講義 <目標>風景とデザインという観点から行う本講義は地域に潜むポテンシャルをどのように捉え発掘するのかという地域風景の見方についての洞察力を養う事を目的の一つとする。またそれら発掘されたポテンシャルを次の価値へとどのように結びつけて行くのかという発想やデザインについて、自ら取り組んだ事例も含めたさまざまな事例の読解やディスカッションを交えながら理解・習得することを目的とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・風景に潜む地域ポテンシャルの読み取り ・都市空間の使いこなし事例について ・地域風景ポテンシャルのデザイン	
専門科目	他学類専門科目	経済思想史	<授業形態>講義 <目標>本講義では、経済学の形成・成立、発展の過程について触れながら、その時代の経済学を支えた思想的基盤・歴史的背景について解説を行う。さらに、古典派経済学と現代経済学の継承と断絶を解説する。 <授業計画> 講義は以下の内容について講義を行う。 ・古典派経済学の誕生 (重商主義、重農主義とアダム・スミス) ・古典派経済学の確立 (マルサスとリカード) ・古典派経済学の危機 (ミル) ・新しい経済学の誕生 (限界革命とジェヴォンズ、マーシャル) ・経済の危機 (ケインズ革命) ・企業家とイノベーション (シュンペーター) ・新古典派総合とケインズ批判 (サミュエルソンとフリードマン) ・経済学と現代	
専門科目	他学類専門科目	ベンチャービジネス	<授業形態>講義 <目標>新事業の創出によって今日の日本の経済を活性化するものとして期待されている現代のベンチャービジネスの状況について理解し、ベンチャー企業の創業に関する知識を学ぶ。実際の起業の成功と失敗の要因について考え、ビジネスプランの作成に関わる知識やスキルを養成する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・起業家精神とベンチャービジネスの実態 ・ベンチャービジネスの経営戦略 ・起業支援の実態 ・ベンチャー創業の事例 ・ビジネスプランの作成	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	公共選択的経済政策	<講義形態>講義 <講義目標>主として、公共選択経済政策についての理解を深めることを目的とする。 <講義概要>現代経済における財政金融政策のポリシー・ミックス、ビルトイン・スタビライザー等についての考え方も講義する。市場の失敗や公共財についても理解を深める。さらに、法と経済政策との関係についても講義する。また独占企業に対する経済政策や租税をめぐる諸政策についても講義をする。さらに、地下経済を考慮した場合の諸政策についても言及する。	

授 業 科 目 の 概 要 (現代システム科学域 マネジメント学類)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域 共通科目 情報とサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標> 情報通信技術(ICT)が情報のリアルタイムの入手、共有、発信、蓄積、解析、活用等を容易にすることによって、個のエンパワーメントや利便性の向上、経済・社会活動の効率的遂行を可能にするなど、ICTの利活用による持続的な成長の実現について理解させる。また、ICTと関連する分野についての政策動向、技術動向などについて概説的な講義を行い、ICT分野の俯瞰的な全体像を理解させる。 <授業計画の概要> オムニバス方式全15回 ・ (49 宮本貴朗, 42 辻洋/3回) ICTの利活用による持続的な成長の実現、情報通信の現況と政策動向 ・ (30 荒木長照/2回) ICTとマーケティング ・ (47 真嶋由貴恵/2回) ヘルスケアの情報化の現状と課題、進む方向 ・ (38 菅野正嗣/2回) センサネットワーク技術の応用分野としての、スマートメータやスマートホームを活用した省エネルギーや新しいサービスの実現 ・ (52 森田裕之/2回) 企業経営における戦略的優位性の獲得・維持とICTの利活 ・ (39 瀬田和久/2回) これからのICTと知識共創社会（セマンティック Web, ヒトの知的活動を活性化するシステム） ・ (43 中島智晴/2回) ICT と知能化技術	オムニバス方式
専門科目	学域 共通科目 環境とサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標> 現代社会におけるサステイナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。 <授業計画の概要> 現代社会におけるサステイナビリティの重要性に関する授業の後、環境システムに関して自然科学、科学技術の役割を含む社会科学、人間科学の各側面から講義する。 (オムニバス方式／全15回) (大塚耕司／4回) 現代社会におけるサステイナビリティの重要性および環境システムの自然科学的側面からの理解について講義する。 (森岡正博／4回) 環境システムの社会的側面からの理解について講義する。 (斎藤 憲／3回) 環境システムにおける科学技術の役割について講義する。 (牧岡省吾／4回) 環境システムの人間科学的側面からの理解について講義する。	オムニバス方式
専門科目	学域 共通科目 マネジメントとサステイナビリティ	<授業形態>講義 <目標> 企業は現代の社会生活にとって、なくてはならない存在であるが、その運営により多くの問題も生じている。自然環境の破壊をはじめとする環境問題や働き過ぎによる人間性の破壊などである。この授業ではこれらの問題を企業の持続可能な成長（サステイナビリティ）の観点から論じていく。 <授業計画の概要> ・ マネジメントとは何か ・ 持続可能な成長とは何か ・ オープン・システムとしての企業 ・ 企業家による事業創造 ・ 社会と企業のかかわり ・ 企業倫理 ・ CSR（企業の社会的責任） ・ 環境経営	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域共通科目	環境倫理学	<授業形態>講義 <目標>環境思想の成立史と、環境倫理学における基本的な命題・論理構造について取り上げ、さらに従来の環境倫理学では捉えることができなかった、実践倫理、人間存在の倫理、倫理の揺らぎといった発展的観点について紹介する。それによって、環境の時代を目指して環境倫理学が成そうとしたこと、成せなかったことを理解し、「環境の世紀」を生きるための心構えを養う。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・導入—環境倫理とは何か ・環境思想の誕生—環境の60年代／70年代 ・古典的環境倫理の諸問題 ・「自然の価値」と自然の権利論 ・「世代間倫理」とサステイナビリティ ・「生命倫理」とテクノロジー ・ディープエコロジーと「生命中心主義」の世界像 ・「環境プラグマティズム」と実践倫理 ・倫理の揺らぎと現代社会 ・人間存在における倫理の再考—「生物倫理」／「素朴倫理」／「普遍倫理」 ・まとめ—「環境の世紀」を生きるための倫理	
専門科目	学域共通科目	ミクロ経済学入門	<授業形態>講義 <目標>ミクロ経済学の基礎を修得する。特に部分均衡分析のフレームワークの理解を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・経済学およびミクロ経済学の目的と方法 ・経済主体と財・サービス ・需要と供給 ・消費者の行動、効用、限界効用、需要曲線、消費者余剰 ・生産者の行動、技術、費用、限界費用、供給曲線、生産者余剰 ・市場均衡と資源配分、社会的余剰 ・課税、自由貿易の余剰分析 ・不完全競争、外部性、情報の経済学への導入	
専門科目	学域共通科目	マクロ経済学入門	<授業形態>講義 <目標>マネジメント学類の学生が知っておくべきマクロ経済学の基礎を講義する。マクロ的な経済思考力とともに、いわゆる経済常識を身につけることにより、絶えず変化しているマクロ経済の動きを、正しく捉えることのできる能力の基礎を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>GDP・物価・貯蓄・投資といったマクロ経済の基本概念を講義し、日本経済の現実の数値と照合する。消費関数と所得決定、貯蓄と投資の関係、貨幣の定義とその需要・供給を説明した上で、総需要と総供給がどのように均衡するかを説明する。	
専門科目	学類基礎科目	法律学入門	<授業形態>講義 <目標>この科目では、法的な論理的思考能力と推論力との養成を最大の眼目としつつ、基礎的・基本的な法律知識を正確に身に付け、自分に降り掛かった法的火の粉（問題）を最低限自分で払いのける（解決する）糸口を見出す力を養っていく。この過程の中で、単なる法的知識の断片的理解にとどまらない、理論的・体系的な知識の構築と応用力を養うとともに、法的観点から、国内・国際社会を見て取ることのできる広い視野を身につける。 <授業計画の概要>身近な話題を取り上げ、そこに潜む法的諸問題をクローズアップさせ、その解決のために必要とされる法的な知識を得て、推論を働かせながら結論へと至るプロセスを重視した講義をおこなう。具体的には、法の定義と社会における役割・機能から論じ、メースメソッド（case method）方式により、憲法（人権法を含む）・民法・刑法・商法・税法あるいは環境法等の具体的法分野を鳥瞰し、法が国内および国際社会で果たす役割について理解を深めて行く。	
専門科目	学類基礎科目	経営学入門Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の入門として、組織の構造、組織と組織の関係について、基本的な内容を学びます。教科書的な説明だけでなく、具体的な企業の事例をあげつつ説明していきます。特に、日本企業の事例ならびに日本の特徴について、多くの時間を割く予定です。主に新入生の方を対象に、経営学に対する好奇心を持っていただき、専門的な学習に進む前の基礎的な知識の習得を目標とします。 <授業計画の概要> ・基本的な組織構造の理解 ・組織構造の発展の理解 ・組織間関係の理解 ・日本的組織構造の理解	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基礎科目	経営学入門Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>この講義では、経営学の理論について学ぶ予定です。100年あまりにわたる経営学の歴史を、その理論を作り上げてきた理論家の説を紹介しながら解説していきます。その時代ごとに変わる問題意識と組織のとらえ方の違いが、異なった理論を発展させていった経緯を理解していただくことが目標です。伝統的な理論から、近年における組織論の展開（認知的組織論・知識創造理論・社会構築主義）まで幅広く紹介します。また、理論の説明だけでなく、具体的な経営場面への応用も紹介します。管理システムの背後にある論理を理解することを目標とします。 <授業計画の概要> ・古典的管理論 ・近代組織論 ・条件適合理論 ・認知的組織論 ・知識創造理論 ・社会構築主義	
専門科目	学類基礎科目	会計システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものですが、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する基礎的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・商品売買の会計 ・有価証券の会計 ・試算表の作成 ・決算の手続き	
専門科目	学類基礎科目	会計システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>会計数値は紙の上に記載されただけのものですが、これにはヒト・モノ・カネを動かすという、働きがあります。会計数値は「ビジネスの言語」として言われており、コミュニケーションの手段ですが、それだけにとどまらず、取引主体の意思決定を変え、取引や資源の流れに影響を及ぼします。その会計数値を生成する応用的な処理方法を身に付けることを目標としています。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・棚卸資産の会計 ・固定資産の会計 ・負債の会計 ・純資産の会計 ・本店の会計	
専門科目	学類基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>中級レベルのミクロ経済学を修得する。特に一般均衡分析のフレームワークの理解に重点をおく。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・消費者理論：選好、効用関数、予算制約、効用最大化問題、需要関数 ・消費者理論の発展：消費と貯蓄、労働と余暇 ・生産者理論：技術、生産関数、費用最小化問題、費用関数、利潤、利潤最大化問題、供給関数、要素需要関数 ・生産者理論の発展：固定費用と可変費用、損益分岐点と操業停止点、長期と短期 ・市場均衡の理論：エッジワース・ボックス、パレート効率性、厚生経済学の基本定理	
専門科目	学類基礎科目	マクロ経済学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>この科目の目標は、マクロ経済学入門の基礎の上に、各セクターの経済行動モデルを精緻化することである。とくに企業の投資行動が、いかにしてマクロ経済のダイナミズムを生み出すかを重点的に講義する。 <授業計画の概要>恒常所得仮説、資産価格の形成、トービンのQ、財政の役割、貿易収支と資本収支、労働需要と労働供給などについて講義する。企業の投資行動は、投資プロジェクトの現在割引価値からはじめ、投資資金を企業がどのように調達するかを、モジリアニ・ミラーの定理の含意を中心に説明する。	
専門科目	学類基礎科目	環境政策学	<授業形態>講義 <目標>環境問題は個人の努力では解決することができない場合が多く、その解決には多くの人間活動の組織化が必要となる。政府と市場は人間活動を組織化する手法であり、環境問題の解決手段として活用できる。この講義では「政府の役割」「市場の役割」に焦点を合わせ、環境問題に対する制度的解決に関する基礎的知識を紹介する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・政府と市場 ・経済制度と財産権の機能 ・価格メカニズムの役割 ・公共財 ・外部性 ・共有資源問題 ・ビグー税 ・許可証取引制度	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基礎科目	応用環境政策学	<授業形態>講義 <目標>この講義では環境問題の中でも特に水に関係するものを取り上げる。中でも日本の身近な水問題の歴史・対応策を紹介することで地球規模で生じている様々な水問題に対する理解の手助けをする。環境政策学において理論的知見を学習し、応用環境政策学ではその理論が現実の環境問題にどのように役立つのかを講義することで、理論と現実の橋渡しを行う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・日本の水問題と世界の水問題 ・日本の公害問題（足尾銅山と渡良瀬遊水地、水俣病） ・大阪の水環境問題とその対策（地盤沈下、水質汚染、洪水、渇水） ・地方自治体と地下水管理 ・狭山池の水問題と伝統知	
専門科目	学類基礎科目	日本経済史Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>日本経済史Ⅰ・Ⅱを通して、近世から近代にかけて（17～20世紀前半）の経済社会の流れを概観するとともに、大阪・堺周辺の地域経済を具体的に考察する。Ⅰでは開国までを対象とし、近世の基本構造を理解した上で近代化にどのような歴史的前提を与えたのかという点に注目し、その特徴を捉える。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・幕藩制社会の成立と基本構造 ・農村と農業社会 ・都市と商工業 ・全国市場の成立 ・交通と商品流通 ・貨幣制度 ・金融制度の発達 ・鎖国下における外交と貿易 ・幕藩制社会の変動 ・開国	
専門科目	学類基礎科目	金融入門	<授業形態>講義 <授業目標>本講義では、金融に関する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。金融が対象とする分野は、マクロ金融、金融機関行動、金融制度、ファイナンスなど多岐に渡るが、本講義ではそれら個別分野の基礎レベルを網羅的に学習し、金融の全体像を掴むことができるよう授業を進める。 <授業計画の概要>以下の項目について講義する。 ・貨幣の役割と定義 ・金利の基礎概念 ・金融システムの特徴 ・金融機関、金融市場、金融商品 ・ファイナンス ・ブルーデンス政策 ・金融政策	
専門科目	学類基礎科目	経済政策入門	<授業形態>講義 <目標>政府の役割・政策的課題・政策手段についての入門的理解を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>最大化すべき目的関数として社会的厚生関数が仮定されている伝統的経済政策論と方法的個人主義の立場に立つ公共選択的政策論との違いについても講義する。経済政策へのいざない、複眼的租税政策について、社会的厚生関数の最大化、公共選択の考え方、公正のための政策について、政策主体について、政策目的について、政策手段について、政策の決定等について講義する	
専門科目	学類基礎科目	経済数学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>経済学と経営学を学ぶために必要な数学基礎を習得したうえで、経済分析での応用例を解説することを通じて数学の経済分析の中での意義と重要性を受講者に認識させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・1変数関数の極限、連続性および微分 ・多変数関数の極限、連続性、偏微分および全微分 ・陰関数定理 ・ロピタル定理 ・テイラー展開	
専門科目	学類基礎科目	経済数学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>経済学と経営学を学ぶために必要な数学基礎を習得したうえで、経済分析での応用例を解説することを通じて数学の経済分析の中での意義と重要性を受講者に認識させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・ベクトルの定義、性質、演算 ・行列式の定義、展開、性質、クラメル公式 ・行列の定義、性質、演算 ・産業連関分析 ・極値問題	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基礎科目	経済統計	<授業形態>講義 <目標>この講義は、自らデータ分析を行うため、あるいは第三者の分析結果を正しく理解するために必要な、「確率論」と「統計的推測」の習得を目標とする。「確率論」では、確率分布により不確実な現象をモデル化する方法を学ぶ。期待効用など、経済学への応用も扱う。「統計的推測」では、分析対象全体（母集団）からその一部（標本）を抽出し、一部から全体の特性（母数）を推測する方法を学ぶ。実験データと観測データの違いについても触れる。 <授業計画の概要>以下の通り。 1. 記述統計 2. 確率論 3. 統計的推測I 4. 統計的推測II	年度によって交代
専門科目	学類基礎科目	計量経済学	<授業形態>講義 <目標>計量経済学とは「経済を計測する」学問である。この授業では、調査・分析の仕事に関心を持つ学生を対象に、経済データ分析（特に回帰分析による予測）の手法を習得させる。 <授業計画の概要>前半は「条件つき期待値」を復習してから線形回帰分析の基礎を学ぶ。後半は一般化線形回帰分析や連立方程式モデルへの拡張と、時間があれば実際のデータ分析に有用な手法として（１）質的従属変数、（２）切断・検閲された従属変数、（３）パネル・データのそれぞれの場合について適切な分析手法を学ぶ。各回の授業の前半は講義、後半は小テストを行う。またデータ分析の実習を宿題として課す。	
専門科目	学類基礎科目	ミクロ経済学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>中級レベルのミクロ経済学に対する理解を広げる。特に厚生経済学の第1基本定理が成立しないケースに焦点を当てる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・効率と公平、所得の再分配 ・戦略的相互依存、ゲーム理論の基礎 ・不完全競争：独占、寡占、独占的競争 ・規模の経済、自然独占 ・寡占：クールノー競争、ベルトラン競争、シュタッケルベルク競争 ・外部性：ビッグ税、コースの定理 ・公共財：サミュエルソン条件、リンダール均衡 ・情報の非対称性：逆選択とシグナリング、モラル・ハザード	
専門科目	学類基礎科目	マクロ経済学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>マクロ経済学Ⅰに続き、各セクターの経済行動を基に、マクロ経済モデルの全体像を明らかにするとともに、ケインズ経済学とその対立軸との間における経済政策の考え方の相違が理解できるようにすることを目標とする。 <授業計画の概要>商品市場・労働市場・貨幣市場の3市場を含む、簡単ではあるが完結したマクロモデルを用いて、古典派モデルとケインジアンモデルの、構造および政策含意の違いを説明するとともに、自然失業率仮説の登場により、マクロ経済政策の考え方が大きく変化したことを講義する。	
専門科目	学類基礎科目	憲法Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>国家統治の基本法である憲法は、大別して、国を治める仕組み（統治機構）と人権の保障（人権宣言）に関する部分から成り立つが、憲法Ⅰでは、前者に関して、その歴史と理論の展開を概観した上で、国家統治の仕組みとしての権力分立を検討する。これによって、法的ないしは憲法的観点から、国家構造の骨格と仕組みそして機能を理解することを目的とする。 <授業計画の概要>憲法の定義からはじめて、憲法の必要性を歴史的観点から認識した上で、日本国憲法の成り立ちを手がかりに憲法改正権とその限界を議論し、つづいて、国レベルの統治システムとしての権力分立に触れ、それを構成する立法権、行政権、司法権の各々の権能と働きを検討し、ついで地方自治について論じる。	
専門科目	学類基礎科目	憲法Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>憲法Ⅱでは、憲法Ⅰの国家統治のシステムの理解を前提に、それが人権保障へと結び付く過程を明らかにした上で、人権宣言の歴史的展開過程を整理し、人権理論の検討に続いて、日本国憲法における人権保障へと理解を進める。この講義の展開の中で、21世紀をひも解くキーワードの1つともいえる「人権」を法的観点から見て取る視点を培って行く。 <授業計画の概要>人権の定義とその保障の歴史的展開を理解した上で、人権保障の支柱である「自由」と「平等」を大枠として整理した上で、包括的人権としての幸福追求権、個別的人権としての思想および良心の自由、表現の自由、生存権、教育を受ける権利等について論じ、その限界を明らかにしていく。あわせて、人権の持つ（人権保障が意味する）ある種のエゴイスティック（egoistic）な側面にも目を向ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基幹科目	生産科学概論	<授業形態>講義 <授業目標>製造企業におけるマネジメントを行う上で必要となる工業製品の生産技術の基礎について講義を行う。特に、企業経営などの意思決定に最小限必要となる「ものづくり」技術の基本原則とその特徴について理解させる。 <授業計画の概要> 以下の内容について講義を行う。 - 工業製品の生産技術の発達 - 生産技術の発達と社会・経済の発達 - 生産技術とコスト・品質・納期 - コンピュータ技術の発展と生産技術 - 各種の生産技術とその特長	
専門科目	学類基幹科目	生産システム科学	<授業形態>講義 <授業目標>工業製品の生産におけるシステム化技術について講義をおこなう。特に、自動化された生産システムの基本構成および基本原則を理解させるとともに、その制御および運用システムの構成を理解させる。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 - 生産システムの形態と構成要素 - 生産システムの自動化のための設備 - 生産設備のコンピュータによる制御 - 生産システムにおける生産計画・日程計画の概要 - ジャストインタイム・フレキシブル生産システム	
専門科目	学類基幹科目	原価計算Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>原価計算制度における基本的な原価の概念、種々の原価計算制度の理論と計算手続きについて基礎的知識を習得させる。これらはコストマネジメントを実施する上で必要な知識であり、組織運営の理解に欠かせない内容である。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 - 工業簿記における仕訳の基礎 - 原価計算の意義と基礎的な原価概念 - 原価計算制度と財務会計機構との基本的な関係 - 費目別計算・部門別計算・製品別計算の手続 - 個別原価計算ならびに総合原価計算の処理	
専門科目	学類基幹科目	原価計算Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>原価計算Ⅰの授業内容を発展させ、原価計算についての幅広い知識を習得させる。標準原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算に加え、特殊原価調査の技法についても解説し、管理会計を学習するうえでの基礎を形成させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 - 原価管理と利益計画の関係 - 標準原価管理における差異分析の手続き - 直接原価計算とCVP分析 - 特殊原価調査に使われる原価概念 - 意思決定問題に対処する計算技法 - 現代原価計算と戦略的コストマネジメントの基礎	
専門科目	学類基幹科目	経営管理システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>授業では企業経営の管理的な諸側面に関する諸理論を解説する。まず、テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理原則論といった古典的管理論を説明しながら、経営管理論とはそもそもどのような学問であるのかを考える。それに続き、人間関係論、バーナードやサイモンの近代組織論等、経営管理論の諸学説の発展を概観することによって、経営管理の諸問題を議論する。この授業では、経営管理論の基本的な理論を習得すると同時に、その理論を応用し、実際の企業組織の運営を行う際の技術を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 - 経営管理論とは何か、企業とは何か - テイラーの科学的管理法とファヨールの管理原則論 - メイヨーの人間関係論とモティベーション論 - リーダーシップ論 - バーナードの組織論とサイモンの意思決定論	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基幹科目	経営管理システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>経営管理論の主要な問題として経営戦略が挙げられる。この授業では経営管理論の一領域としての経営戦略と組織構造の問題に焦点を当て、企業がとる戦略がどのような論理で展開されているか、それが組織構造とどのように関係しているかを説明する。また多角化した現代大企業を本社機構がどのようにマネジメントしてこべきかについて論じる。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・企業経営と経営戦略 ・企業ドメインと企業成長 ・多角化戦略の理論 ・組織構造の理論 ・経営戦略と組織構造 ・事業の選択と集中 ・経営戦略と組織構造の国際比較 ・多角化戦略と経営成果 ・企業の本社組織の役割	
専門科目	学類基幹科目	地域経済学	<授業形態>講義 <授業目標>地域経済学の基礎理論の習得を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域経済学の課題 ・産業の立地 ・地域経済と所得形成 ・地域経済の成長理論 ・地域間交易の理論 ・地域間格差と人口移動	
専門科目	学類基幹科目	地域経済政策	<授業形態>講義 <授業目標>地域問題や都市問題の解決を図る地域政策や都市政策の理解を目指す。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地域政策の目標と手段 ・地域間格差と地域政策 ・都市の成立と発展 ・都市の土地利用 ・土地問題と土地政策 ・住宅市場と住宅政策 ・地方財政と地域分権	
専門科目	学類基幹科目	地域価値創造論	<授業形態>講義 <目標>「地域再生」は日本経済における喫緊の課題である。どのように地域の魅力やオリジナリティーをプロデュースし、そこに住んでいる人々の幸福はもたらせるのか、そこを訪れる多くの人々を感動させるような「地域価値」を創造できるのか。本講義では、国内、海外の具体的な事例研究を紹介しながら、地域文化プロデュースの手法や理論を学習する。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (45 橋爪紳也／7回)「集客都市とツーリズム」、「ライフスタイル開発」「コミュニティ・ツーリズム」、「文化と都市魅力」、「クリエイティブ・インダストリー」、「アジアの都市と大阪」などのテーマについて講義する。 (53 吉田順一／8回)「観光創造と地域再生」、「地域プロデュースと地域マネジメント」、「地域ブランド」、「ゲス・レギオン (オーストラリア観光開発事例研究)」、「生活価値デザイン」、「景観と建築」、「農業と次世代ツーリズム」などをテーマに講義する。	オムニバス方式
専門科目	学類基幹科目	地域価値とデザイン力	<授業形態>講義 <目標>風景とデザインという観点から行う本講義は地域に潜むポテンシャルをどのように捉え発掘するのかという地域風景の見方についての洞察力を養う事を目的の一つとする。またそれら発掘されたポテンシャルを次の価値へとどのように結びつけて行くのかという発想やデザインについて、自ら取り組んだ事例も含めたさまざまな事例の読解やディスカッションを交えながら理解・習得することを目的とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・風景に潜む地域ポテンシャルの読み取り ・都市空間の使いこなし事例について ・地域風景ポテンシャルのデザイン	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基幹科目	経済思想史	<授業形態>講義 <目標>本講義では、経済学の形成・成立、発展の過程について触れながら、その時代の経済学を支えた思想的基盤・歴史的背景について解説を行う。さらに、古典派経済学と現代経済学の継承と断絶を解説する。 <授業計画> 講義は以下の内容について講義を行う。 ・古典派経済学の誕生（重商主義、重農主義とアダム・スミス） ・古典派経済学の確立（マルサスとリカード） ・古典派経済学の危機（ミル） ・新しい経済学の誕生（限界革命とジェヴォンズ、マーシャル） ・経済の危機（ケインズ革命） ・企業家とイノベーション（シュンペーター） ・新古典派総合とケインズ批判（サミュエルソンとフリードマン） ・経済学と現代	
専門科目	学類基幹科目	民法総則	<授業形態>講義 <目標>民法典第一編「総則」に配される法規定（権利の①主体・客体、②変更（法律行為）・③消滅（時効）、及び民法の根本原則を対象とした授業を行う。基礎概念や制度の趣旨の理解に焦点をあて、自らの目で判決などの法現象を認識・理解できるようになるための基礎的な知識習得をねらいとする。 <授業計画の概要> ・民法の世界とは ・民法の根本原理、財産権の概要 ・法律行為論 ・代理 ・法主体 ・時効	
専門科目	学類基幹科目	物権法	<授業形態>講義 <目標>民法典第二編「物権」に配される諸権利（所有権、用益物権、担保物権、占有権）の性質及び関連する準則、物権変動に関する準則を中心に講義を行う。 基礎概念や制度の趣旨の理解に焦点をあて、自らの目で判決などの法現象を認識・理解できるようになるための基礎的な知識習得をねらいとする。 <授業計画の概要> ・物権の世界 ・物権・債権峻別 ・物権の種類 ・物権変動論 ・各種物権の詳細	
専門科目	学類基幹科目	マネジメント学インターンシップ	<授業形態>講義（実習を含む） <目標> 企業や自治体における仕事の社会的意義について理解させるとともに、社会貢献への理解と動機づけを高めさせる。さらに、実習を通して、企業や自治体における業務の実態を体験的に理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 授業の流れは以下の通りである。 ・オリエンテーション ・インターンシップに参加する際の心構え、マナー講座、キャリアデザインなどについての講義。外部講師による授業を含む。 ・企業、自治体における実習（10日間程度） ・実習の報告会	講義3時間 実習60時間
専門科目	学類基幹科目	基礎ゼミナールⅠ	<講義形態>演習 <目標>1年次前期の初年次ゼミナール（教養科目）の履修を前提に、1年次後期にマネジメント学類で必要とする基礎的な事柄を学ぶことが目標である。 <授業計画の概要> 学問をするには、まず専門用語を正確に把握する必要がある。基本概念を十分に理解することなしに学問はできない。学問分野に応じて分析方法が確立している。そこで、経営・経済・会計学・法律・生産システム科学の基本的な事柄について、ゼミナール形式で学んでいく。	
専門科目	学類基幹科目	基礎ゼミナールⅡ	<講義形態>演習 <目標>1年次後期の基礎ゼミナールⅠと1年次の専門科目の履修を前提に、2年次前期に現実の諸問題を考える準備をするのが目標である。 <授業計画の概要> 基本概念を1年次に履修しているので、それをもとに経営・経済・会計学・法律・生産システム科学の現実的な諸問題について考えデータを分析し、プレゼンテーションを行い、レポートの作成についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類基幹科目	外書ゼミナール	<講義形態>演習 <目標>英語のテキストを使って、経営学・経済学・会計学・法律学・生産システム科学の知識を学ぶことを目標とする。 <授業計画の概要> ゼミナールでは十分な予習を前提として、文章を正確に理解したうえで、内容について議論をし各分野の理解を深める。教材としては英文のテキストだけではなく、映像の教材、インターネット、新聞や雑誌の記事も併用して使われる。英文を日本語に訳し、内容をわかりやすく説明することについても学ぶ。	
専門科目	学類基幹科目	マネジメント学類演習Ⅰ	<講義形態>演習 <目標>経営学・経済学・会計学・法律学・生産システム科学の分野についての卒業論文を書くための準備を行う。 <授業計画の概要> ゼミナールでは、最初に各分野の知識を輪読や討論をすることにより習得する。その後、各自の興味にしたがってテーマを設定し、図書館やインターネットを使って資料を集める。文献の読み方、データの処理方法、プレゼンテーションの仕方について学び、それをもとに報告を行う。年度末には、各自レポートを提出しなければならない。	
専門科目	学類基幹科目	マネジメント学類演習Ⅱ	<講義形態>演習 <目標>経営学・経済学・会計学・法律学・生産システム科学の分野についての卒業論文を書くための準備を行う。 <授業計画の概要> ゼミナールでは、最初に各分野の知識を輪読や討論をすることにより習得する。その後、各自の興味にしたがってテーマを設定し、図書館やインターネットを使って資料を集める。文献の読み方、データの処理方法、プレゼンテーションの仕方について学び、それをもとに報告を行う。年度末には、各自レポートを提出しなければならない。	
専門科目	学類基幹科目	マネジメント学類特別演習	<講義形態>演習 <目標>4年次生が経営学・経済学・会計学・法律学・生産システム科学の分野の大学院進学を前提により深い知識を学ぶことを目標とする。 <授業計画の概要> 経営学・経済学・会計学・法律学・生産システム科学の各分野の中級から上級のテキストや論文をもとに、各分野の知識をより深めるとともに研究状況を理解する。また、使用する教材は日本語だけではなく、最先端の英文の教材を使用することもある。	
専門科目	学類発展科目	現代企業システム	<授業形態>講義 <目標>この講義では企業とは何か、管理とは何かを、企業と様々な主体との取引関係に焦点を当てて説明し、現代企業システムを理解する。企業行動を取引の観点から理解することで、企業行動を分析し、現代企業の実態を把握し、それによって現代社会で適切な行動をとることができるようになることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・企業の生成—企業とは何か ・企業形態論—株式会社の特徴 ・コーポレートガバナンス—企業は誰のものか ・取引制度の理解 ・財の取引 ・資本の取引 ・労働の取引 ・情報の取引	
専門科目	学類発展科目	経営戦略	<授業形態>講義 <目標>この講義の目標は、全社戦略と事業戦略の基本的な理論・概念を理解し、それを用いることにより現実の企業行動を理解し、組織において目標を達成するための適切なマネジメントの技法を身につけ、それらが応用できるようになることである。この授業では、現実と理論の関係に留意しながら、様々な事例やデータを取り上げて論じていく。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・経営戦略の定義 ・ポジショニング・アプローチ ・ポーターの基本戦略 ・事業システム戦略 ・経営資源アプローチ ・競争と協調の戦略 ・企業ドメインと企業成長 ・多角化戦略とP P M ・経営戦略と組織構造	
専門科目	学類発展科目	経営組織	<講義形態>講義 <目標>経営組織の基礎理論の習得を目指す。中でも特に、組織の構成原理、組織形態の選択に関する理論を深く学ぶことにより、組織の本質や特徴を理解できるようにする。 <授業計画の概要>近代的経営組織の形成過程をアメリカの状況をもとに概観した後、組織形態の選択、組織の構成原理について、理論的に考察する。垂直的統合、事業部制、マトリクス組織、シナジー、ライン&スタッフ、権限と責任、組織均衡等を取り扱う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	人材マネジメント	<講義形態>講義 <目標>日本における人材マネジメントの形成、導入過程、発展などをたどりながら、主要な人材マネジメントの特徴や構造、変化、諸問題などを学んでいく。また、アメリカの人材マネジメントの特徴や最近の傾向との比較を通じて、日本の特徴をより明確に理解させる。 <授業計画の概要>職能資格制度、QCサークル、コース別管理、OJT、知的熟練、成果主義、コンピテンシー、年俸制、目標管理、非正規労働などを扱う。また、アメリカの職務給、ブロードバンドなどにも言及し、日米比較の観点からも考察する。	
専門科目	学類発展科目	マーケティング・システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、マーケティングの基本と戦略について学習する。マーケティングということばの意味の推移から、マーケティングの4P、インターネットマーケティングなどについて現実の事例も交えて概説する。また、マーケティングの実践として、モバイルを用いたビジネスを設計してもらう。講義中には、最新のマーケティング事例や種々の課題について考察するなどの演習も行う予定である。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・マーケティングの歴史 ・製品戦略 ・流通論について ・価格戦略 ・チャネル戦略 ・プロモーション戦略 ・インターネット戦略 ・モバイルニュービジネス設計	
専門科目	学類発展科目	マーケティング・システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、マーケティング戦略とマーケティング・リサーチについて学習する。講義の前半ではサービスマーケティング、ブランドなどについて、現実の事例を交えて概説する。後期では主にマーケティング・リサーチの手法について紹介する。リサーチの手法やデータの分析手法などについての講義に加え、アンケートの設計やデータ収集、検証、分析などを演習として実施する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・サービス戦略 ・ブランド戦略 ・マーケティング・リサーチの手法 ・マーケティング・リサーチ演習	
専門科目	学類発展科目	流通チャネル分析	<授業形態>講義 <目標>メーカーと流通業者で構成される流通チャネルに関して、応用ミクロ経済学的視点から数理モデルを構築・分析する手法を、最新の事例を織り交ぜながら講義する。そのことを通じて、流通チャネルの分析枠組を習得させ、さらには流通チャネルの新しい潮流が、変化の激しい現代社会にもたらす含意を理解させることを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・完全競争市場における均衡・社会厚生 ・独占・寡占市場における均衡・社会厚生 ・単一流通チャネルにおけるブランド内競争 ・複数流通チャネルにおけるブランド間競争	
専門科目	学類発展科目	経営情報システムⅠ	<授業形態>講義 <目標>経営情報システムの概要、情報システムと情報技術、情報システム構築の方法などを概説し、その後情報システム設計の演習を行う。また、最新のIT関連テーマを取り上げ、インターネット等を検索しながらレポートにまとめる演習も行う。これらを通じ、経営情報の意義を理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・情報システムの発展段階 ・コンピューターの基本機能 ・情報システム構築の方法 ・ワークデザイン ・ビジネス・プロセス ・リエンジニアリング ・データベース設計演習 ・インターネット検索 比較・分析 ・企業研究 レポート作成	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	経営情報システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>意思決定支援システムの概要、エキスパートシステム、各種シミュレータ設計の方法などを概説し、その後シミュレータ設計の演習を行う。また、最新のIT関連テーマを取り上げ、インターネット等を検索しながらレポートにまとめる演習も行う。これらを通じ、経営情報の理解力・実践応用力を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・アウトソーシング ・ERP ・SCM ・意思決定支援システム（DSS）とは ・エキスパートシステム（ES） ・エキスパートシステム演習 ・出版流通と今後の展開について ・意思決定支援システム シミュレーション、シミュレータ開発	
	学類発展科目	財務管理	<授業形態>講義 <目標>財務管理論は企業の財務活動を考察の対象とする。企業の財務的意思決定は、大きく投資決定と資本調達決定に分類される。この講義ではこれら財務に関する意思決定についての基礎理論を学ぶ。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・財務管理とは何か ・企業価値の評価 ・資本の形態と資本調達の源泉 ・資本コストの理論 ・資本調達政策 ・配当政策 ・投資決定モデル ・資本資産評価モデル	
	学類発展科目	財務会計Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>企業が株主等外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、企業会計原則を中心としつつ商法計算規定その他の会計法令にも言及して、総合的かつ体系的に講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・財務会計の機能と制度 ・利益計算の仕組み ・会計理論と会計基準 ・利益測定と資産評価の基礎概念 ・現金預金と有価証券 ・売上高と売上債権 ・棚卸資産と売上原価 ・有形固定資産と減価償却 ・無形固定資産と繰延資産	
	学類発展科目	財務会計Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>企業が株主等外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、企業会計原則を中心としつつ商法計算規定その他の会計法令にも言及して、総合的かつ体系的に講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・負債 ・株主資本と純資産 ・財務諸表の作成と公開 ・連結財務諸表 ・外貨建取引等の換算	
	学類発展科目	会計監査	<授業形態>講義 <目標>会計監査が持つ目的・役割について理解することが授業目標である。会計監査では、経営者が作成した財務諸表を、企業とは独立の立場にある第三者が検査する。この検査により、財務諸表の適切性を担保し、その結果は利害関係者に報告される。この会計監査について、実践上の諸問題に触れながら監査基準の内容や限界などについて理解する。 <授業計画の概要> 会計監査制度は、企業の不祥事や不正問題の歴史と密接に関わっている。そのため監査は、経済社会の発展とともに企業を取り巻く社会ニーズの影響を受けて形成されている。授業では、以下の内容などを取り扱う。 ・監査の概念、意義、一般的性質、財務諸表監査の目的 ・監査の発展 ・日本の監査制度（証券取引法、会社法における監査制度） ・日本の監査基準 ・内部統制監査 ・四半期情報の開示と四半期報告書レビュー ・監査手続上のリスク・アプローチ ・企業の継続性に関する監査問題	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	管理会計Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>企業の経営管理に役立つ会計情報を提供する管理会計の基本知識を学習することによって、その応用力を養い、企業実務で役立つ知識や国家試験などで必要な知識の修得を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・経営管理プロセスの内容 ・基本的な原価概念などの管理会計情報の基礎 ・意思決定および業績管理プロセスのそれぞれに役立つ情報の特質 ・短期利益計画と損益分岐点分析 ・設備投資計画 ・予算管理	
専門科目	学類発展科目	管理会計Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>企業の経営管理に役立つ会計情報を提供する管理会計の発展的知識を学習することによって、その応用力を養い、企業実務で役立つ知識や国家試験などで必要な知識の修得を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・事業部などセグメント別の業績管理 ・製品開発プロセスでの原価企画 ・間接費管理と業務改善にむすびつく活動基準原価計算 ・品質原価計算とライフサイクル・コストニング ・組織活性化のためのミニ・プロフィットセンター ・戦略策定・実施ツールであるバランスト・スコアカード	
専門科目	学類発展科目	生産管理システム	<授業形態> 講義 <授業目標> 本講義では、工業製品の生産における「物の流れ」に関する設計・管理・運用法の体系として生産管理システムを学習する。その基本要素である全般的生産計画、生産プロセス計画、生産スケジューリング、生産実施、生産統制の概要が理解できるようにし、その具体的な手法を修得させる。 <授業計画の概要> 以下の内容について講義を行う。 ・生産システムの発展に伴う生産管理方式の展開 ・在庫管理 ・生産プロセス計画 ・設備レイアウト計画 ・MRPシステムとトヨタ生産方式 ・全般的生産計画モデルと生産計画法 ・生産スケジューリング	
専門科目	学類発展科目	生産システム科学実習	<授業形態> 実習 <授業目標> 「ものづくり」の実際のプロセスを学生に体験させることにより、工業製品の生産技術の基礎を学習させる。すなわち、各種の製品を対象とする製造企業のマネジメントを、「ものづくり」の観点から計画・評価する能力を身につけさせる。 <授業計画の概要> 以下の内容について実習を行う。 ・旋削加工 ・鋳造加工 ・機械仕上げ加工 ・溶接加工 ・NCフライス加工	
専門科目	学類発展科目	グローバル経営	<授業形態>講義 <目標>企業の国際経営に関する諸問題と理論について、実際の動きや将来の課題など、実態に即しながら概説する。 <授業計画の概要>以下の内容について講義を行う。 ・グローバル経営とは ・多国籍企業の経営 ・国際経営戦略 ・海外生産 ・技術移転 ・戦略的提携	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	財務諸表分析	<授業形態>講義 <目標>本講義では、企業の財政状態と経営成績等を示す財務諸表を用いた経営分析の手法について学習する。財務諸表の構造と会計の基本原則・基準等のルールを理解し、企業の利害関係者の中でも投資家の立場で用いられる経営数値の分析・評価手法を身につけることを目標とする。 <授業計画の概要> 財務諸表を対象にした経営分析の内容について講義する。証券市場において一般に認められた会計基準に従った作成された財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)に多くを限定する。授業では以下の内容などを中心に扱う。 ・財務諸表の役割・仕組み ・貸借対照表の構造と主要項目 ・損益計算書の構造と利益計算 ・キャッシュ・フロー計算書の位置づけと構造 ・収益性の分析 ・生産性の分析 ・安全性の分析 ・成長性の分析	
専門科目	学類発展科目	ベンチャービジネス	<授業形態>講義 <目標>新事業の創出によって今日の日本の経済を活性化するものとして期待されている現代のベンチャービジネスの状況について理解し、ベンチャー企業の創業に関する知識を学ぶ。実際の起業の成功と失敗の要因について考え、ビジネスプランの作成に関わる知識やスキルを養成する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・起業家精神とベンチャービジネスの実態 ・ベンチャービジネスの経営戦略 ・起業支援の実態 ・ベンチャー創業の事例 ・ビジネスプランの作成	
専門科目	学類発展科目	家族法	<授業形態>講義 <目標>民法第五編「親族/相続」（該当部分を合せて家族法と言う）に配される諸権利関係を中心とした講義を行う。 基礎概念や制度の趣旨の理解に焦点をあて、自らの目で判決などの法現象を認識・理解できるようになるための基礎的な知識習得をねらいとする。 <授業計画の概要> ・家族法の世界 ・財産法との相違 ・家族紛争と家庭裁判所 ・婚姻に関する権利と義務 ・婚外関係の法的取り扱い ・親子に関する権利と義務 ・相続、遺言	
専門科目	学類発展科目	債権法A	<授業形態>講義 <目標>民法第三編「債権」に配される法規定（債権の①発生・②変更・③消滅）のうち、①を中心に講義を行う。 基礎概念や制度の趣旨の理解に焦点をあて、自らの目で判決などの法現象を認識・理解できるようになるための基礎的な知識習得をねらいとする。 <授業計画の概要> ・民法, とくに債権法の世界 ・債権の性質 ・契約制度の概要と各種契約の特徴（有名契約（13種）） ・無名契約 ・契約（約定債権関係）と対比される法定債権関係の概要と各種制度（とくに不法行為制度）	
専門科目	学類発展科目	債権法B	<授業形態>講義 <目標>民法第三編「債権」に配される法規定（債権の①発生・②変更・③消滅）のうち、②③を中心に講義を行う。 基礎概念や制度の趣旨の理解に焦点をあて、自らの目で判決などの法現象を認識・理解できるようになるための基礎的な知識習得をねらいとする。 <授業計画の概要> ・民法, とくに債権法の世界・債権の性質（債権法Bのみを履修する学生に配慮して、Aの講義と一部重複） ・債権の消滅（とくに弁済）に関する制度の概要 ・債務不履行の制度（強制履行、危険負担など含む） ・債権者代位権・債権者取消権の概要 ・債権の譲渡・債務引受 ・人的担保（保証、連帯債務など）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	商取引法Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>企業が事業展開として行う国際商取引で必要とされる基本的な知識を講義する。 <授業計画の概要> 国際取引法として、特に国際商取引の基本的流れと適用される法について講義する。 1 国際取引法入門 2 国際取引に適用される法(1) 3 国際取引に適用される法(2) 4 国際取引の当事者 5 国際売買(1) 6 国際売買(2) 契約の成立 7 統一法とCISG 8 インコタームズ 9 売買契約書と標準取引条件 10 国際物品運送 11 貿易決済(1)、船荷証券 12 貿易決済(2) 信用状 13 国際航空運送・国際貨物保険 14 様々な国際契約(1) 15 様々な国際契約(2)	
	学類発展科目	商取引法Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>国際商取引と紛争処理を規律する法について講義する。 <授業計画の概要> 国際商取引と紛争処理を規律する法について、各種契約類型、国際民事訴訟、国際商事仲裁を含む。 1 国際取引を規律する法 2 国際取引契約の成立 3 様々な国際取引契約(1) 独占的販売代理店契約 4 様々な国際取引契約(2) 国際技術移転契約 5 並行輸入 6 並行輸入の不当阻害と独禁法 7 国際投資 8 合併契約 9 国際取引紛争の予防と解決 10 国際取引における準拠法の役割 11 国際裁判管轄 12 外国判決の承認と執行 13 国際仲裁・ADR 14 国際商事仲裁：事例研究(1) 15 国際商事仲裁：事例研究(2)	
	学類発展科目	会社法Ⅰ	<授業形態>講義 <目標> 会社法Ⅰ・Ⅱを通じて、会社法の規制構造や関連する学説・判例について、基本的な知識を理解することを目的とする。講義では、株式会社に関する説明を中心とするが、特に企業統治に関しては金融商品取引法にも上場会社に対する規制が置かれていることから、必要に応じて補足説明を行う。 <授業計画の概要> 会社法Ⅰでは、大別して以下の項目について講義を行う。 ・会社法総論 ・設立 ・株主と株式 ・株式会社の機関(一部)	
	学類発展科目	会社法Ⅱ	<授業形態>講義 <目標> 会社法Ⅰ・Ⅱを通じて、会社法の規制構造や関連する学説・判例について、基本的な知識を理解することを目的とする。講義では、株式会社に関する説明を中心とするが、特に企業統治に関しては金融商品取引法にも上場会社に対する規制が置かれていることから、必要に応じて補足説明を行う。 <授業計画の概要> 会社法Ⅱでは、大別して以下の項目について講義を行う。 ・株式会社の機関(一部) ・資金調達 ・組織再編	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	金融法	<授業形態>講義 <目標> 特に金融商品取引法について、条文の構造や関連する学説・判例について説明を行うことで、基本的な構造や立法趣旨を習得することを目的とする。また、金融商品取引法は会社法や証券取引所の規則との関わりが強いことから、関連法規の説明も適宜加える。 <授業計画の概要> 大別して以下の項目について講義を行う。 ・金融商品取引法による規制の対象 ・開示規制 ・公開買付規制 ・不公正取引規制 ・自主規制機関による規制 ・罰則	
専門科目	学類発展科目	決済法	<授業形態>講義 <目標> 主に手形法・小切手法を対象として、決済手段に関わる法規制の基本的な構造を理解することを目的とする。講義では、主に約束手形に関する規制構造を中心として、その条文の構造や関連する学説・判例の説明を行うが、必要に応じて銀行振込や電子マネーなどの決済手段についても取り扱う。 <授業計画の概要> 大別して以下の項目について講義を行う。 ・有価証券総論 ・約束手形（振出・裏書・支払など） ・為替手形 ・小切手 ・その他の決済手段	
専門科目	学類発展科目	租税法A	<授業形態>講義 <目標>授業の目標は、所得課税の基本的な仕組みを理解するとともに、望ましい租税制度のあり方を考える力を身につけることである。 <授業計画の概要> 租税法のうち、租税基礎理論と租税実体法の二分野を中心に解説を進める。前者は、租税法を学ぶ上での基本的な事項、特に租税法主義の意義と機能を内容とする。後者は、所得税法や法人税法など個別税法における具体的な課税の仕組みを内容とする。解説を進める際、税金に関する身近な問題からさらには、裁判例を適宜用い税金を巡る法的な問題の現れ方をも紹介する。	
専門科目	学類発展科目	租税法B	<授業形態>（講義） <目標>租税法の分野における主として手続法を学習する。 ・租税法の解釈、適用上の主要な問題点（租税回避行為、信義則など）を考察する。 ・納税義務の成立、確定について、各税における基本的な仕組みを理解する。 ・課税庁の権限（質問検査権、滞納処分など）について、納税者との関係において考察する。 ・納税者の権利保障手続（文書回答手続など）を理解する。 ・不服申立制度を理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・租税法の解釈方法論 ・申告納税制度、青色申告、更正の請求、加算税 ・質問検査権、滞納処分 ・更正の理由附記、文書回答手続 ・不服申立制度 ・税理士制度	
専門科目	学類発展科目	国際租税法	<授業形態>講義 <目標>授業の目標は、国際的取引から生じる所得への課税方法と、各国税法の差異等を利用した租税回避とその対処策についての基本的知識を習得することである。 <授業計画の概要> 多国籍企業や国際取引に対する課税問題を示したうえで、適正な課税のためにわが国租税法においてどのような制度が用意されているか、さらにはいかなる国際協力がなされているかについて基本事項を解説する。具体的には、非居住者等への課税制度、国際的二重課税の排除のための外国税額控除制度、租税条約の役割、および、国際的租税回避への対抗策としてのタックス・ヘイブン対策税制、移転価格税制、過少資本税制の仕組みが授業内容となる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	地方税法	<授業形態> 講義 <目標> 地方税の各税目を中心に学習する。 ・地方税の果たす役割を理解する。 ・地方税法の基本原則を理解する。 ・地方税法の各税目の基本的な仕組みと主要な紛争例を検討し、法的な改革の課題を探索する。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・地方税の果たす役割 ・地方税法の基本原則 ・住民税の仕組みと課題 ・事業税の仕組みと課題 ・固定資産税の仕組みと課題 ・不動産取得税の仕組みと課題 など	
専門科目	学類発展科目	ファイナンス	<授業形態> 講義 <授業目標> 本講義では、ファイナンスの基礎理論とそれが実社会でどのように活用されているかについて学習する。この講義を通じ、ファイナンスで取り扱っている資産投資や企業金融について、理論的・実践的な理解を深めることを目的とする。 <授業計画の概要> 以下の項目について講義する。 ① 資産投資について ・金利とリスク ・ポートフォリオ理論 ・資産価格理論 (CAPM, APT) ・デリバティブ ② 企業金融について ・資本構成の理論 (MM理論, エージェンシー理論) ・配当政策の理論 ・コーポレートガバナンス	
専門科目	学類発展科目	金融システム	<授業形態> 講義 <授業目標> 本講義では、金融システムならびに貨幣と金融システムとの関係、さらには貨幣・金融システムと実体経済の関わりについて理解を深めることを目的とする。具体的には、金融システムを構成している金融機関や金融市場、金融システムの顧客である家計と企業の金融活動、そして金融当局や中央銀行による規制・監督、さらに中央銀行について言えばそれが実施している金融政策について学ぶ。 <授業計画の概要> 以下の項目について講義する。 ・金融機関、金融市場 ・家計と企業の金融活動 ・金融当局や中央銀行の規制・監督 ・金融政策	
専門科目	学類発展科目	国際金融システムⅠ	<授業形態> 講義 <目標> 国際金融論のうち、国際マクロ経済学と為替レートについて考察し、国際金融論の基礎を説明する。受講者が「国際経済を見る眼」を養うことを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・国民所得統計と国際収支統計 ・経常収支決定の理論 ・為替レートと外国為替市場 ・為替レート決定の理論 ・為替レートの理論と現実：為替レートをめぐるパズル	
専門科目	学類発展科目	国際金融システムⅡ	<授業形態> 講義 <目標> 国際金融論のうち、通貨体制と国際マクロ経済政策について考察し、国際金融論の応用を説明する。受講者が「国際経済を見る眼」を養うことを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・様々な為替相場制度 ・マンデル＝フレミング・モデル ・最適通貨圏の理論 ・債務危機と通貨危機 ・新しい国際通貨制度の枠組み	
専門科目	学類発展科目	国際貿易システムⅠ	<授業形態> 講義 <目標> 国際貿易論のうち、国際分業理論について考察し、国際貿易論の基礎を説明する。受講者が「国際経済を見る眼」を養うことを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・国際貿易の基本モデル ・リカード・モデル ・特殊要素モデル ・ヘクシャー＝オリーフ・モデル ・国際間生産要素移動 ・規模の経済と新貿易理論	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	国際貿易システムⅡ	<授業形態>講義 <目標>国際貿易論のうち、貿易政策論について考察し、国際貿易論の応用を説明する。受講者が「国際経済を見る眼」を養うことを目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・完全競争下の貿易政策Ⅰー輸入関税の理論 ・完全競争下の貿易政策Ⅱー非関税障壁の理論 ・不完全競争下の戦略的貿易政策Ⅰーブランダー＝スペンサー・モデル ・不完全競争下の戦略的貿易政策Ⅱーイートン＝グロスマン・モデル ・発展途上国と先進国の貿易政策 ・自由貿易促進とFTA	
専門科目	学類発展科目	ゲームと情報の経済学	<授業形態>講義 <目標>ゲームと情報の経済学の基礎を修得する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・ゲームの経済学の目的と意義 ・戦略的環境、競争と協力 ・時間とゲーム、情報とゲーム ・駆け引き ・戦略的代替と戦略的補完 ・協力の発生、評判の役割 ・交渉の理論 ・情報の非対称性：隠された行動と隠された情報 ・リスクと保険 ・モラルハザードとエージェンシー理論 ・逆選択、スクリーニング、シグナリング ・不完備契約の理論	
専門科目	学類発展科目	動態マクロ経済学	<授業形態>講義 <目標>この科目の目標は、資本蓄積による長期的な経済成長のメカニズムと、さまざまな要因によって生じる確率的な変動が、いかに経済全体に伝播・波及し、現実を観察されるような景気循環を生じさせているかを説明することである。 <授業計画の概要>新古典派経済成長論からスタートし、効率的市場仮説を説明した上で、経済変動の原因となるさまざまな確率的ショックが、経済構造の差異、たとえば完全競争からの乖離、資本市場の非完全性等によって、どのように経済変動のパターンの差異をもたらすかを講義する。	
専門科目	学類発展科目	公共選択的経済政策	<講義形態>講義 <講義目標>主として、公共選択経済政策についての理解を深めることを目的とする。 <講義概要>現代経済における財政金融政策のポリシー・ミックス、ビルトイン・スタビライザー等についての考え方も講義する。市場の失敗や公共財についても理解を深める。さらに、法と経済政策との関係についても講義する。また独占企業に対する経済政策や租税をめぐる諸政策についても講義をする。さらに、地下経済を考慮した場合の諸政策についても言及する。	
専門科目	学類発展科目	日本経済史Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>日本経済史Ⅰ・Ⅱを通して、近世から近代にかけて（17～20世紀前半）の経済社会の流れを概観するとともに、大阪・堺周辺の地域経済を具体的に考察する。Ⅱでは開国・開港から戦前期までを対象とし、いわゆる「産業革命」による農業社会から工業社会への転換という点に注目し、近代化の特徴を捉える。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・開国 ・開港とその影響 ・移行期の経済 ・資本主義社会への準備 ・松方財政とその意義 ・産業資本の確立 ・「産業革命」 ・戦間期の経済 ・経済の再編 ・企業組織の展開	
専門科目	学類発展科目	労働経済Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>変貌しつつある日本の労働市場の現状を理解するとともに、それを理解するための理論的な枠組みについて習得する。また、職業や「働くこと」についての認識を深めることも目的とする。 <事業計画の概要> ・労働需要 ・労働供給 ・学歴 ・教育訓練 ・日本の雇用システムの現状と今後	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	労働経済Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>変貌しつつある日本の労働市場の現状を理解するとともに、それを理解するための理論的な枠組みについて習得する。 <事業計画の概要> ・若年就業 ・賃金構造の変化 ・労働移動と転職 ・失業	
専門科目	学類発展科目	社会保障政策	<授業形態>講義 <目標>社会保障制度について体系的に学ぶとともに、現在の制度では経済学的にどのような問題点があるか、どのように改正していったらよいかなどを学ぶ。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・マクロデータ、マイクロデータから見る社会保障 ・テレビや新聞、インターネットなどのニュースから見る社会保障 ・公的年金制度、医療保険制度、介護保険制度、生活保護制度など社会保障制度の概観と経済学 ・これからの社会保障制度の在り方 など	
専門科目	学類発展科目	産業組織Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>ミクロ経済学の応用分野のひとつである「産業組織論」を学ぶ。特に、産業組織分析の基礎概念、独占企業の行動、自然独占、及びマーケティング戦略（価格差別及び製品差別化）について学習する。また、産業組織論が、日本の独占禁止法のような競争法の運用、いわゆる「競争政策」とともに発展してきた歴史を理解する。 <講義計画の概要> 1. 産業組織論の課題と歴史 2. 産業組織分析の基礎 3. 独占企業の価格設定 4. 価格差別 5. 自然独占と政府規制 6. 参入の経済効果 7. 製品差別化	
専門科目	学類発展科目	産業組織Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>ミクロ経済学の応用分野のひとつである「産業組織論」を学ぶ。特に、市場構造指標と市場支配力、ゲーム理論の基礎、寡占市場、カルテル、合併、及び垂直的取引関係について学習する。また、カルテルや合併等の企業行動に対する日本の独占禁止法のような競争法による規制、いわゆる「競争政策」について理解する。 <講義計画の概要> 1. ゲーム理論の基礎 2. 寡占市場の理論 3. カルテル 4. 価格差別 5. 市場支配力集中度と市場画定 6. 合併と企業結合規制 7. 垂直的な統合と制限	
専門科目	学類発展科目	財政学A	<授業形態>講義 <目標>政府支出に関する制度と理論について、基礎的な知識を修得することが本講義の目標である。 <授業計画の概要> 政府支出に関する制度と理論について考察する。データを用いて日本の財政の構造と規模を明らかにした後、予算制度、財政投融资、国家財政と地方財政の関係、国庫金制度などの学習を通じて、日本の財政システムの概略を学習する。この財政制度の知識を背景として、財政問題を分析するための経済理論を学習する。まず、分析の基本概念となる厚生経済学の基本定理と市場の失敗について学ぶため、基礎的な厚生経済学を学習する。その後、公共財、公共選択、外部性、所得再分配政策の理論的根拠といった、財政学の理論的トピックについて学習する。	
専門科目	学類発展科目	財政学B	<授業形態>講義 <目標>政府収入に関する制度と理論について、基礎的な知識を修得することが本講義の目標である。 <授業計画の概要> 政府収入に関する制度と理論について考察する。まず、課税の基礎理論を学習する。租税の帰着分析、厚生分析から始め、最適課税理論まで学習する。次に、学習した課税の基礎理論を応用して、日本の租税制度の分析を行う。具体的には、日本の個人所得税、法人所得税、消費税、資産税に関する租税制度とその理論的分析について学習する。公債については、データにより日本の公債の現状を見た後、公債の負担などの基礎理論も学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類発展科目	地方財政Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>現実の地方財政制度とその背景にある経済理論の関係を学び、現行制度の意義、問題点、更にその改革の方向性について考察する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・市場メカニズムの前提と仮定 ・市場と公的セクターの役割 ・財政・地方財政の機能と仕組み ・公共財・地方公共財の最適供給 ・公共財・地方公共財生産と予算配分の効率性 ・地方の歳入・歳入構造 ・地方財政指標からみた地方財政の実態 ・地方税原則と地方税体系 ・固定資産税の理論 ・補助金の経済効果 ・地方交付税・国庫支出金の現状と課題	
	学類発展科目	地方財政Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>現実の地方財政制度とその背景にある経済理論の関係を学び、現行制度の意義、問題点、更にその改革の方向性について考察する。なお、本講義では、地方財政Ⅰを受けより理論的な分析手法を講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・地方債の機能と経済効果 ・地方債の現状と課題 ・地方公営企業の理論と現状 ・地方公共財理論再考 ・地方分権と所得再分配問題 ・課税の限界費用問題 ・租税輸出論 ・租税競争論 ・重複課税論 ・補助金理論再考（一般補助金、非対称情報） ・地方財政とソフトな予算制約理論	
専門科目	他学類専門科目	アルゴリズムとデータ構造	<授業形態>講義 <目標>正しいプログラムの動作原理であるアルゴリズムと、アルゴリズムを効率的なプログラムとして実装する際に不可欠なデータ構造について、系統的に学習する。講義では、はじめにアルゴリズムの効率を測る計算量の概念を与えた上で、さまざまな代表的なデータ構造を解説する。その後、整列やグラフ・ネットワークにおける最適化問題など実用的で重要な例を取り上げ、アルゴリズムの基礎的な設計技法とともに、適切なデータ構造が効率的なアルゴリズムを実現することを理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・アルゴリズムとデータ構造、計算量の関係 ・基本的なデータ構造 ・応用的なデータ構造 ・さまざまな実用的な問題の紹介 ・代表的な問題に対するアルゴリズムの具体例 ・効率的なアルゴリズムの設計技法	
専門科目	他学類専門科目	マルチメディア情報処理	<授業形態>講義 <目標>近年、映像、音声、文字メディア等を含むマルチメディア情報が情報システムでよく用いられている。本講義では、マルチメディア情報処理における基礎的な技術を習得させるとともに、ヒューマンインターフェースに関して、具備すべき条件と実現技術、およびそれらを応用した具体的なシステムについて理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・マルチメディア情報の入力技術 ・表現方法（符号化、データ圧縮技術） ・マルチメディア情報の出力技術 ・ヒューマンコンピュータインタラクション	
専門科目	他学類専門科目	情報セキュリティ	<授業形態>講義 <目標>情報システムの専門性について総合的に理解させ、情報セキュリティに関して高い技術者倫理を持つ高度な専門技術者として継続的な研鑽を続けることができる基礎的知識を習得させる。特に、情報システムをエンドユーザとして利用するときだけではなく、企画・計画・運営する際に必要となる情報セキュリティに関する知識を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムに関する倫理、関連法規 ・知的財産権 ・個人情報保護 ・コンピュータ犯罪 ・インターネットと社会との関わり ・情報セキュリティ技術	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	オペレーティングシステム	<授業形態>講義 <目標>オペレーティングシステムのための基本的概念と基本的アルゴリズムについて理解させる。オペレーティングシステムの歴史、基本構造、プロセス管理、メモリ管理、入出力管理、ファイルシステムなどについて講義する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・オペレーティングシステムの基礎概念 ・プロセス管理 ・メモリ管理 ・入出力管理 ・ファイルシステム	
専門科目	他学類専門科目	知識情報システムの企画・計画	<授業形態>講義 <目標>組織活動とそれを支える情報システム導入の歴史、経営目的から必要とされる情報システムの機能要件や構成を決定する企画・計画策定に関する知識、プロジェクト管理（工程管理）・品質展開に関連するシステム技術の概要を講義する。さらにケーススタディを用いて企画書を作成する力を養う。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・組織活動と情報 ・経営戦略と情報システム ・インフラストラクチャ計画 ・アプリケーション計画 ・ERP:Enterprise Resource Planning ・サプライチェーンマネジメント ・電子商取引 ・プロジェクト管理技法PERT ・品質展開技法QFD	
専門科目	他学類専門科目	知識情報システムの開発・運営	<授業形態>講義 <目標>情報システムを開発・運営する上で必要となる分析、設計、開発、運営などの各プロセスを、現代の情報システム開発・運営において適用されている代表的な方法論及び技法を通じて習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・構造化分析、オブジェクト指向モデルなどのシステム分析・モデル化手法 ・仕様記述法 ・問題の複雑さや情報システムの品質尺度と評価 ・開発工程とその管理 ・情報システム開発における標準化 ・ソフトウェア保守 ・エンドユーザコンピューティング ・情報システム部門の役割	
専門科目	他学類専門科目	情報システム構成論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、コンピュータシステムやネットワークの集合体である大規模な情報システム構成の基本的な特徴を理解することを目標とする。情報システムには、分散処理や並列処理などのさまざまな処理形態があることを理解させ、その構成要素について講義する。また、情報システムの性能評価手法や評価指標について解説する。さらに、情報システムの信頼性についての基本的な事項について解説する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・情報システムの構成 ・システム性能評価 ・情報システムの信頼性	
専門科目	他学類専門科目	Webサービスデザイン	<授業形態>講義・演習 <目標>本講義ではWebサービスを構成するWebアプリケーションの開発技術について概説する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・Webアプリケーションの仕組み（MVC） ・クライアントサイド技術（ページレイアウト、マルチメディア・リッチコンテンツ） ・サーバサイド技術（システムプログラミング、データベース） ・リッチクライアント技術（XML, DOM, Ajax, RIA） ・Webサービスデザイン（マッシュアップ）	講義 7.5時間 演習 7.5時間
専門科目	他学類専門科目	知識科学概論	<授業形態>講義 <目標>認知科学、言語学、知識の構成原理を議論する哲学などの素養を身につけ、知識の成り立ち、知識創造方法論、ならびに知識を中心においたシステムの基礎理論の習得を目標とする。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・知識とは ・知識創造論 ・エキスパートシステム ・知識表現 ・自然言語処理 ・概念依存関係理論	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	自然言語処理	<授業形態>講義 <目標>人間の言語を計算機的に処理するための理論・技術を扱う自然言語処理の諸分野について講義する。語という小さな単位から文章という大きな単位までの解析法を概観した後、その応用としての機械翻訳などの基本的な手法を紹介し、それらを知識情報システム構築で活用するための基礎を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・チャンキングの技法 ・形態素解析と係り受け解析 ・統語解析 ・意味解析 ・談話解析 ・規則に基づく処理と統計学習に基づく処理 ・機械翻訳 ・対話システム ・自動要約 ・多言語情報処理	
	他学類専門科目	情報技術と企業活動	<授業形態>講義 <目標>情報技術は、企業の生産性、費用、価値、組織改革などに影響を与える。アナログ時代の技術に固執してデジタル化の波に乗り遅れた企業は国際的な地位を下げている。この授業では金融業や製造業やネットビジネスなどの具体的事例や最新の研究成果を紹介し、情報技術をどのように適用すれば企業活動に効果を持ちうるのかを講義する。 <授業計画の概要>具体的には、情報技術、プロセス変革、生産性上昇効果、費用削減効果、企業価値増大効果、雇用効果、組織変革、モジュール化、すり合わせなどについて講義を行う。	
	他学類専門科目	情報システム評価	<授業形態>講義 <目標>情報システムのコスト見積りの精度が低いと、予定以上の開発期間とコストを強いられることになる。CIO(最高情報責任者)が経営者に情報システム導入の必要性を説くためにはその効果を具体的に示す必要がある。実際、経営者が情報システムの効果を実感できていない企業は多い。これは情報システム評価手法が定着していないためである。本講義では情報システムの定量的評価手法と定性的評価手法の概略を学び、各手法の利点と欠点を理解する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・見積手法（ファンクションポイント、COCOMO II, WBS） ・インフォメーションエコノミックス ・バランス・スコアカード ・経済価値評価手法（費用対効果分析, NPV, IRR） ・非財務効果評価手法（AHP, KPI）	
	他学類専門科目	マーケティング	<授業形態>講義 <目標>企業の市場環境に対する適応行動を分析するための理論を修得させる。 <授業計画の概要>企業が適応行動をとるためには消費者行動への深い理解が避けられない。本稿では消費者行動モデルをベースにしたマーケティング理論を講義する。具体的には、マーケティングの考え方、消費者情報処理と知識構造、消費者データの情報処理、マーケティング意思決定、マーケティング戦略、などの基本的な理論を解説し、応用例として、サービスマーケティング、インターネットマーケティングなどを解説する。	
	他学類専門科目	意思決定論	<授業形態>講義 <目標>多くの選択肢から合理的な行動を選択するための意思決定の基礎となる考え方を修得させる。 <授業計画の概要>本講では、主観的な意思をうまく数値化するという観点から意思決定モデルと関連事項を講義する。具体的には、意思決定の基本的考え方、階層的な意思決定、確率とベイズ、ベイズ意思決定、リスクと効用、不確実性のもとでの意思決定とポートフォリオ理論、情報量と集団意思決定などについて説明する。このような考え方を理解することで、意思決定問題に対するアプローチの基本を幅広く理解させる。	
専門科目	他学類専門科目	データマイニング	<授業形態>講義・演習 <目標>統計処理と機械学習のデータマイニング手法の内容やツールの活用方法を学び、それらを実際のデータ分析に適用する技能を習得する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・統計的検定 ・重回帰分析 ・因子分析 ・主成分分析 ・決定木 ・相関ルール ・バスケット分析 ・クラスタリング	講義 10時間 演習 5時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	ゲーム理論	<授業形態>講義 <目標>非協力ゲームを中心に、ゲーム理論の基本概念を講義する。戦略的思考の考え方を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・効用関数と期待効用仮説。 ・純粋戦略と混合戦略。 ・支配戦略均衡、ナッシュ均衡など、戦略形ゲームの解概念。 ・展開型ゲーム ・部分ゲーム完全均衡、完全均衡、逐次均衡等、ナッシュ均衡の精緻化 ・不完備情報ゲームとベイジアン均衡。 ・繰り返しゲーム。 ・進化ゲームの基本概念。	
	他学類専門科目	メカニズムデザイン	<授業形態>講義 <目標>メカニズムデザインの基本的事項と、オークションの理論について講義する。新しい制度を設計するための理論を習得させる。 <授業計画>以下の項目を中心に講義する。 ・ゲーム理論の復習。 ・支配戦略遂行と耐戦略性。 ・無支配戦略遂行と耐戦略性。 ・ナッシュ遂行と連立耐戦略性。 ・VCGメカニズム。 ・オークションと収入同値定理。 ・オークションの応用（架空名義入札、組合せオークション、広告オークション） ・メカニズムデザインと実験経済学	
	他学類専門科目	教育情報学	<授業形態>講義 <目標>教育・学習全般を情報伝達という観点で捉えなおし、その実態を明らかにすると同時に、広くICTを活用した教育・学習ならびにその支援について研究する学問分野である広義的教育情報学の諸分野、諸問題について講義する。それにより、学習や教育を支援するシステムを構築する際の基盤的な考え方を習得し応用できるようにする。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・人間の学習過程～メタ認知、自己調整学習、動機づけなど ・学習方略に対する支援 ・特定の教科内容の教育・学習に対する支援 ・eラーニングを活用した教育	
	他学類専門科目	教育情報システム	<授業形態>講義 <目標>教育情報システムの設計および運用のための専門的な知識および技能を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・人間の学習過程に関する基本的な原理 ・ICTを利用したADDIEモデルに基づくインストラクショナルデザインの基礎 ・eラーニングシステムの特性とユーザ・インタフェース設計技法 ・他のシステムとの関連性および標準化 ・対面授業におけるICTの活用方法 ・実際の運用における学習内容に関する評価法と学習者の到達度評価法	
	他学類専門科目	ヘルスケアサービス	<授業形態>講義 <目標>ヘルスケア専門職との円滑なコミュニケーションができるように、ヘルスケア（保健・医療・福祉）分野に関する一般教養的な知識、保健医療福祉制度、およびヘルスケアサービスに関する基本的知識について開設する。専門用語や法制度、基本的な人体の構造と臓器機能とその病態病理、および国際標準疾患分類の構造などについて開設する。医療倫理、患者の人権・尊厳に関する問題や、ヘルスケアに関わる個人情報の収集、蓄積、伝達、情報開示および利用についてヘルスケア専門職の役割・責務と具体的対処について開設する。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義する。 ・ヘルスケアの基本と社会における役割、わが国のヘルスケアとヘルスケアに関する情報システムの展望。 ・医の倫理、ヘルスケアの評価とは ・ヘルスケアに関する制度 ・医療管理① 病院における診療体系と業務の機能分担 ・医療管理② 病院管理・指標、地域医療連携・遠隔医療 ・医療管理③ 医療安全管理と施設管理 ・医学・看護学① 臨床医学 ・医学・看護学② 臨床看護 ・先進医療 ・臨床検査・医療画像診断 ・医薬品、治療・処置・手術 ・ヘルスケアプロセス（診療プロセス・介護プロセス・診療ガイドライン） ・ヘルスケアに関する記録 ・ヘルスケアに関する統計の基礎 ・疫学統計、ヘルスケアデータの収集と分析	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	ヘルスケアシステム	<授業形態>講義 <目標>我が国における情報化施策の経緯と現状について知り、効果的でかつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供するための情報通信技術の必要性および活用方法について開設する。さらに、現在のヘルスケアに関する利用者のニーズや、抱えている課題（対象者のプライバシーならびに個人情報保護、健康データの一元化と二次利用方法等）に対して、情報化技術の発展を踏まえ、具体的な解決方法や今後の展望について創造できる能力を養う。その上で、ヘルスケア分野で稼働する情報システムの企画立案、開発・運用保守を行うためにヘルスケアシステムに関する実務的な基礎知識や基礎技術力を習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を中心に講義・グループワークを行う。 ・ヘルスケアシステムの特性 ・ヘルスケアシステムの設計条件と安全管理 ・ヘルスケア情報倫理、医療記録の電子化の変遷 ・ヘルスケアシステムの構成と機能・ハードウェアとネットワークの要件 ・ヘルスケアシステムの導入と運用（組織体制・組織間調整、設計から稼働までの手順、仕様書、契約、運用管理、評価と改善、運用管理規定） ・医療・福祉・保健を支えるヘルスケアシステム ・広域のヘルスケアシステム ・ヘルスケア情報の標準化・ヘルスケア支援のための情報分析・評価 ・ヘルスケアシステムの将来 ・グループワーク（現状分析・企画立案、開発・運用・保守案作成）など	共同
	専門科目	異文化の理解	<授業形態>講義 <目標>文化人類学の方法を用い、さまざまな文化の比較を通して、異文化の仕組みを理解させ、またそれとの対照によって自文化の特徴を明らかにさせる。このような文化の比較を通して、自分の身につけた価値観を相対化し、新たなものの見方を獲得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・狩猟採集民や農耕民・牧畜民の自然資源の利用と文化 ・異文化理解とジェンダー ・グローバル化する世界における異文化理解	
	専門科目	他学類専門科目	<授業形態>講義 <目標>生態系や、環境に大きな影響を与える、大気および海洋における物質循環プロセスを講義することにより、対流圏における物質循環にもっとも重要な光の役割、酸化反応プロセスから、個々の環境問題の原因について理解を深めさせる。また、河口付近で起こる現象、海洋上層の光の関与した反応の理解から、海洋汚染問題の原因について考えさせる。さらに、大気と海洋の関わり、海洋と陸域との関わりについて講義することにより、環境問題の本質を理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 地球環境における物質循環を理解するために、まず大気組成、平均滞留時間の考え方、微量気体の濃度と反応、雨による大気の浄化と酸性雨、大気エアロゾル、地球の温暖化問題と成層圏オゾン問題を根本から理解できるように講義する。さらに、大気組成の沈着による岩石圏への影響、岩石圏の化学プロセスと土壌汚染、そこからつながる淡水の湿地、湖における化学プロセス、海洋循環、海の組成と有害物質の生物濃縮、人間活動が変える海水組成、海洋と大気、海洋と陸域の関わりについて講義し、地球全体の物質循環を理解できる講義を行う。	
	専門科目	他学類専門科目	<授業形態>講義 <目標>人間生活にとって関連性の深い都市域や都市周辺地域を対象として、自然環境破壊の現状と、現在表出している問題点や課題について理解を深めさせる。さらに、自然的要因や人文・社会的要因といった環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法について講述し、持続的な発展に資するエコロジカル・プランニングの理論や手法について習得させることにより、課題発掘や問題解決のための基礎的能力を養うことを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・都市域での自然環境問題 ・都市周辺の田園地域での環境問題 ・里山の環境と人の生活 ・環境指標を用いた都市域や周辺地域での環境評価手法 ・エコロジカル・プランニングの理論や手法 ・オーバレイシステムと地理情報システム（GIS）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	公衆衛生学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>永続可能な社会を構築する上で不可欠な、健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学の概論について講義することにより、公衆衛生学の歴史、集団の健康増進と疾病予防、疫学と保健対策について学習させ、社会水準で健康を取り扱う公衆衛生学の考え方および手法について習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・公衆衛生学序論 ・保健統計 ・疫学 ・疾病予防と健康管理 ・主な疾病の予防 ・環境保健	
専門科目	他学類専門科目	公衆衛生学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>健康の維持・増進および疾病予防に貢献する学問である公衆衛生学のうち、国内外で問題となっている感染症、食品衛生および環境衛生に関連するトピックスについて、実例を挙げながら講義を行うことにより、個々のトピックスについて学習させ、原因と対策および今後の課題について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> 以下の項目を講義する。 ・感染症（ウイルス性、細菌性、原虫、寄生虫） ・食中毒（微生物性、化学性、自然毒、アレルギー様） ・地球環境問題（地球温暖化、化学物質汚染、生物の多様性） ・空気、水、土壌の衛生	
専門科目	他学類専門科目	マイノリティと文化システム	<授業形態>講義 <目標>国家的秩序のなかでマイノリティ（少数者）の位置を与えられた者と文化システムの形成について論じる。マイノリティは、一般に例外的存在と見られるが、そうではなく、国家が文化的一元性をめざすかぎり必然的に生みだされ、マジョリティを構成する国民のアイデンティティ形成に不可欠な存在である。マイノリティが、文化のシステムを考えるうえで重要な論点であることを理解させ、文化と国家の関係についての視点を身につけさせることを目指す。 <授業計画の概要>以下の項目をとりあげる。 ・近代国民国家とはなにか。 ・マイノリティと国民国家。 ・マイノリティの文化とナショナル・カルチャー。	
専門科目	他学類専門科目	言語の社会システム	<授業形態>講義 <目標>言語進化論や民族主義的ナショナリズムといった近代国民国家形成と関連する言語思想について、社会システム形成の観点からいかなる特質が存在するのかという点を中心に、個別言語学としての日本語学や、一般言語学の知見をふまえて講義する。多様な側面をもった近代社会システム形成における言語の役割とその意味について、言語思想の史的展開に注目しつつ、言語学において提示された言語観について習得させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・言語思想と社会システムとの関係 ・西洋古代・中世言語思想史 ・近代言語学史 ・日本語研究史と東アジア言語思想史	
専門科目	他学類専門科目	認知科学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>近年の認知心理学と神経科学の発展によって得られた知見を総合して、視覚と聴覚の仕組みについて解説することにより、人間が環境情報を認知する過程について具体的に理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・認知科学の基本的方法論 ・視覚系の仕組み ・形、色、奥行き、運動などの、特徴レベルの視覚的認知過程 ・物体の認知、注意などの高次視覚認知過程 ・意識的処理と無意識的処理 ・聴覚系の仕組み ・音の大きさと高さの認知過程 ・言語音の認知過程 ・ヒト以外の生物による環境情報の認知	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他学類専門科目	認知科学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>認知科学の諸分野の中でも、高次認知の過程について概説した上で、それらの認知過程を支援するための教授法について理解させる。 <授業計画の概要>具体的な計画は次の通りである。 ・作動記憶のモデル ・記憶のモデルと認知過程 ・知識構築とスキーマ ・読解のプロセス ・問題解決と推論 ・メタ認知 ・協調学習とITS	
	他学類専門科目	組織環境と行動	<授業形態>講義 <目標>集団、組織環境における人間の行動について、心理学の知見を基礎として社会心理学、組織心理学の観点から理解するうえで必要な考え方を習得させ、同時に現代の組織の実情についての理解を進める。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・集団の形成と課題遂行 ・組織内のリーダーシップ ・仕事の動機づけと満足 ・人的資源管理と人事評価 ・キャリアと組織文化 ・職務ストレス	
	他学類専門科目	対人環境の認知	<授業形態>講義 <目標>対人環境における人間の認知およびそれに基づく行動に与える他者の影響について基礎となる知識と考え方を習得させ、個人の社会的な行動について、個人特性、個人間の社会的相互作用、社会的状況の観点から理解させる。 <授業計画の概要>以下の項目について主要な研究成果とその理論的展開について講義する。 ・対人認知 ・社会的推論と原因帰属 ・自己と自己概念 ・態度形成と態度変化、説得 ・対人魅力と対人関係	
	他学類専門科目	共生の思想	<授業形態>講義 <目標>近代化の進展とともに、人びとは自然および社会環境の根本的な変容を経験することになった。この講義では、そのさい発生したさまざまな問題を確認し、その統御の技術がどのように構想され、実行に移されたかを具体的な事例をもとに検討する。そのさい思想と現実との相互作用に注目しつつ、その媒介となる技術および社会制度についての特性を理解し、人間が共生することの意味を考察する。 <授業計画の概要>以下の項目を講義する。 ・都市の拡大と社会問題 ・人口と権力 ・生命の管理と統治	